

千葉県地方創生に係るアンケート

結果概要

令和6年3月
千葉県

I 調査概要

1. 調査の目的

本県における地方創生の着実な実現のためには、特に若い世代に居住地として選ばれることが重要であり、就職や結婚・出産・子育て、住まい等に関する希望をかなえる環境の整備などを進めることが重要である。

そのため、今後の本県の各種施策をより効果的に実施していくため、県内の高等学校生や、大学生・短期大学生を対象として、意識調査（アンケート）を実施する。

2. 調査の設計

- (1) 調査対象：千葉県内の高校・大学・短期大学 34 校（図 1 参照）の生徒
- (2) 調査方法：電子アンケートで回答
- (3) 調査期間：令和 5 年 7 月 1 日 ～ 7 月 31 日
- (4) 回答状況：3,534 人（高校生 3,051 人、大学生・短期大学生 483 人）

3. 調査項目

- (1) 進路に関する希望について（高校生のみ）
- (2) 将来の就業に関する希望について
- (3) 将来の居住地の希望について
- (4) 地域の魅力について

4. 集計方法

- (1) 集計は小数第 2 位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても 100% にならず、1%の範囲で増減することがある。
- (2) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数 n として算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると 100%を超えることがある。

図1 <アンケートを配布した学校名及び回答者数>

		学校名	種別	学区	学年	回答者数
県立高等学校	1	千葉	高等学校	第1学区	2	57
	2	千葉商業	高等学校	第1学区	2	30
	3	千葉南	高等学校	第1学区	2	279
	4	船橋	高等学校	第2学区	2	148
	5	市川工業	高等学校	第2学区	2	76
	6	松戸国際	高等学校	第2学区	2	275
	7	東葛飾	高等学校	第3学区	2	253
	8	清水	高等学校	第3学区	2	62
	9	鎌ヶ谷	高等学校	第3学区	2	53
	10	佐倉	高等学校	第4学区	2	79
	11	八街	高等学校	第4学区	2	46
	12	佐原	高等学校	第5学区	2	64
	13	東総工業	高等学校	第5学区	2	101
	14	成東	高等学校	第6学区	2	17
	15	東金商業	高等学校	第6学区	2	98
	16	長生	高等学校	第7学区	2	213
	17	一宮商業	高等学校	第7学区	2	103
	18	安房拓心	高等学校	第8学区	2	81
	19	安房	高等学校	第8学区	2	218
	20	君津商業	高等学校	第9学区	2	19
	21	木更津	高等学校	第9学区	2	76
私立高等学校	22	渋谷教育学園幕張	高等学校	—	2	29
	23	市川	高等学校	—	2	21
	24	芝浦工業大学柏	高等学校	—	2	97
	25	成田	高等学校	—	2	16
	26	敬愛大学八日市場	高等学校	—	2	19
	27	横芝敬愛	高等学校	—	2	19
	28	茂原北陵	高等学校	—	2	146
	29	千葉県安房西	高等学校	—	2	58
	30	東海大学付属市原望洋	高等学校	—	2	296
短期大学・大学	31	城西国際	大学	—	—	111
	32	千葉	大学	—	—	253
	33	千葉敬愛	短期大学	—	1・2	66
	34	千葉工業	大学	—	—	53

図2 <県立高校全日制普通科の通学区域>



5. 回答者の属性

(1) 性別

図 3-1 <性別：高校生>

	回答数	構成比
男性	1,598	52.4%
女性	1,356	44.4%
答えたくない	97	3.2%
合計	3,051	

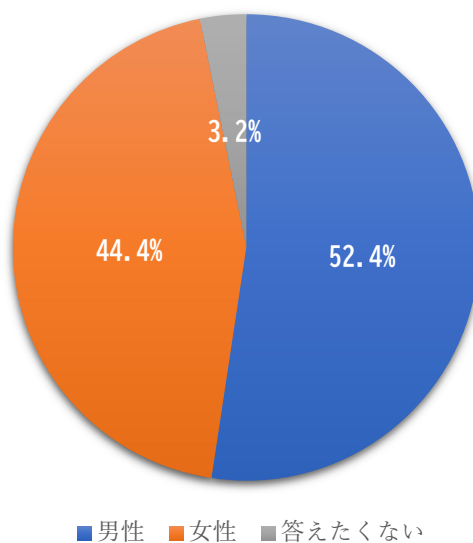
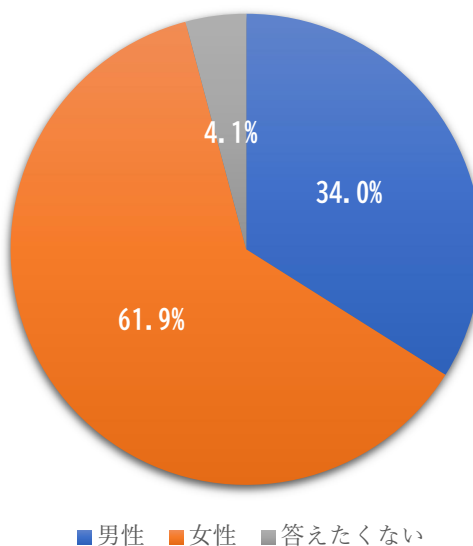


図 3-2 <性別：大学生等>

	回答数	構成比
男性	164	34.0%
女性	299	61.9%
答えたくない	20	4.1%
合計	483	



(2) 出身地

図 4-1 <出身地：高校生>

	回答数	構成比
県内	2,722	89.2%
県外	329	10.8%
合計	3,051	

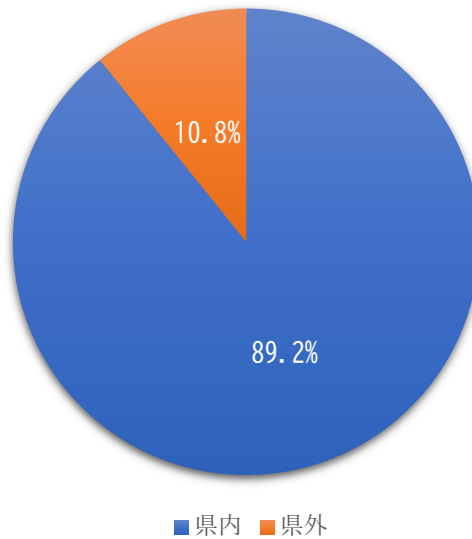
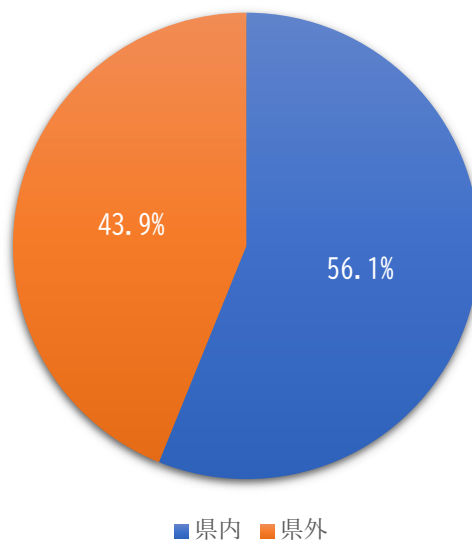


図 4-2 <出身地：大学生等>

	回答数	構成比
県内	271	56.1%
県外	212	43.9%
合計	483	



(3) 現在の居住地

図 5-1 <現在の居住地：高校生（n=3,051）>

千葉市	431	14.1%
銚子市	18	0.6%
市川市	84	2.8%
船橋市	188	6.2%
館山市	159	5.2%
木更津市	49	1.6%
松戸市	185	6.1%
野田市	41	1.3%
茂原市	167	5.5%
成田市	40	1.3%
佐倉市	33	1.1%
東金市	85	2.8%
旭市	71	2.3%
習志野市	58	1.9%
柏市	158	5.2%
勝浦市	16	0.5%
市原市	215	7.0%
流山市	62	2.0%
八千代市	37	1.2%
我孫子市	39	1.3%
鴨川市	59	1.9%
鎌ヶ谷市	45	1.5%
君津市	35	1.1%
富津市	10	0.3%
浦安市	33	1.1%
四街道市	19	0.6%
袖ヶ浦市	23	0.8%
八街市	33	1.1%
印西市	51	1.7%
白井市	28	0.9%
富里市	11	0.4%
南房総市	119	3.9%
匝瑳市	29	1.0%
香取市	21	0.7%
山武市	41	1.3%
いすみ市	48	1.6%
大網白里市	61	2.0%
酒々井町	5	0.2%
栄町	1	0.0%
神崎町	4	0.1%
多古町	2	0.1%
東庄町	5	0.2%
九十九里町	18	0.6%
芝山町	1	0.0%
横芝光町	21	0.7%
一宮町	31	1.0%
睦沢町	11	0.4%
長生村	19	0.6%
白子町	13	0.4%
長柄町	10	0.3%
長南町	14	0.5%
大多喜町	3	0.1%
御宿町	7	0.2%
鋸南町	14	0.5%
東京都(23区内)	18	0.6%
東京都(その他)・神奈川県・埼玉県	9	0.3%
その他	43	1.4%

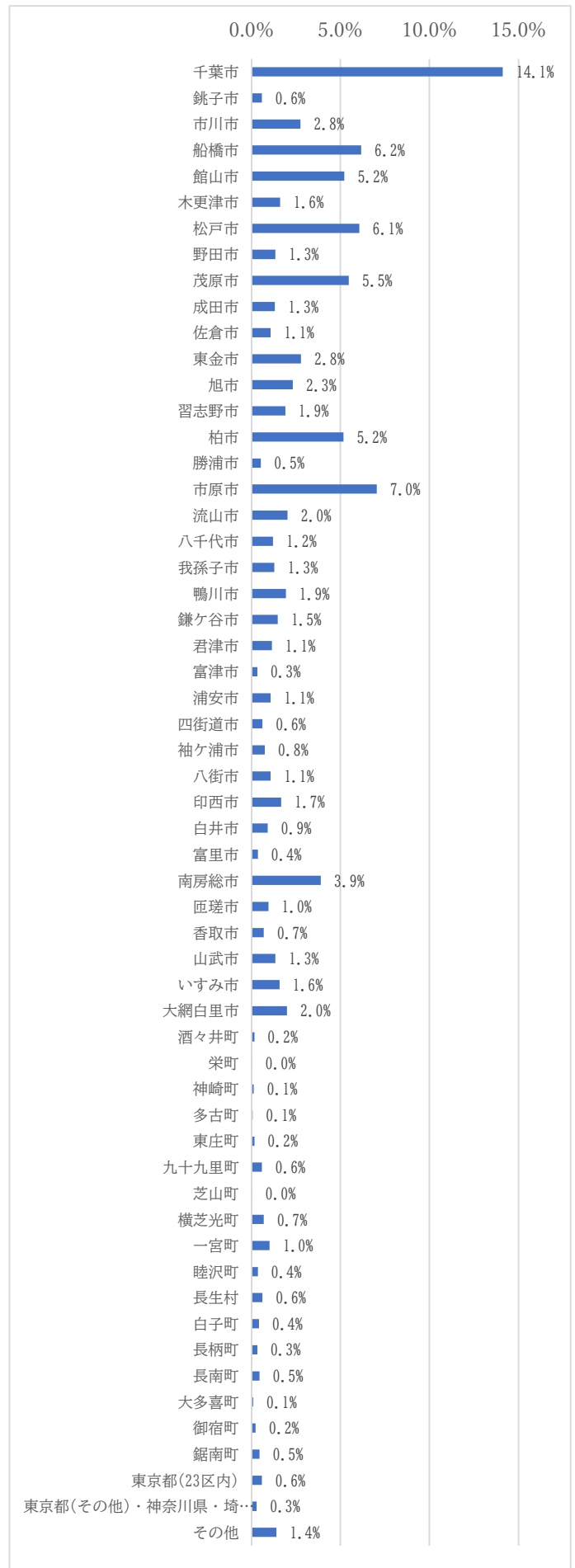


図 5-2 <現在の居住地：大学生等（n=483）>

千葉市	157	32.5%
銚子市	4	0.8%
市川市	14	2.9%
船橋市	34	7.0%
館山市	0	0.0%
木更津市	6	1.2%
松戸市	13	2.7%
野田市	1	0.2%
茂原市	7	1.4%
成田市	9	1.9%
佐倉市	14	2.9%
東金市	39	8.1%
旭市	6	1.2%
習志野市	10	2.1%
柏市	5	1.0%
勝浦市	0	0.0%
市原市	10	2.1%
流山市	2	0.4%
八千代市	4	0.8%
我孫子市	0	0.0%
鴨川市	1	0.2%
鎌ヶ谷市	2	0.4%
君津市	1	0.2%
富津市	0	0.0%
浦安市	3	0.6%
四街道市	12	2.5%
袖ヶ浦市	4	0.8%
八街市	7	1.4%
印西市	3	0.6%
白井市	2	0.4%
富里市	4	0.8%
南房総市	0	0.0%
匝瑳市	9	1.9%
香取市	4	0.8%
山武市	7	1.4%
いすみ市	2	0.4%
大網白里市	5	1.0%
酒々井町	2	0.4%
栄町	1	0.2%
神崎町	2	0.4%
多古町	1	0.2%
東庄町	3	0.6%
九十九里町	0	0.0%
芝山町	0	0.0%
横芝光町	3	0.6%
一宮町	3	0.6%
睦沢町	0	0.0%
長生村	1	0.2%
白子町	0	0.0%
長柄町	0	0.0%
長南町	0	0.0%
大多喜町	0	0.0%
御宿町	1	0.2%
鋸南町	0	0.0%
東京都(23区内)	32	6.6%
東京都(その他)・神奈川県・埼玉県	22	4.6%
その他	11	2.3%

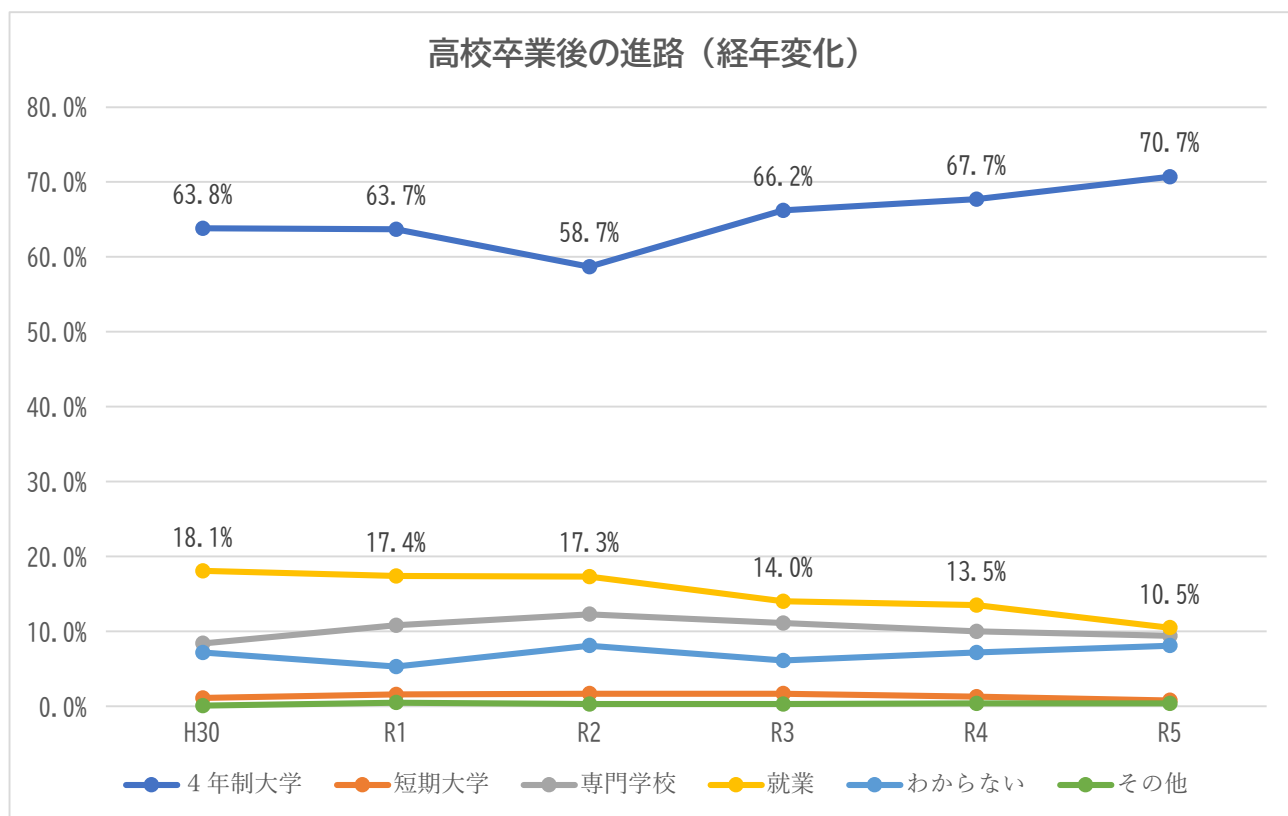
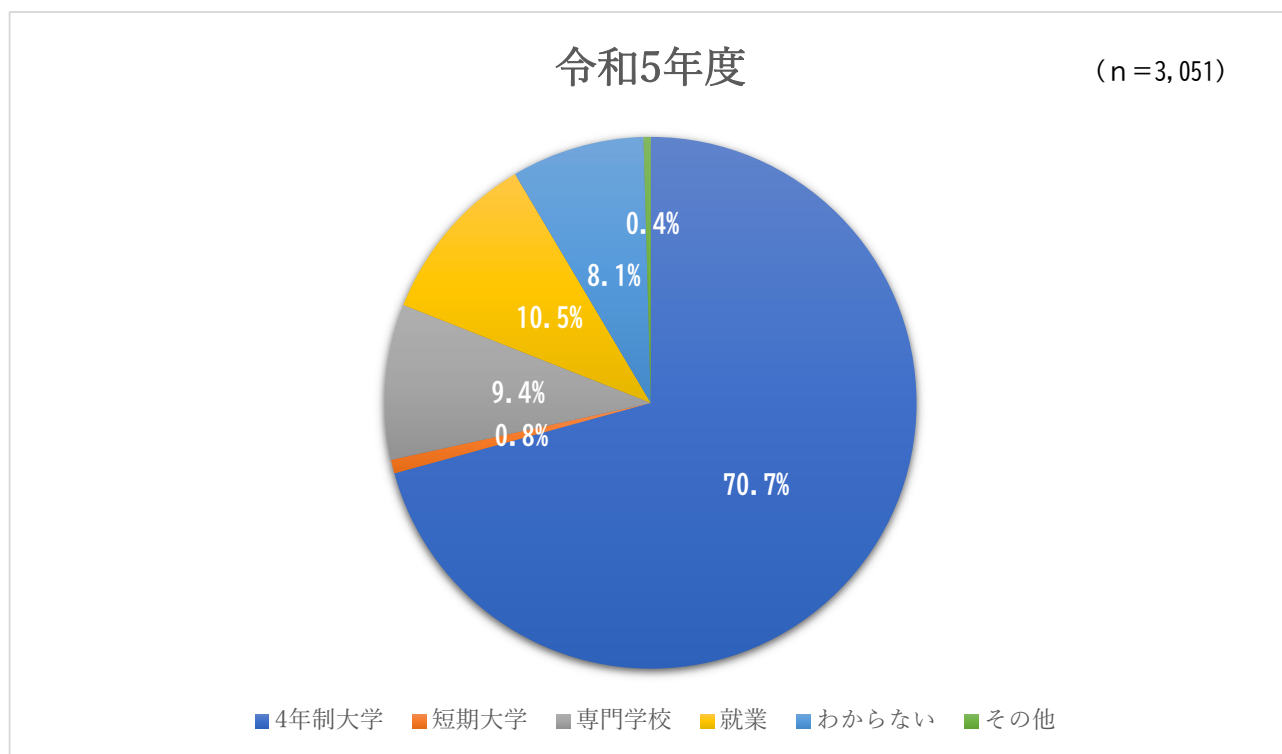


Ⅱ 調査結果（高校生対象）

1. 進路に関する希望について

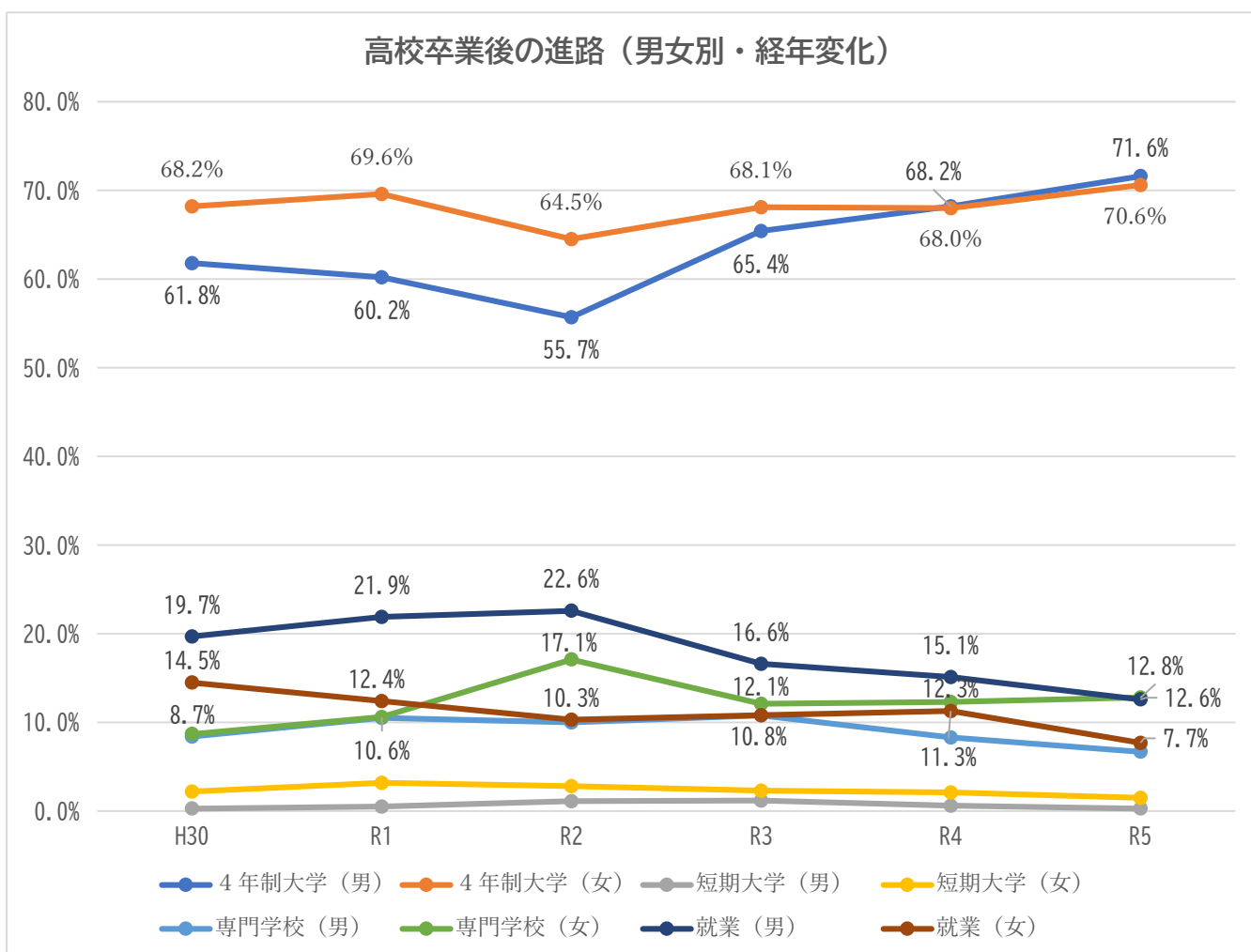
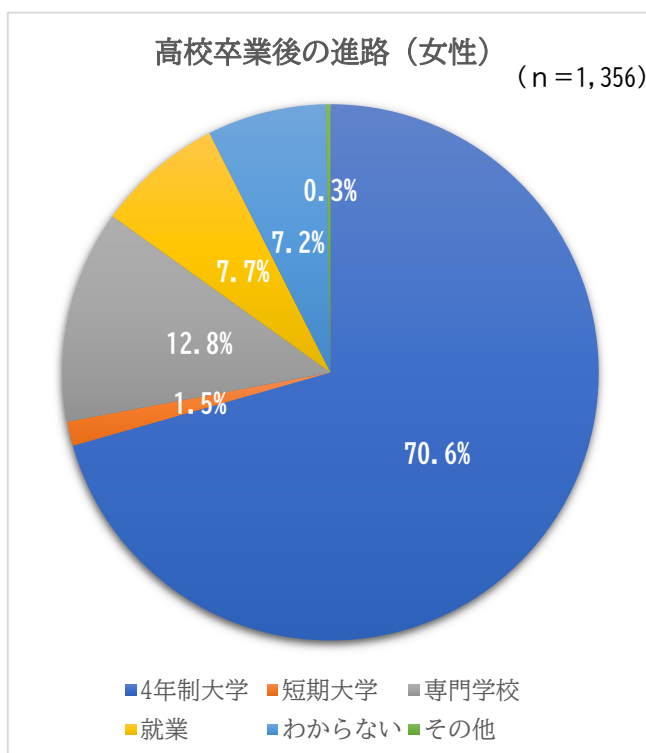
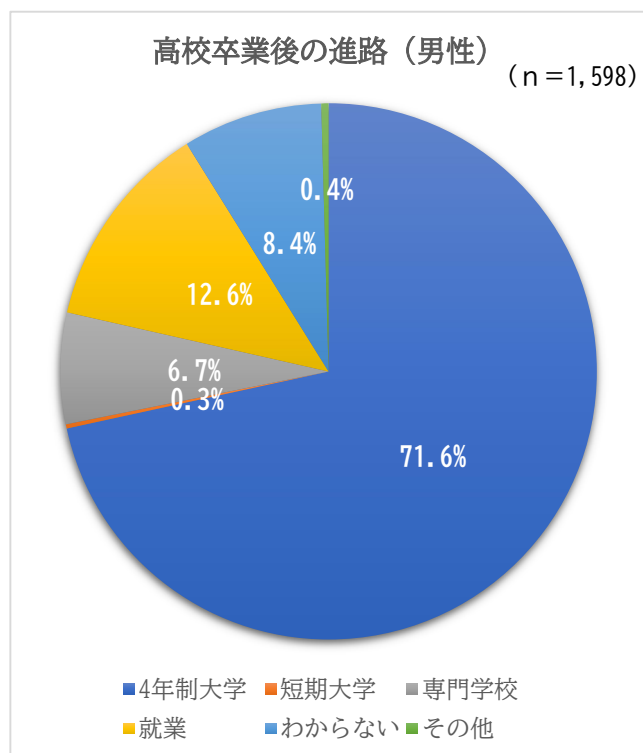
（1）高校卒業後の進路に関する現在の希望

高校卒業後の進路は、4 年制大学が 70.7%と最も高くなっており、昨年度と比較して 3 ポイント増加し、7 割を超えた。一方で、就業は昨年度よりも 3 ポイント低下し、10.5% となっており、就業を希望する高校生は年々低下している。



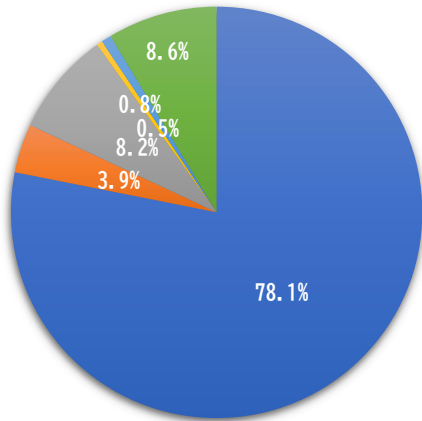
男女別に見ると、男女共に「4 年制大学」を選択する割合が増加している一方、「就業」を選択する割合は減少している。また、女性では「専門学校」を選択する割合が昨年度と比べ微増している。

地域別に見ると、全体的な傾向として、東京に近い千葉県北西部に行くほど 4 年制大学の割合が高く、東京に遠い地方は就業、専門学校が多い。



(n = 646)

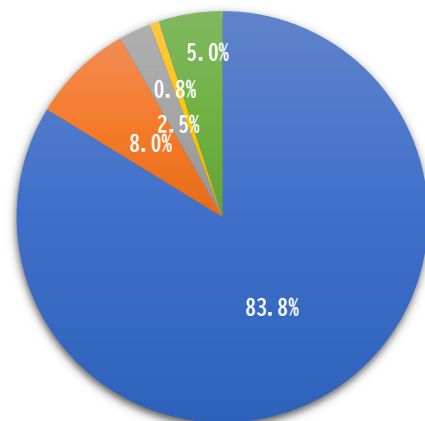
千葉地域



■ 4年制大学 ■ 就業 ■ 専門学校
■ 短期大学 ■ その他 ■ わからない

(n = 400)

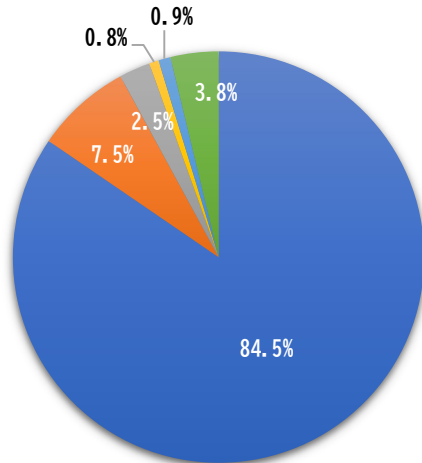
葛南地域



■ 4年制大学 ■ 就業 ■ 専門学校
■ 短期大学 ■ その他 ■ わからない

(n = 530)

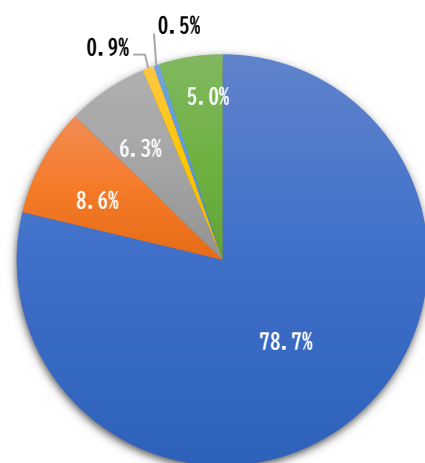
東葛飾地域



■ 4年制大学 ■ 就業 ■ 専門学校
■ 短期大学 ■ その他 ■ わからない

(n = 221)

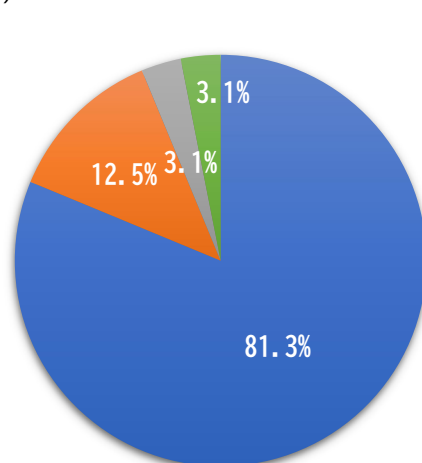
印旛地域



■ 4年制大学 ■ 就業 ■ 専門学校
■ 短期大学 ■ その他 ■ わからない

(n = 32)

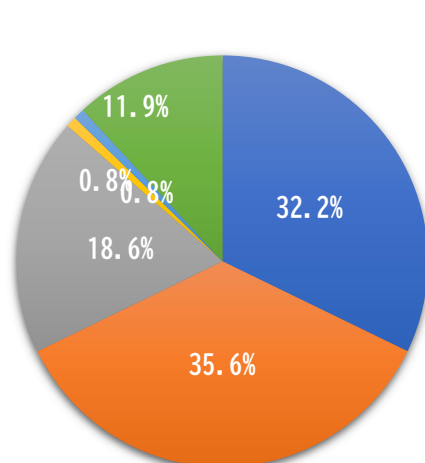
香取地域



■ 4年制大学 ■ 就業 ■ 専門学校
■ 短期大学 ■ その他 ■ わからない

(n = 118)

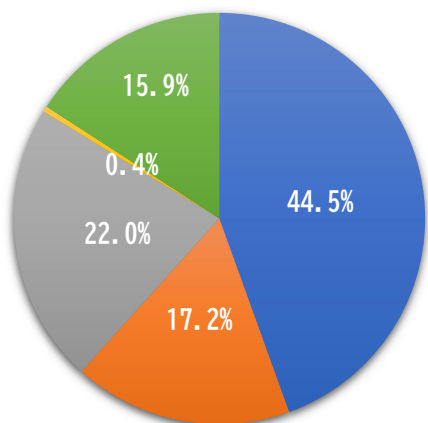
海匝地域



■ 4年制大学 ■ 就業 ■ 専門学校
■ 短期大学 ■ その他 ■ わからない

(n = 227)

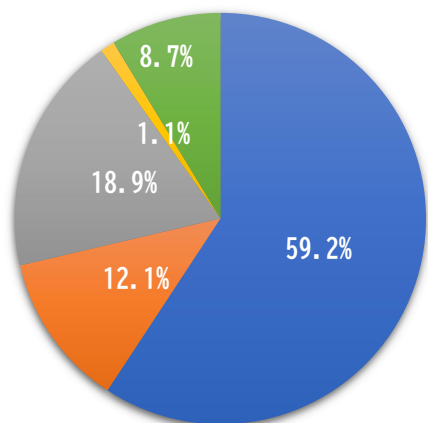
山武地域



■ 4年制大学 ■ 就業 ■ 専門学校
■ 短期大学 ■ その他 ■ わからない

(n = 265)

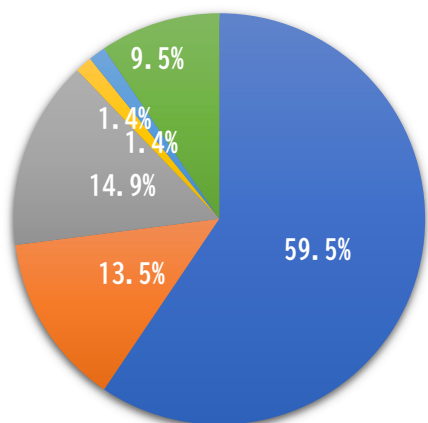
長生地域



■ 4年制大学 ■ 就業 ■ 専門学校
■ 短期大学 ■ その他 ■ わからない

(n = 74)

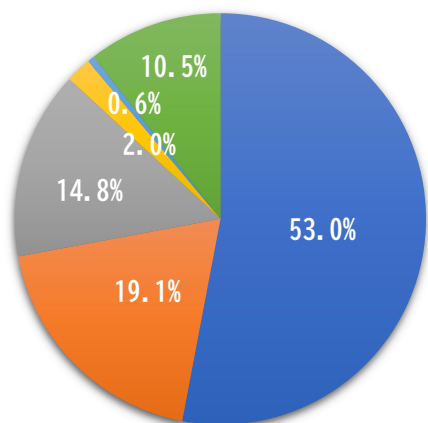
夷隅地域



■ 4年制大学 ■ 就業 ■ 専門学校
■ 短期大学 ■ その他 ■ わからない

(n = 351)

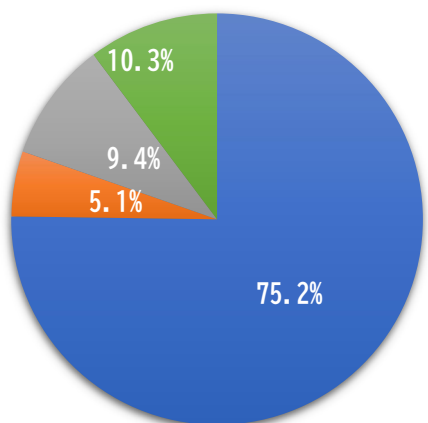
安房地域



■ 4年制大学 ■ 就業 ■ 専門学校
■ 短期大学 ■ その他 ■ わからない

(n = 117)

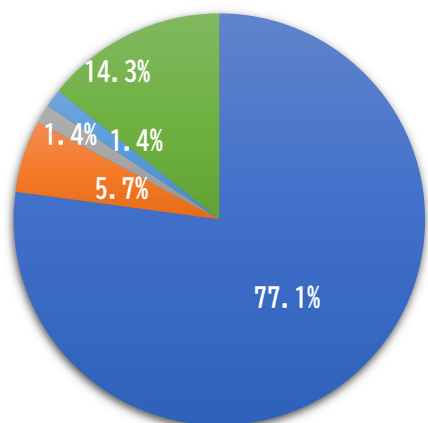
君津地域



■ 4年制大学 ■ 就業 ■ 専門学校
■ 短期大学 ■ その他 ■ わからない

(n = 70)

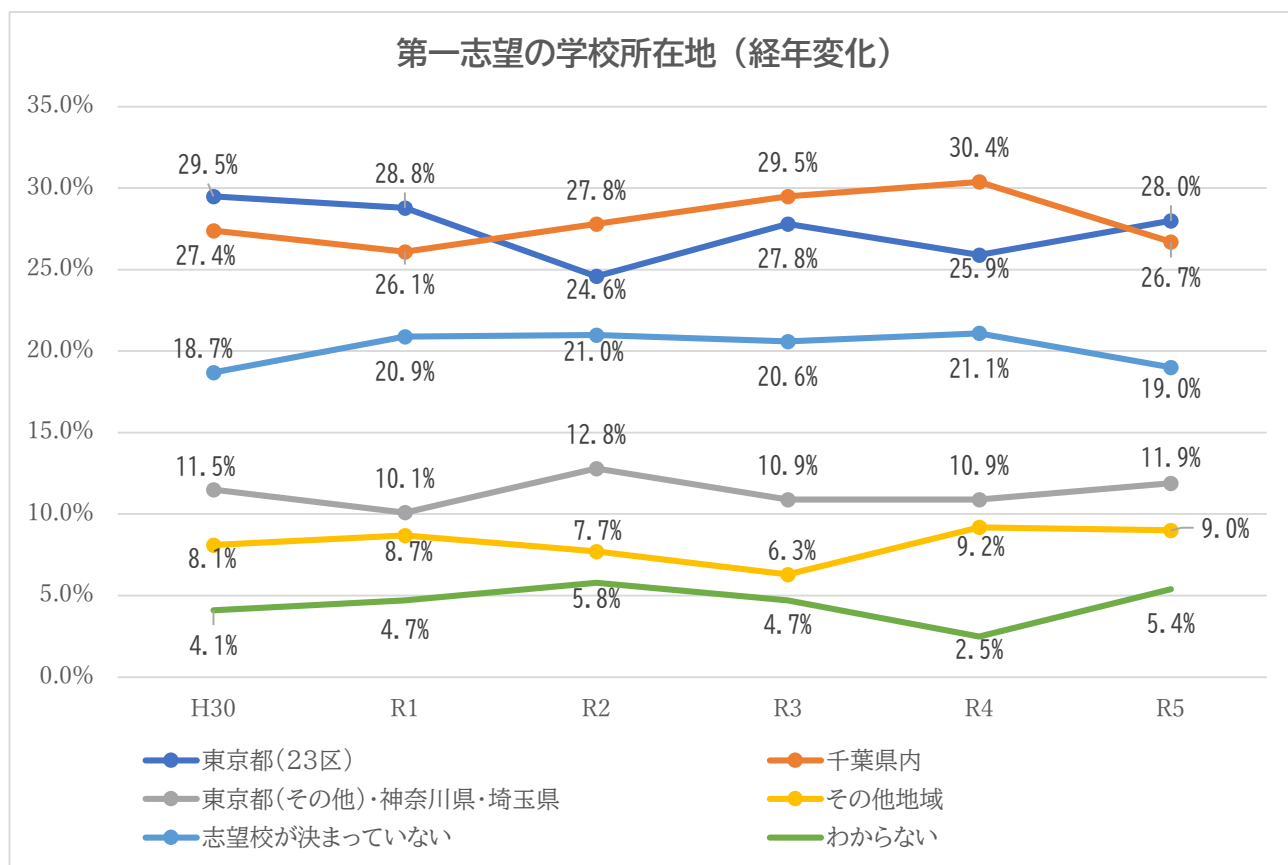
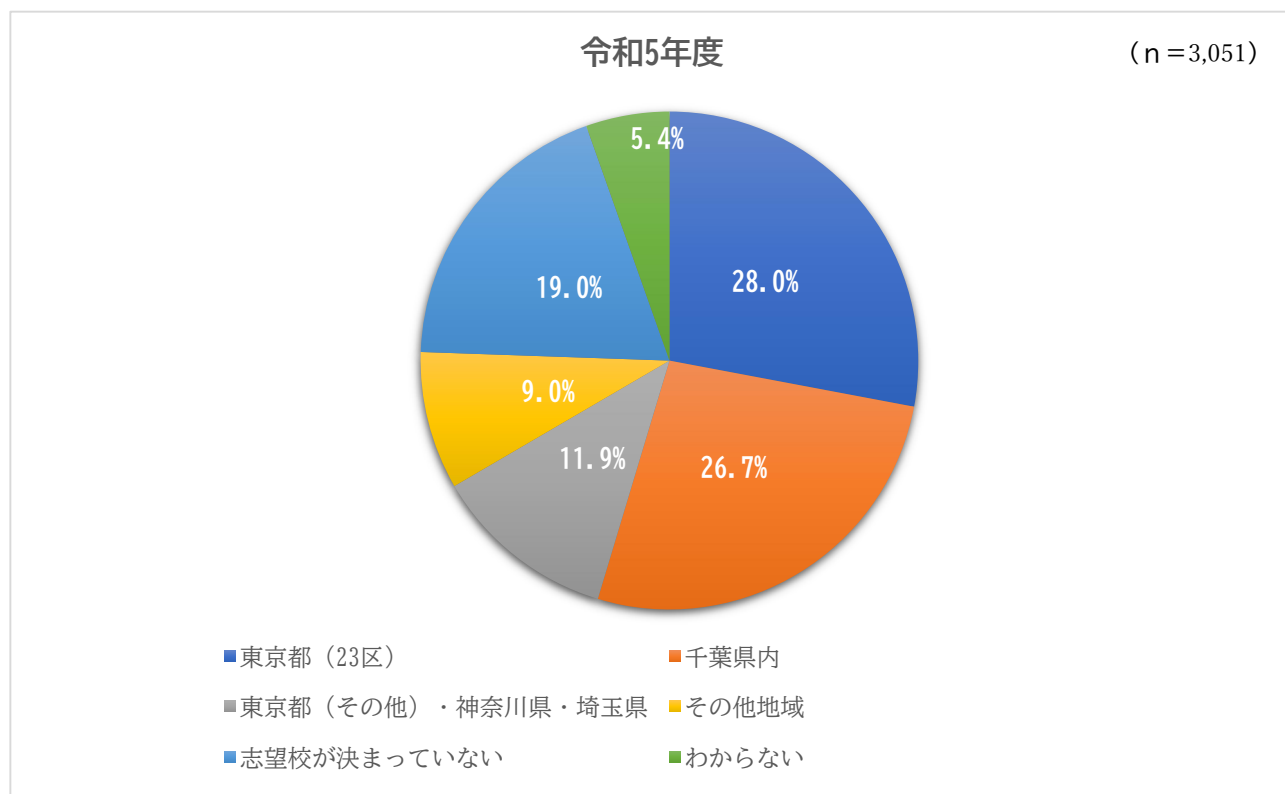
県外等地域



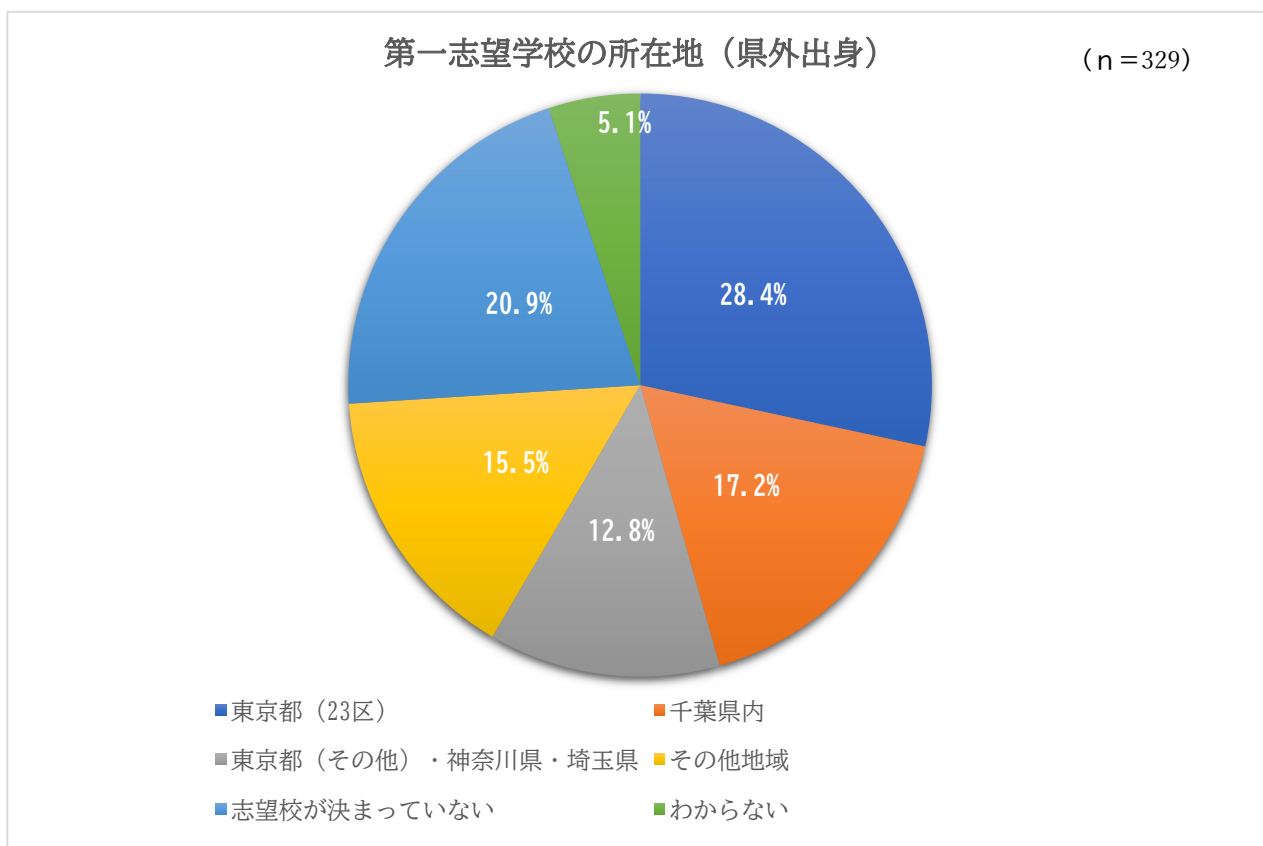
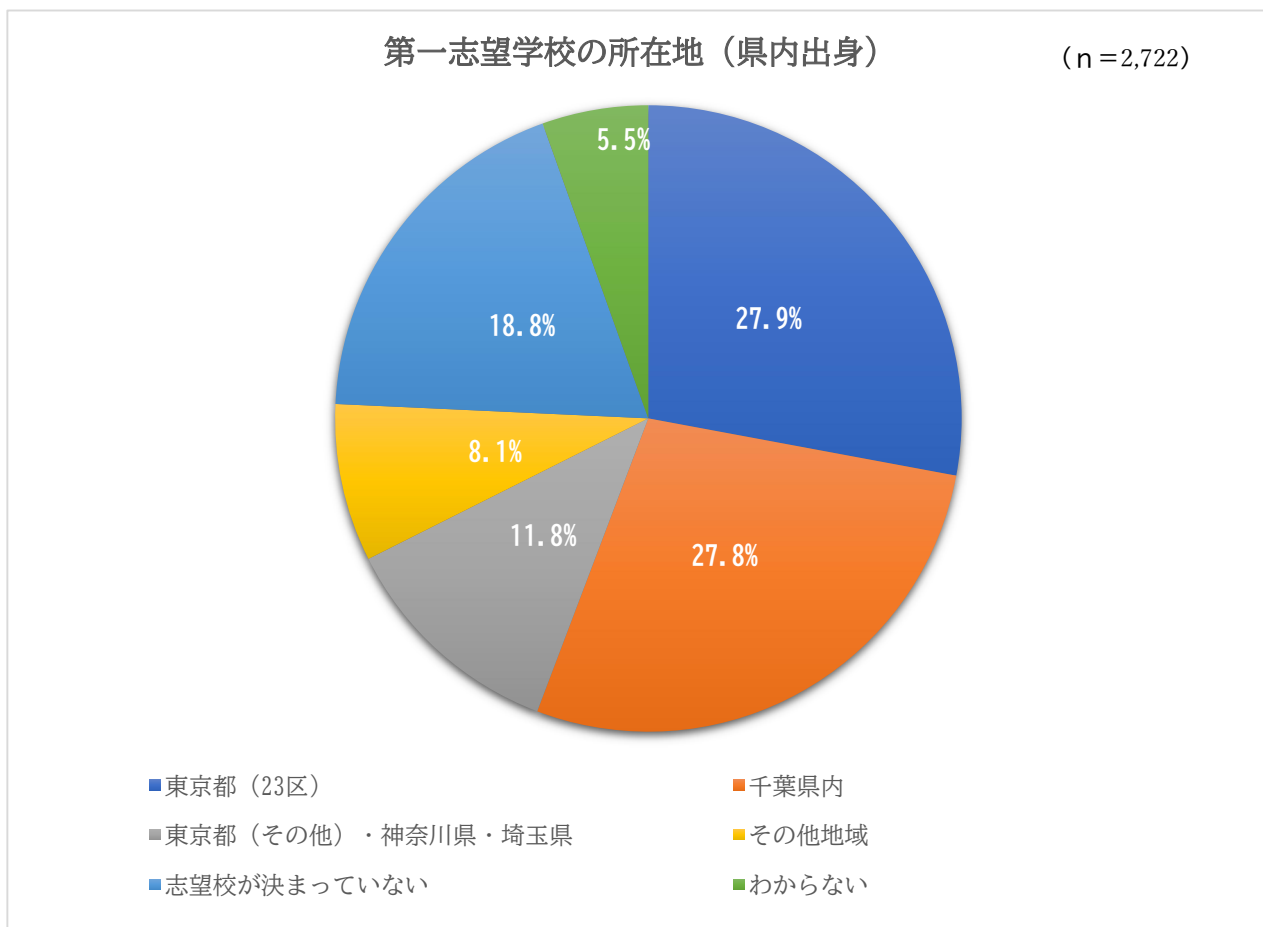
■ 4年制大学 ■ 就業 ■ 専門学校
■ 短期大学 ■ その他 ■ わからない

(2) 第一志望の学校の所在地

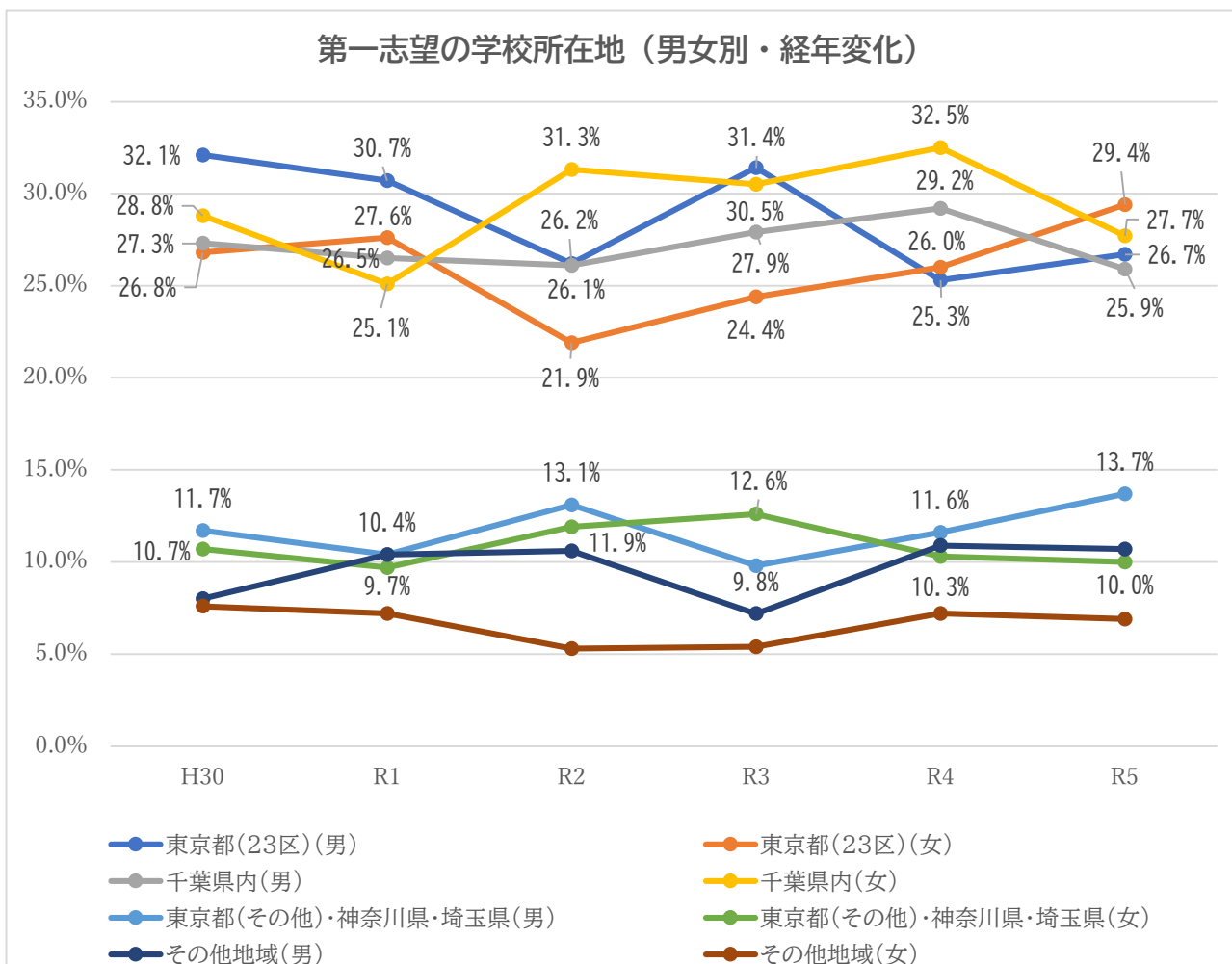
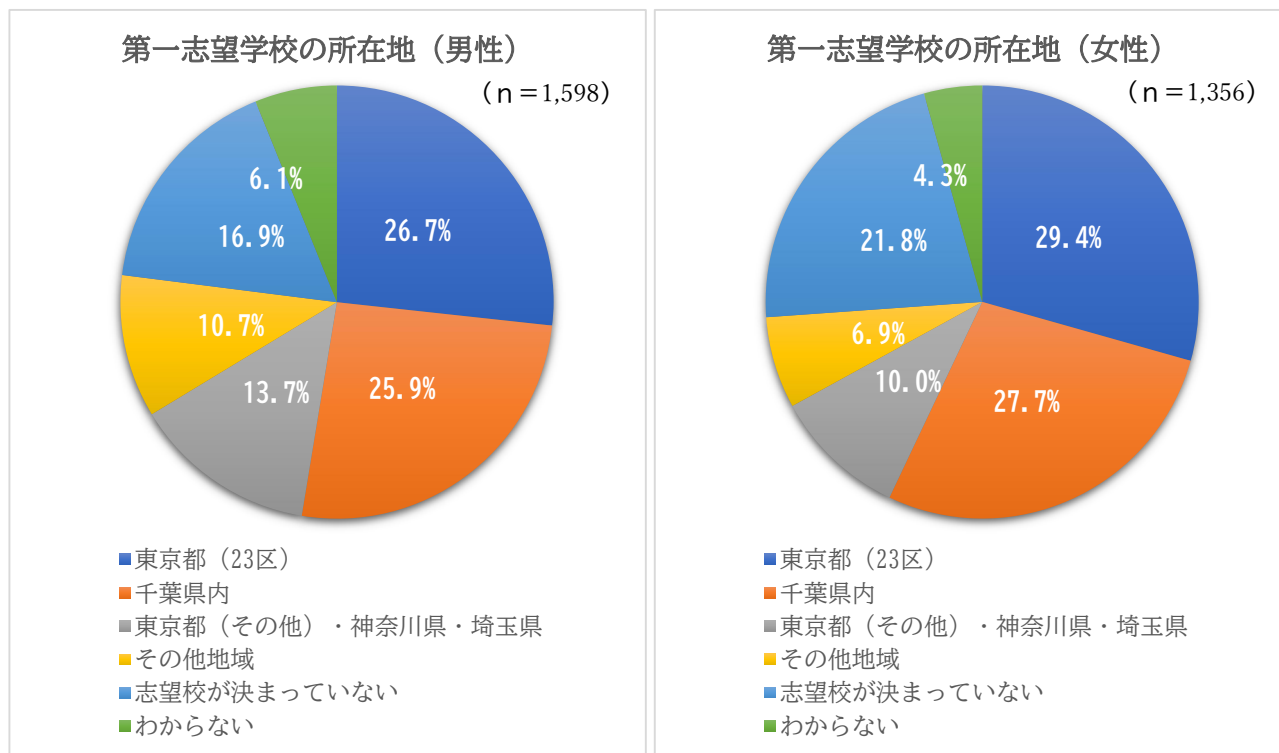
第一志望の学校の所在地は、「東京都（23区）」が28.0%と昨年度よりも2.1ポイント上がり、1位となった。一方で、昨年度1位だった「千葉県内」は昨年度よりも3.7ポイント減の26.7%で2位となった。



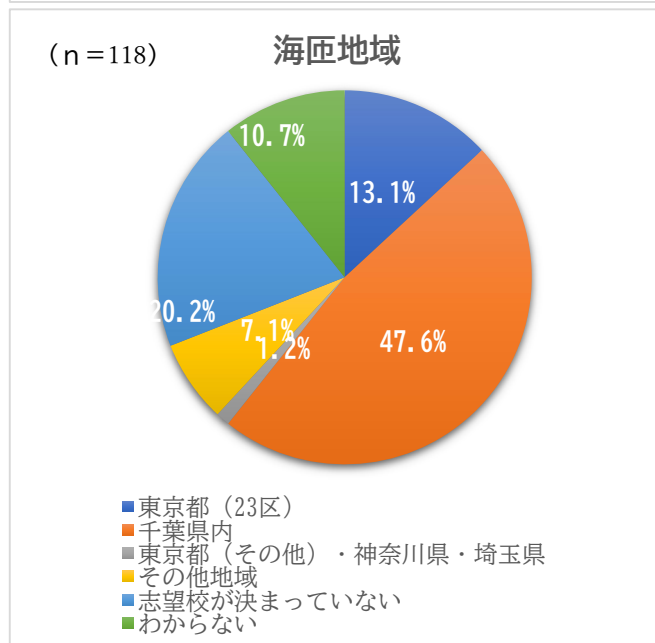
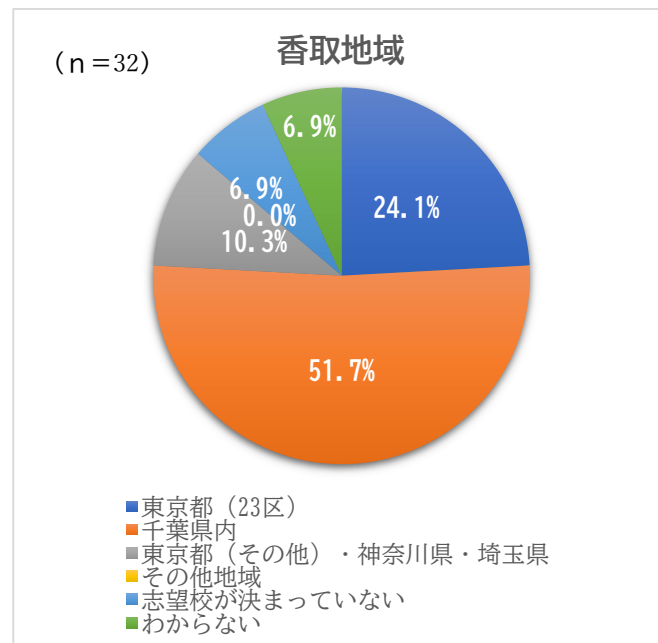
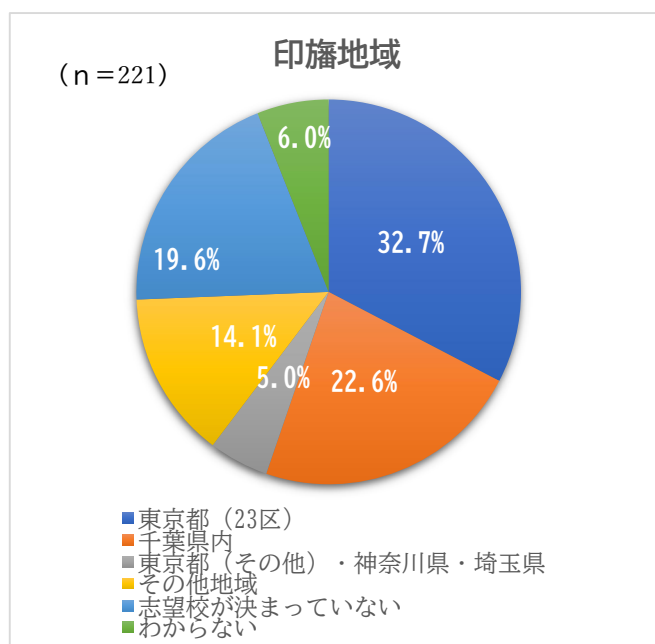
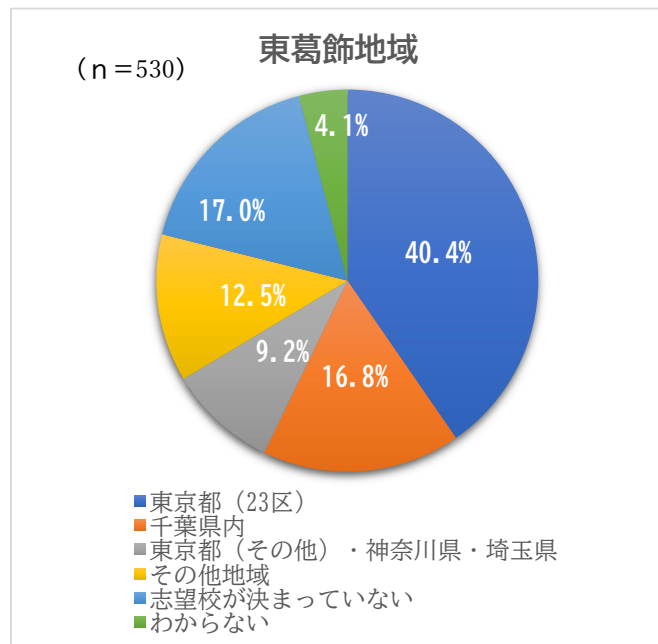
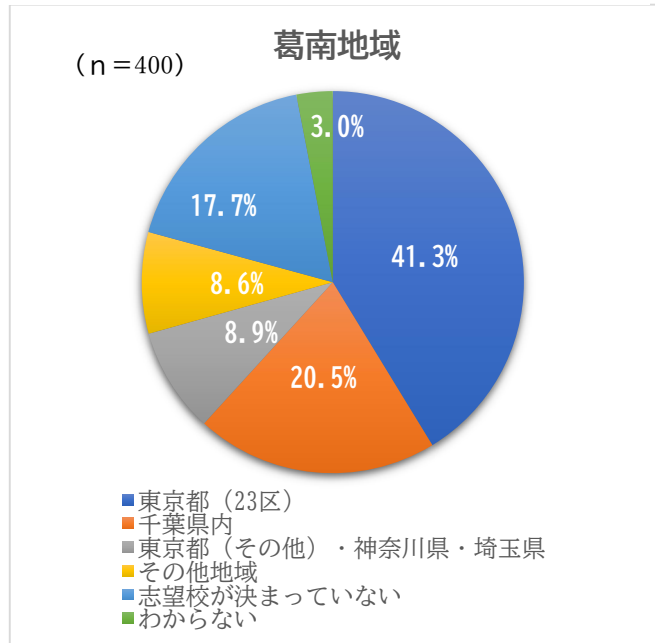
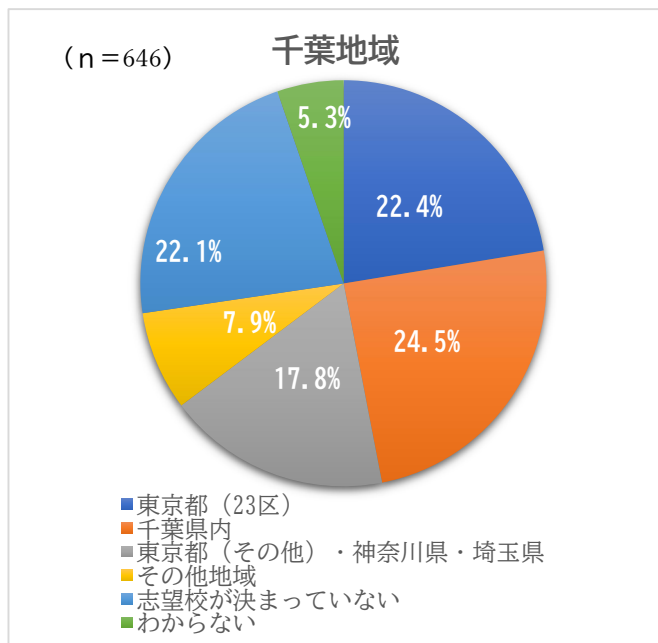
出身地別の傾向を見ると、県外出身者は「千葉県内」を志望校とする人の割合が低くなっている一方、「志望校が決まっていない」や「その他地域」の割合が高くなっている。



男女別に見ると、女性の方が「東京都（23区）」や「志望校が決まっていない」を選択する割合が多くなっている。また、経年変化を見ると、新型コロナウイルスが感染拡大した令和2年に大きく上昇した「千葉県内」を選択した女性の割合が、令和5年には4.8ポイント減と大きく減少している。

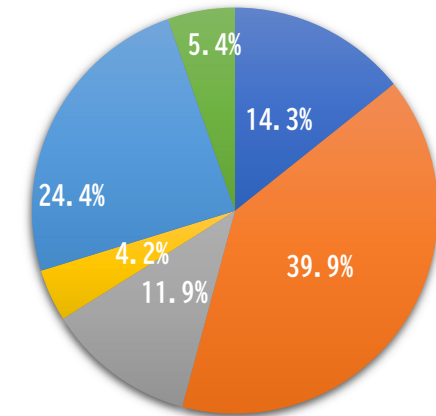


地域別に見ると、東京に近い地域ほど「東京都（23区）」を選択する割合が多くなる一方、遠い地域は千葉県内が多くなっている。



(n=227)

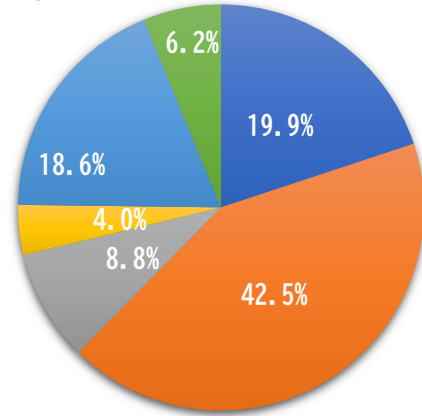
山武地域



- 東京都 (23区)
- 千葉県内
- 東京都 (その他)・神奈川県・埼玉県
- その他地域
- 志望校が決まっている
- わからない

(n=265)

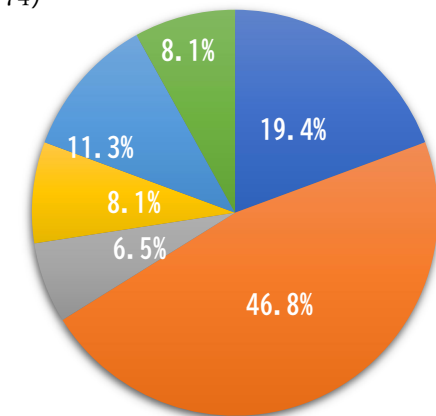
長生地域



- 東京都 (23区)
- 千葉県内
- 東京都 (その他)・神奈川県・埼玉県
- その他地域
- 志望校が決まっている
- わからない

(n=74)

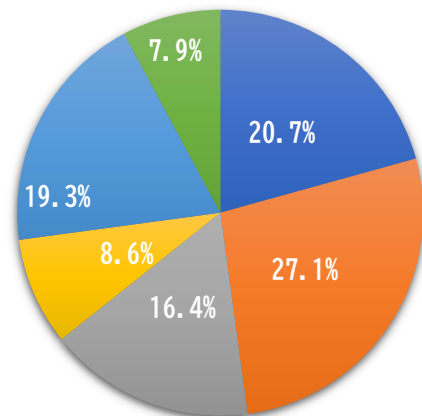
夷隅地域



- 東京都 (23区)
- 千葉県内
- 東京都 (その他)・神奈川県・埼玉県
- その他地域
- 志望校が決まっている
- わからない

(n=351)

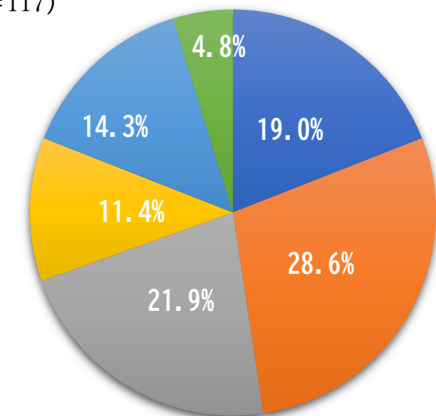
安房地域



- 東京都 (23区)
- 千葉県内
- 東京都 (その他)・神奈川県・埼玉県
- その他地域
- 志望校が決まっている
- わからない

(n=117)

君津地域



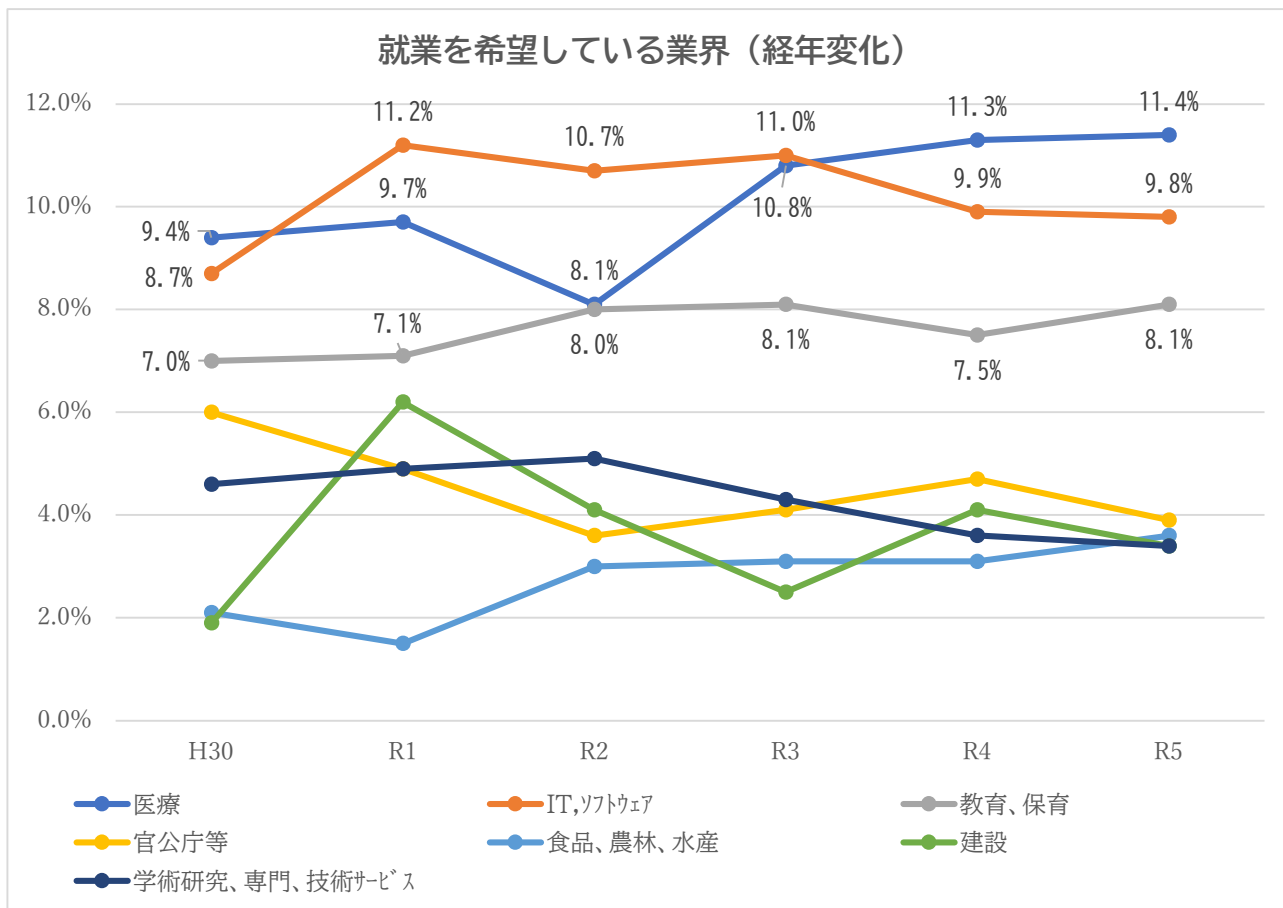
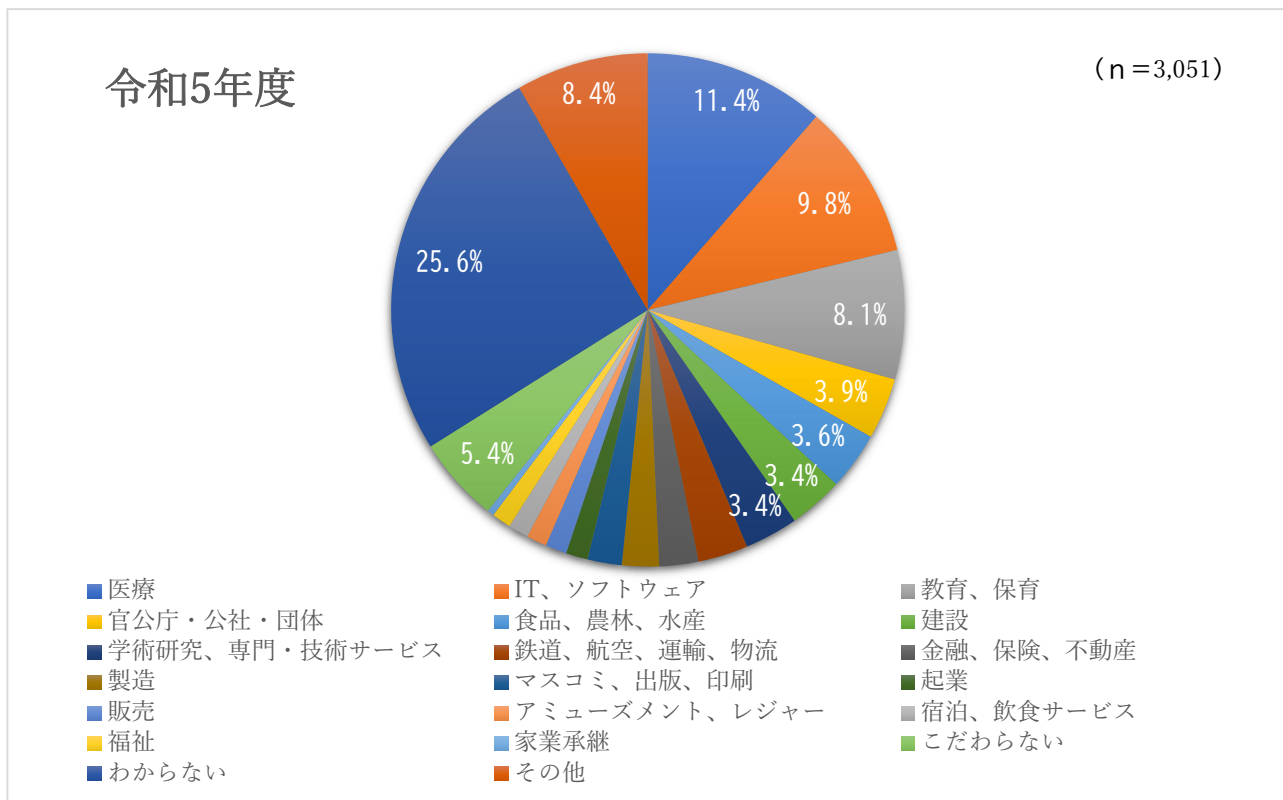
- 東京都 (23区)
- 千葉県内
- 東京都 (その他)・神奈川県・埼玉県
- その他地域
- 志望校が決まっている
- わからない

2. 将来の就業に関する希望について

(1) 就業を希望している業界

高校生が就業を希望している業界は「医療」、「IT、ソフトウェア」、「教育、保育」の順になっており、昨年度と変わっていない。

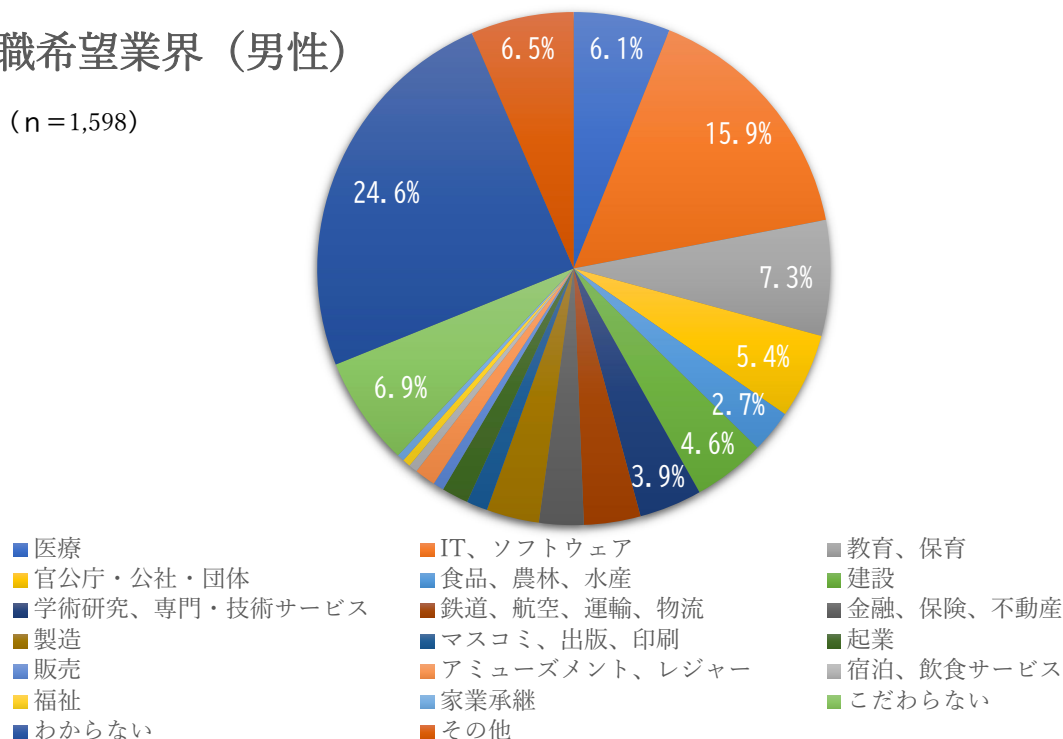
また、項目ごとの割合についても、昨年度と大きな変化がない。



男女別にみると、女性は「医療」が多い一方で、「IT、ソフトウェア」が極端に少なくなっている。男性は「IT、ソフトウェア」が多くなっており、また、「官公庁・公社・団体」についても女性よりも多くなっている。

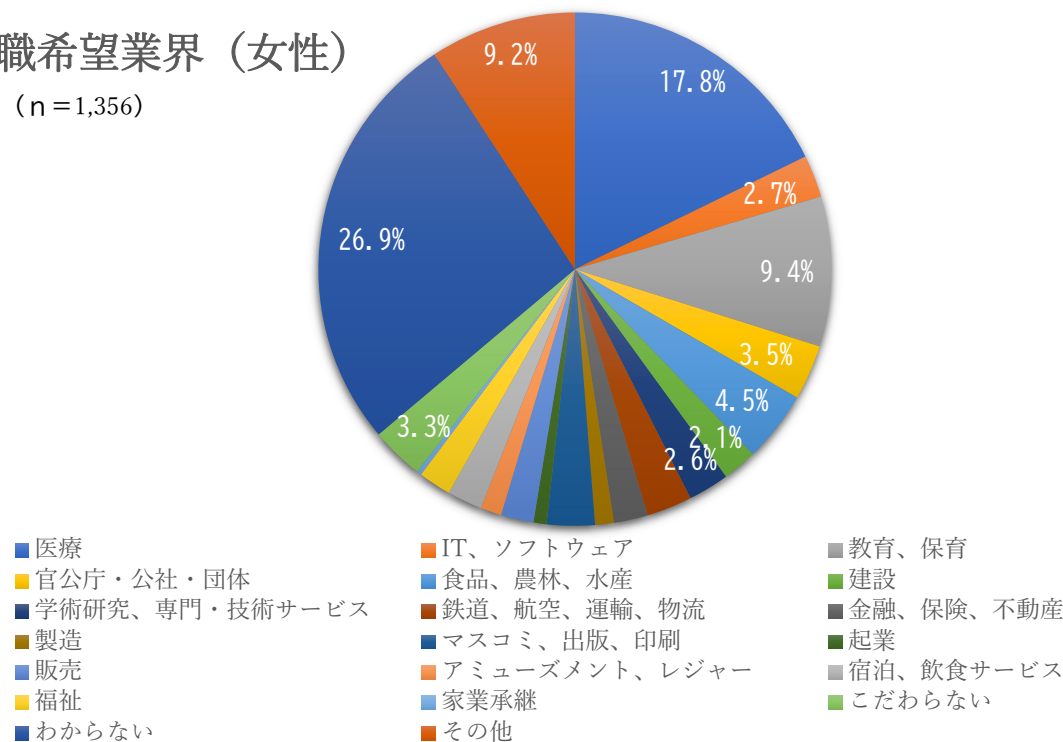
就職希望業界（男性）

(n=1,598)



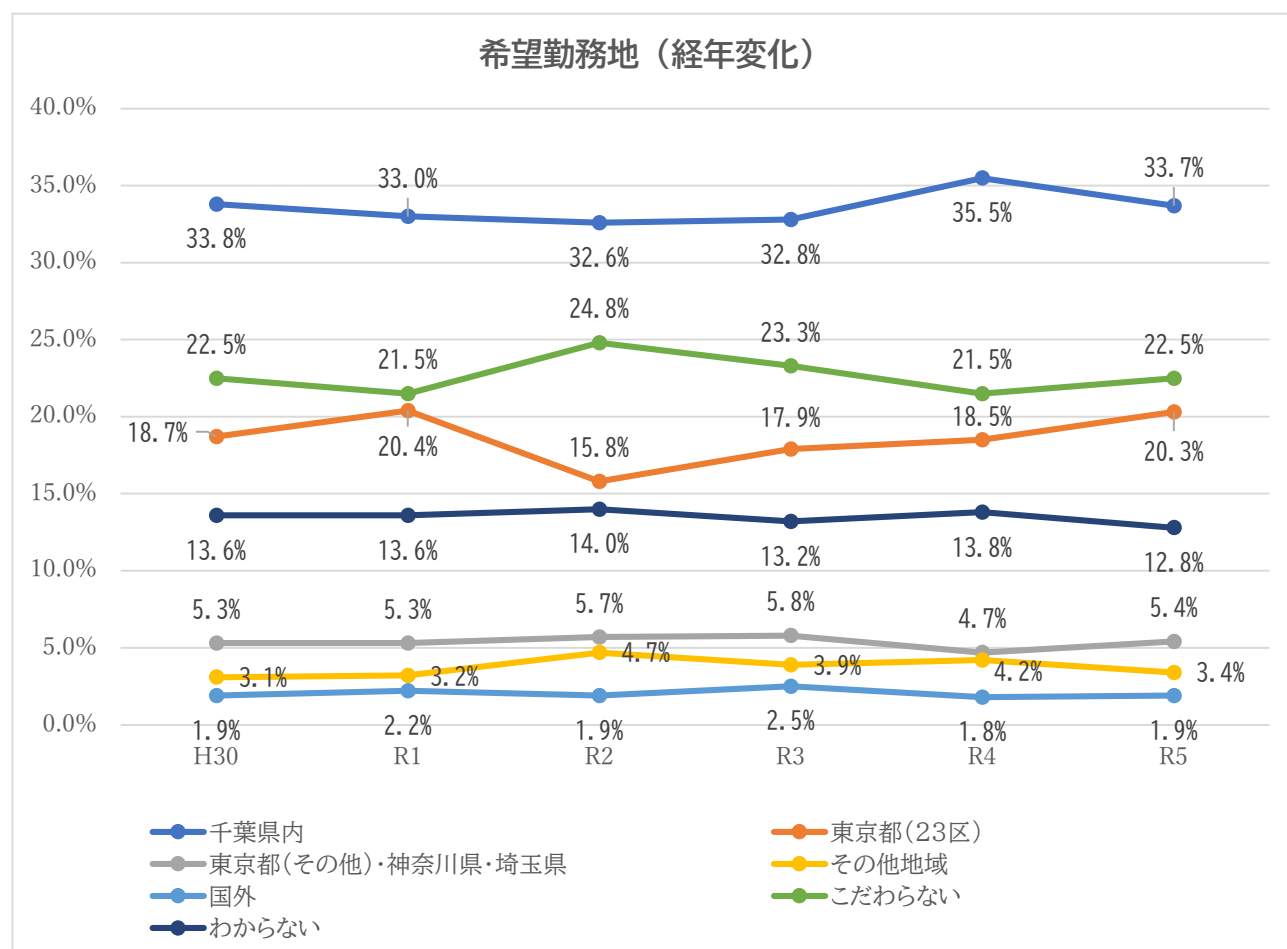
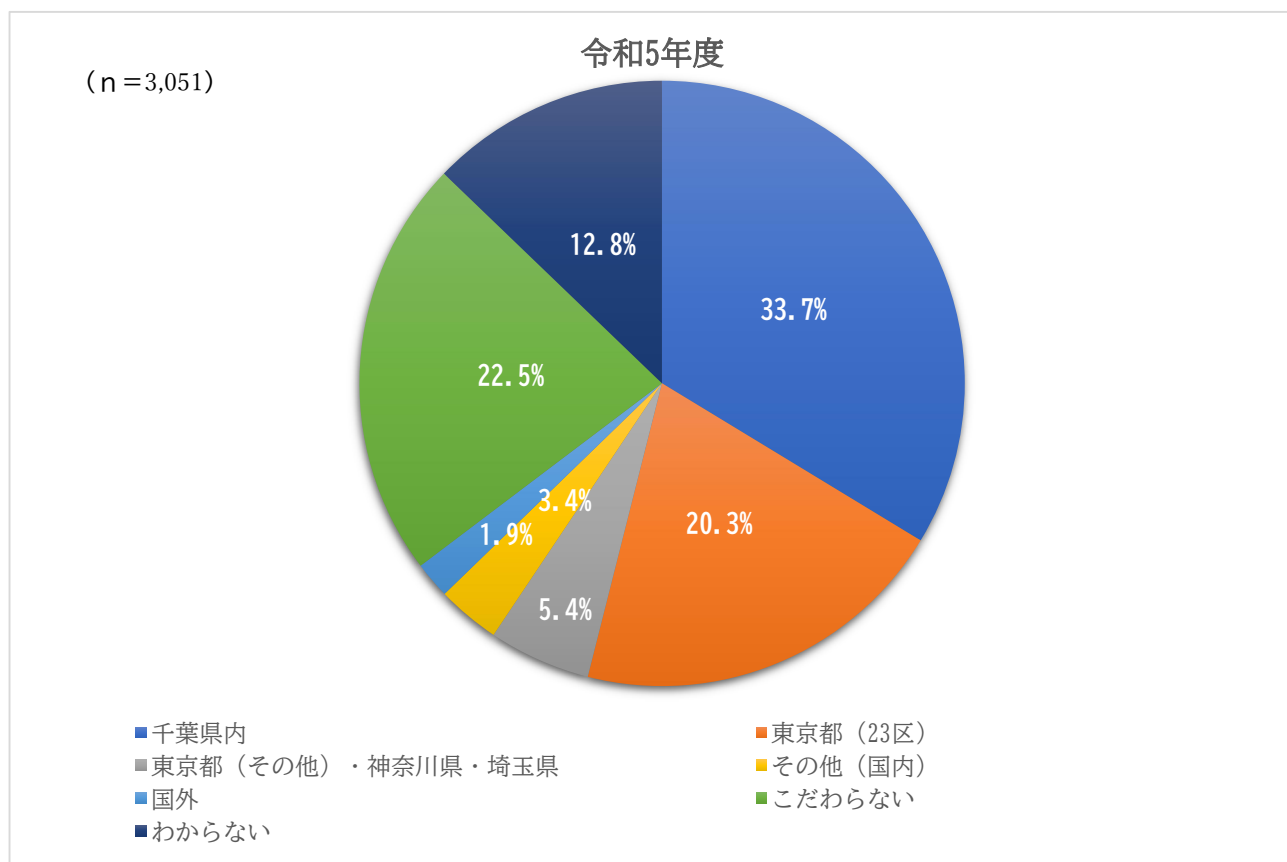
就職希望業界（女性）

(n=1,356)

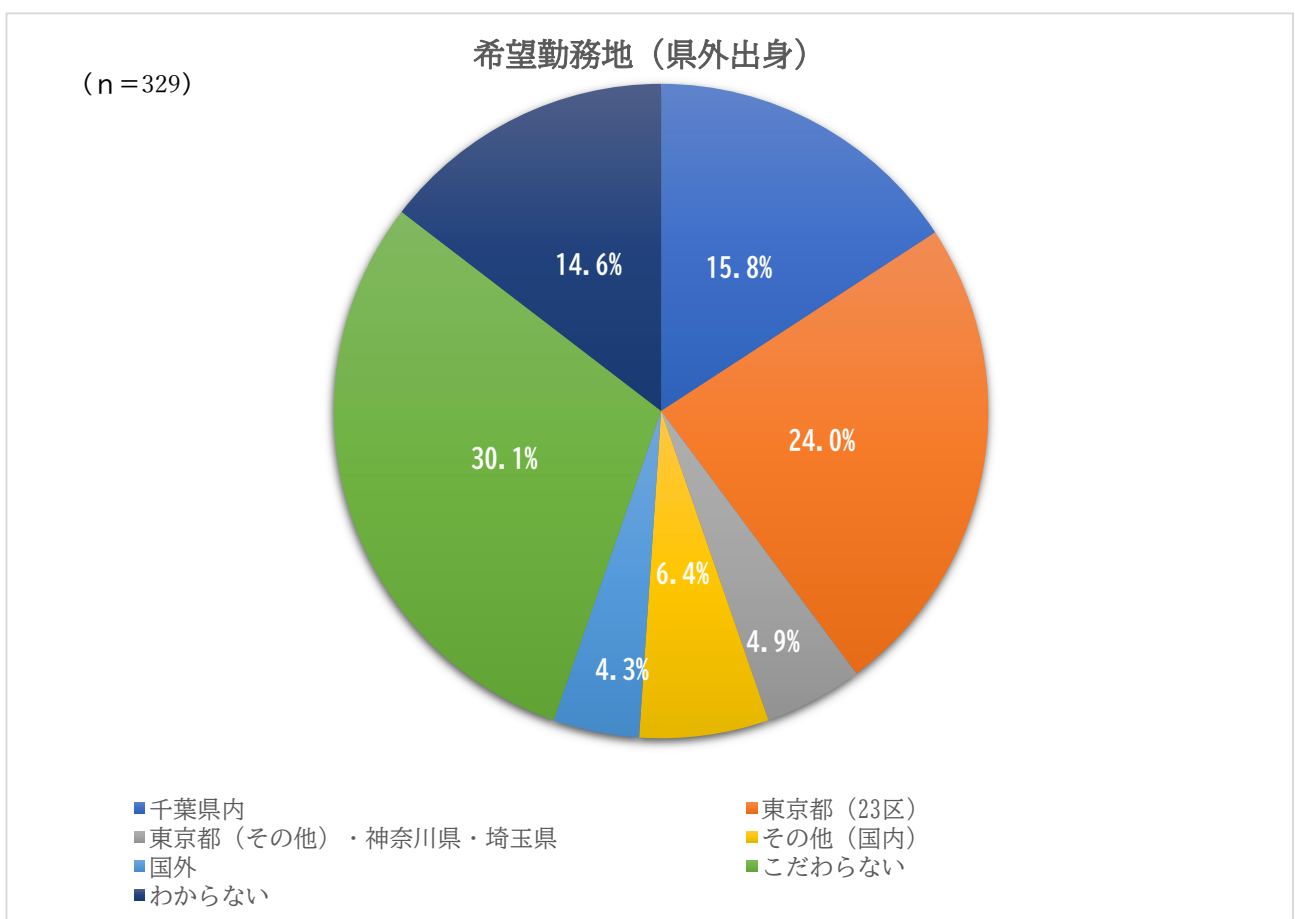
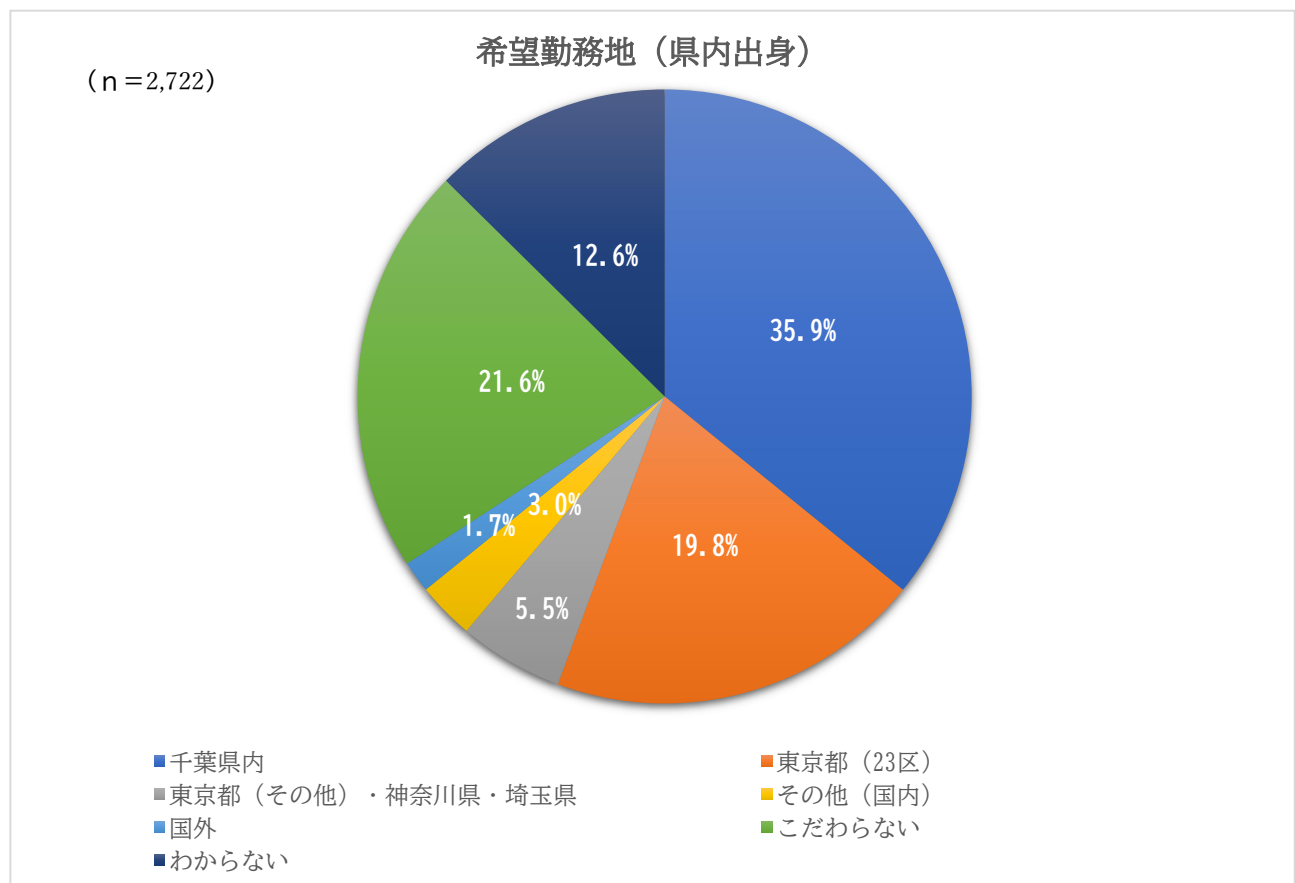


(2) 勤務する希望地

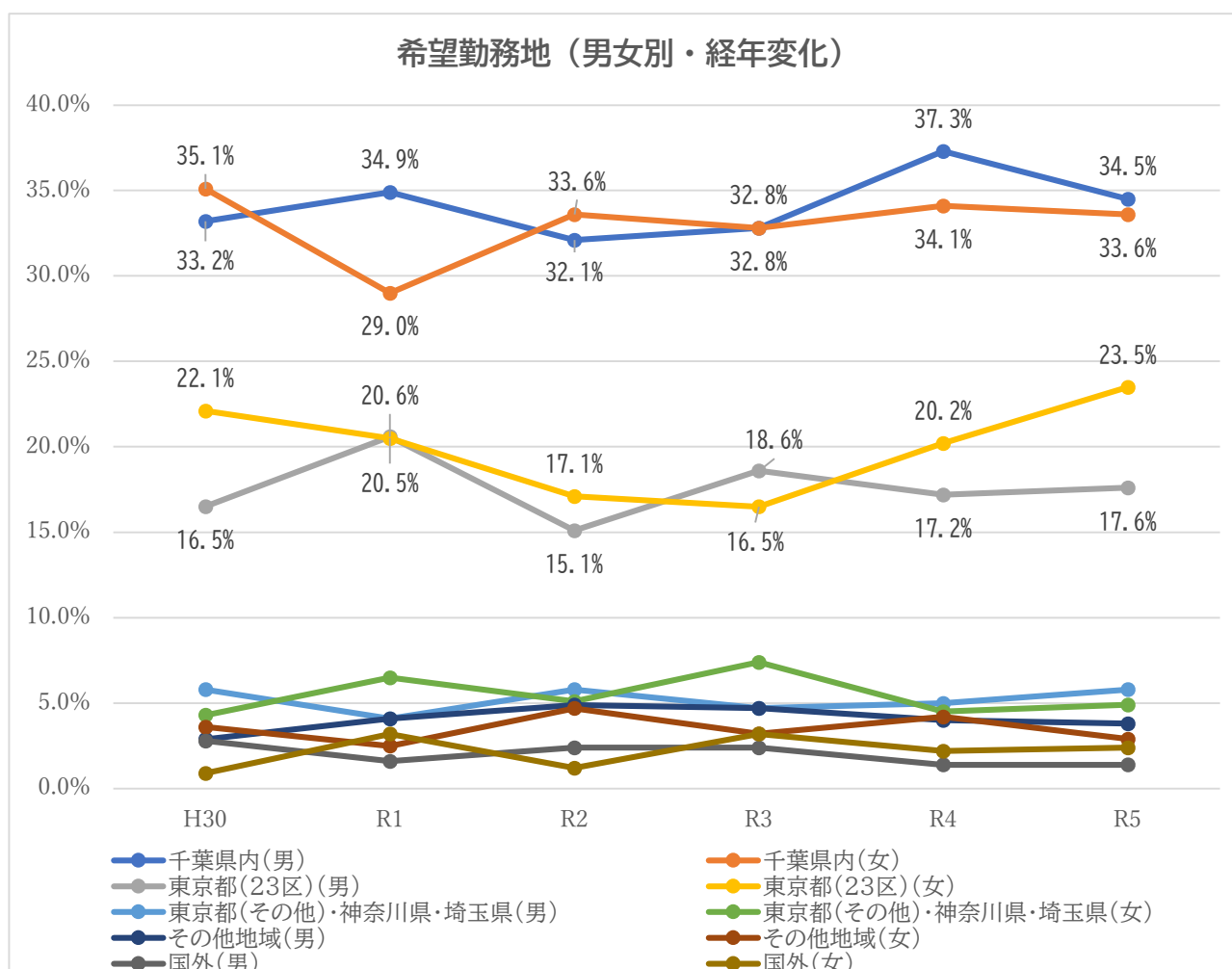
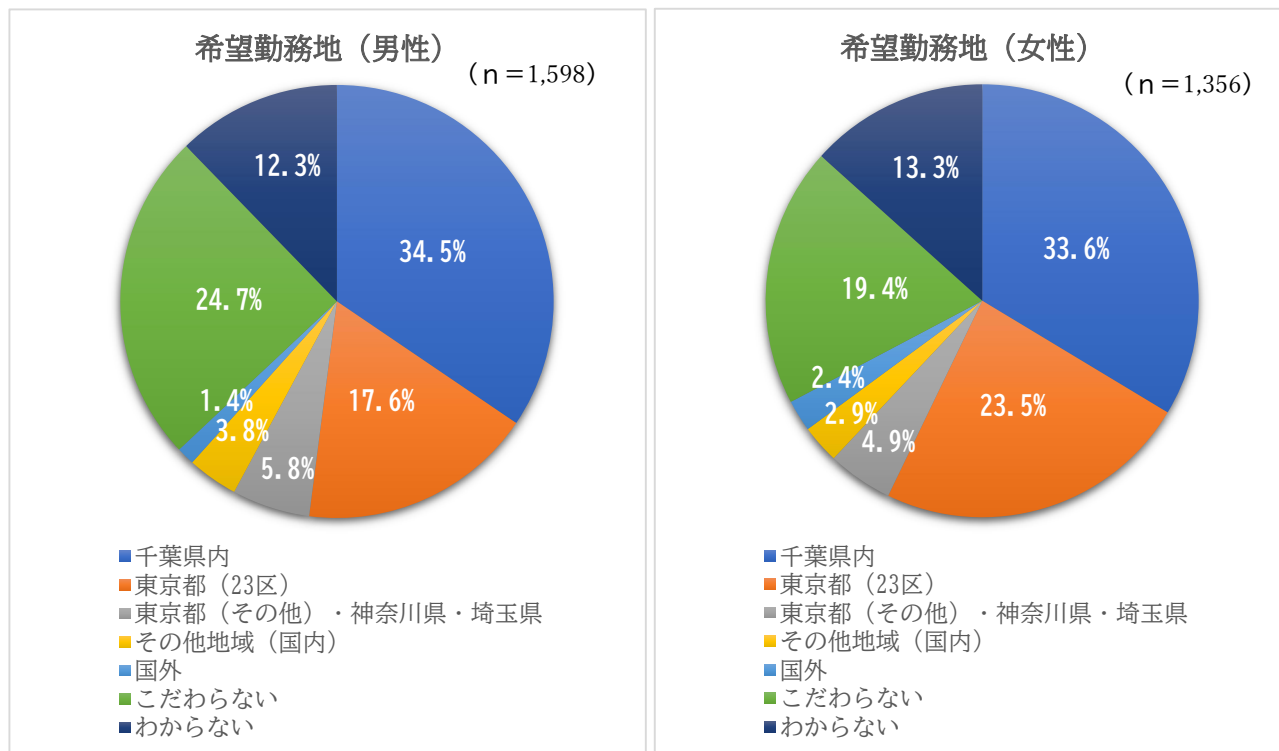
高校生の希望する勤務地は、「千葉県内」が最も多い 33.7%、昨年度比で 1.8 ポイント減となっており、昨年度と大きな変化はない。



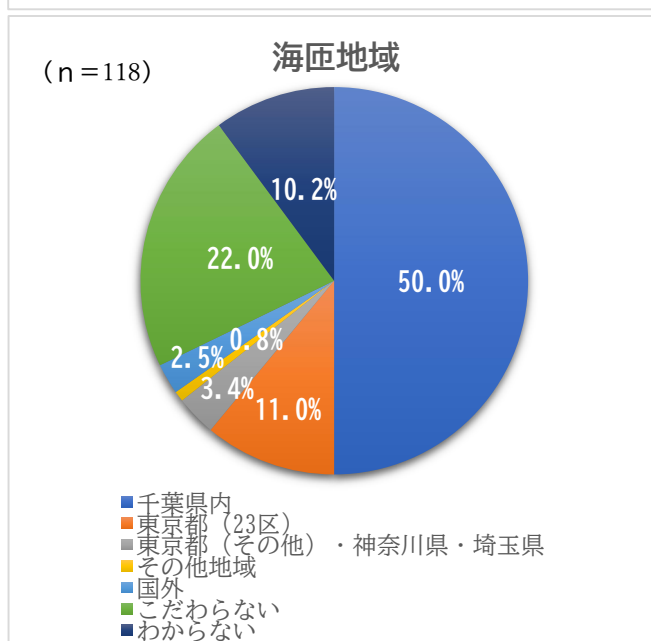
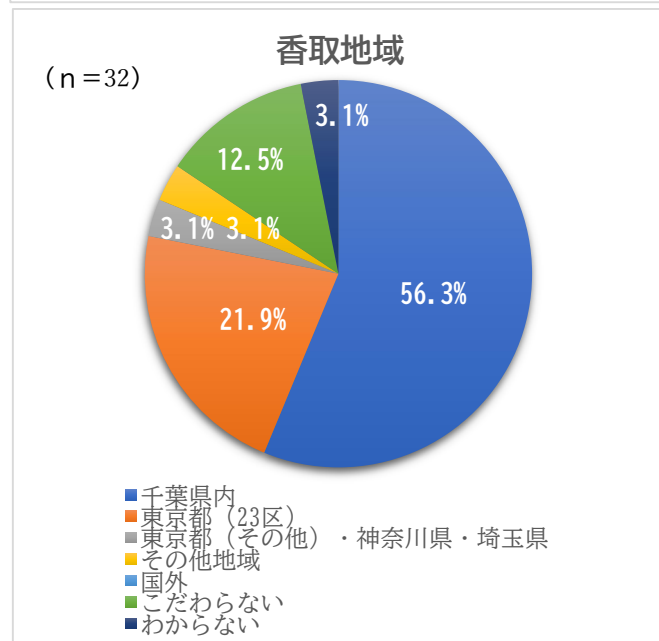
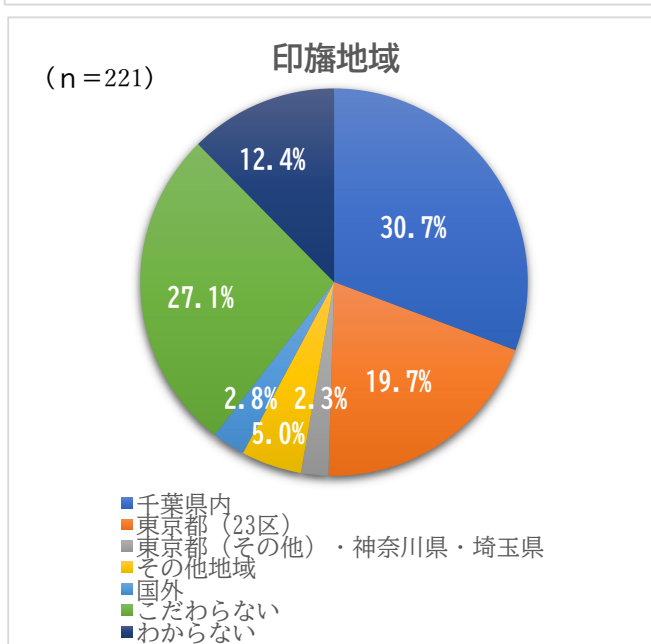
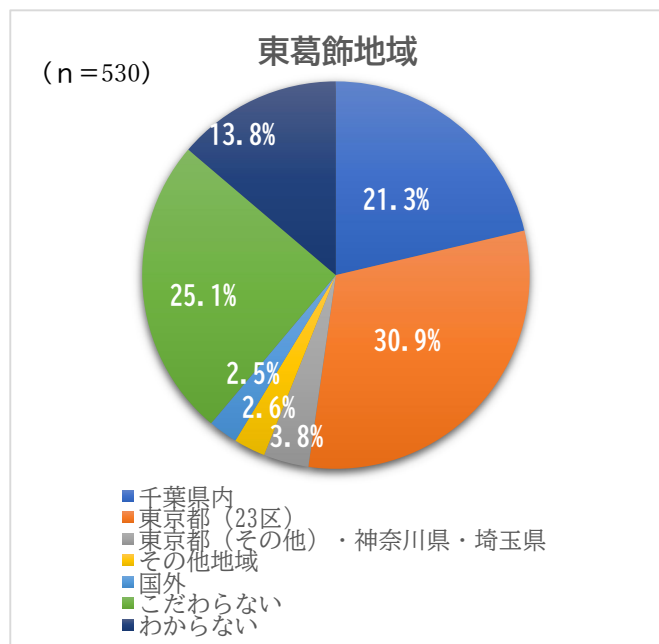
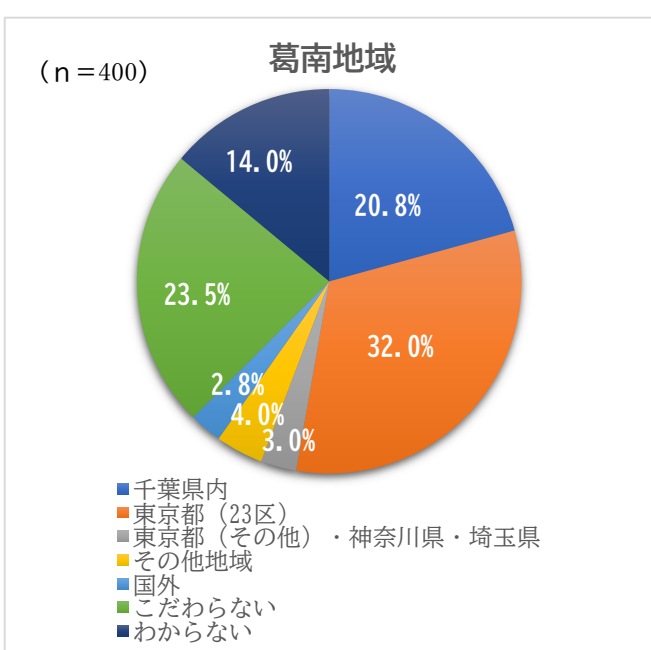
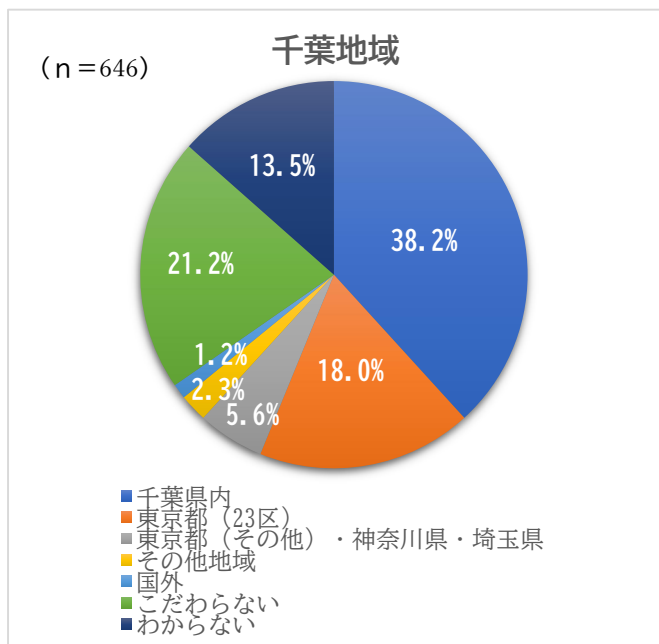
県内出身者と県外出身者を比較すると、県外出身者は県内出身者と比べ「千葉県内」が大きく減少している一方、「こだわらない」が非常に多くなっており、また、「東京都（23区）」も多くなっている。



男女別にみると、女性は「こだわらない」の割合が低くなっている一方、「東京都（23区）」が多くなっている。また、経年変化を見ると、新型コロナウイルスの感染拡大以降、令和2年、3年と減少していた「東京都（23区）」を選択する女性が令和4年度以降急速に高まっている。

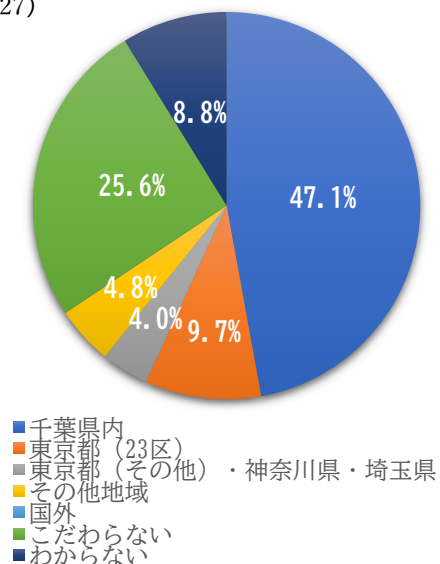


地域別に見ると、東京に近い地域ほど「東京都 23 区」を選択する割合が多くなる
一方、遠い地域は千葉県内が多くなっている。



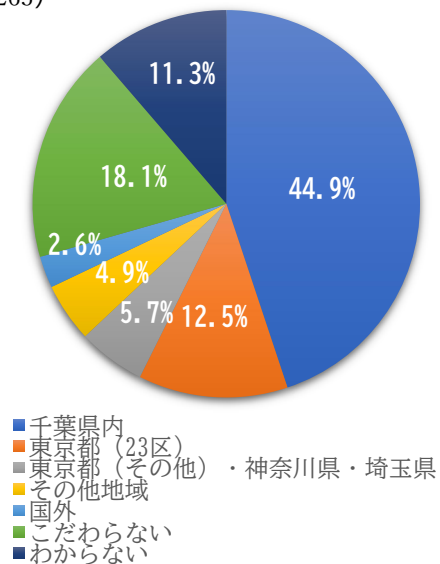
(n=227)

山武地域



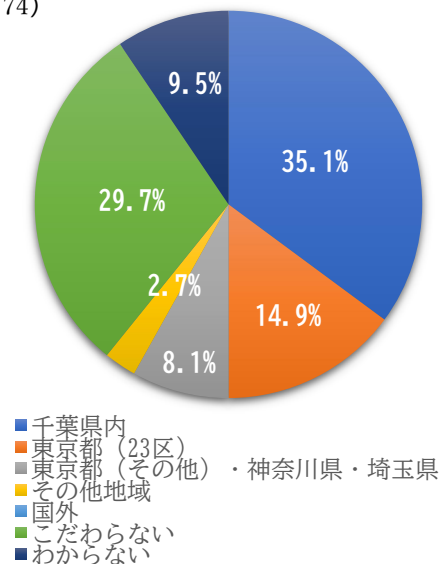
(n=265)

長生地域



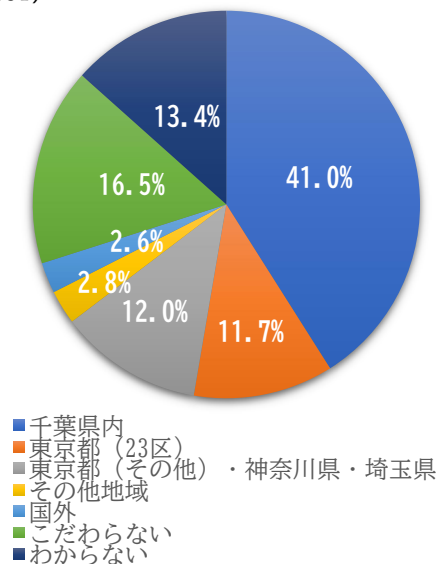
(n=74)

夷隅地域



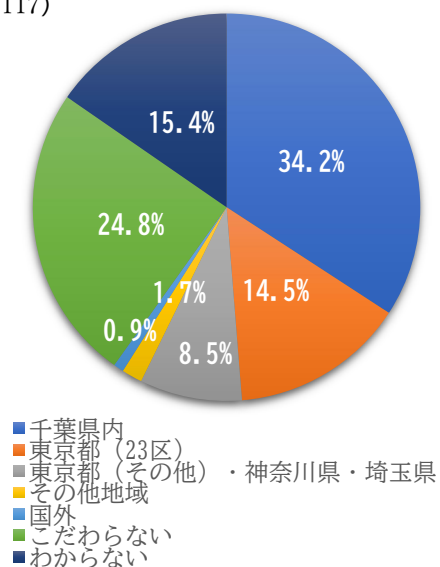
(n=351)

安房地域



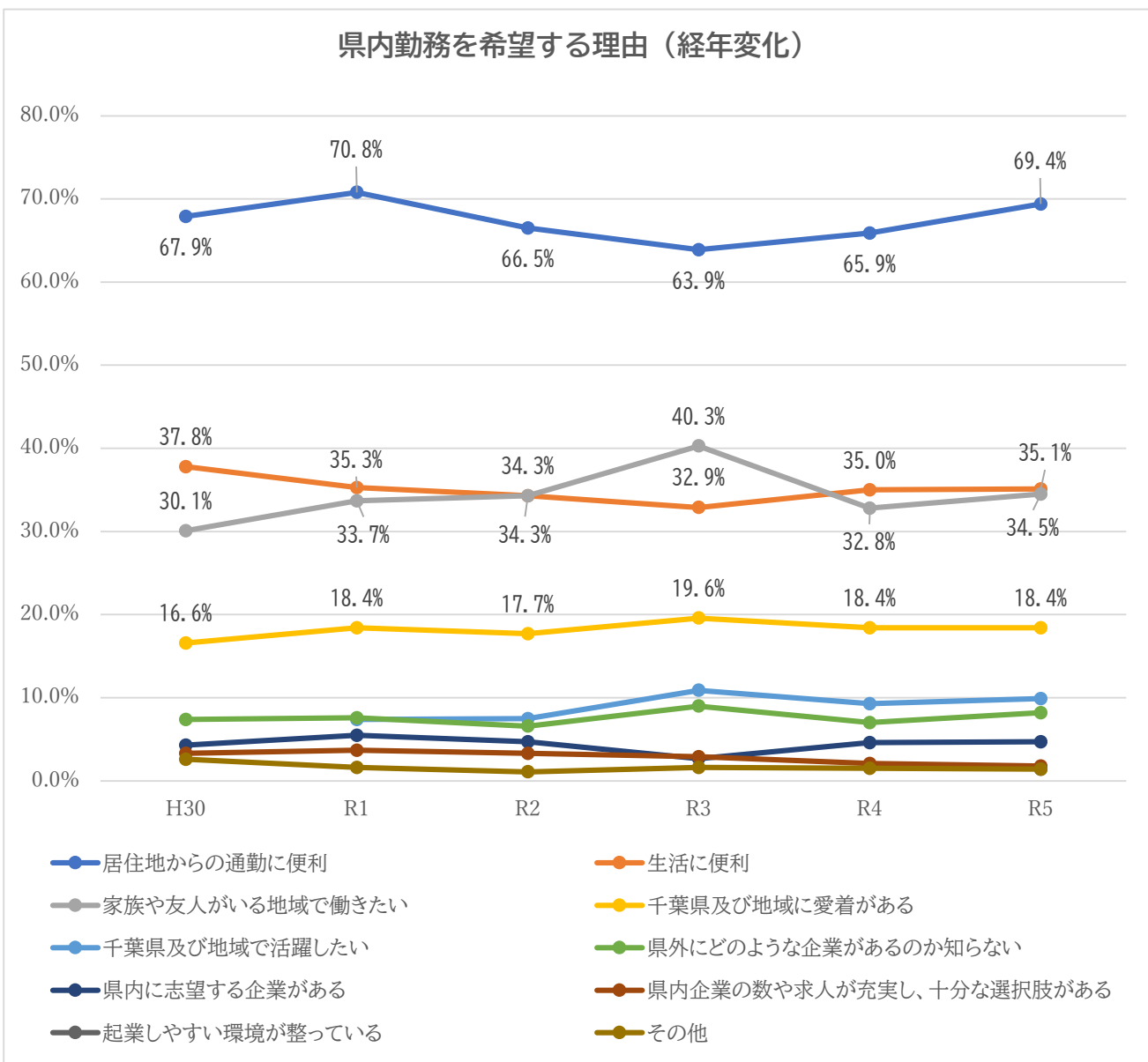
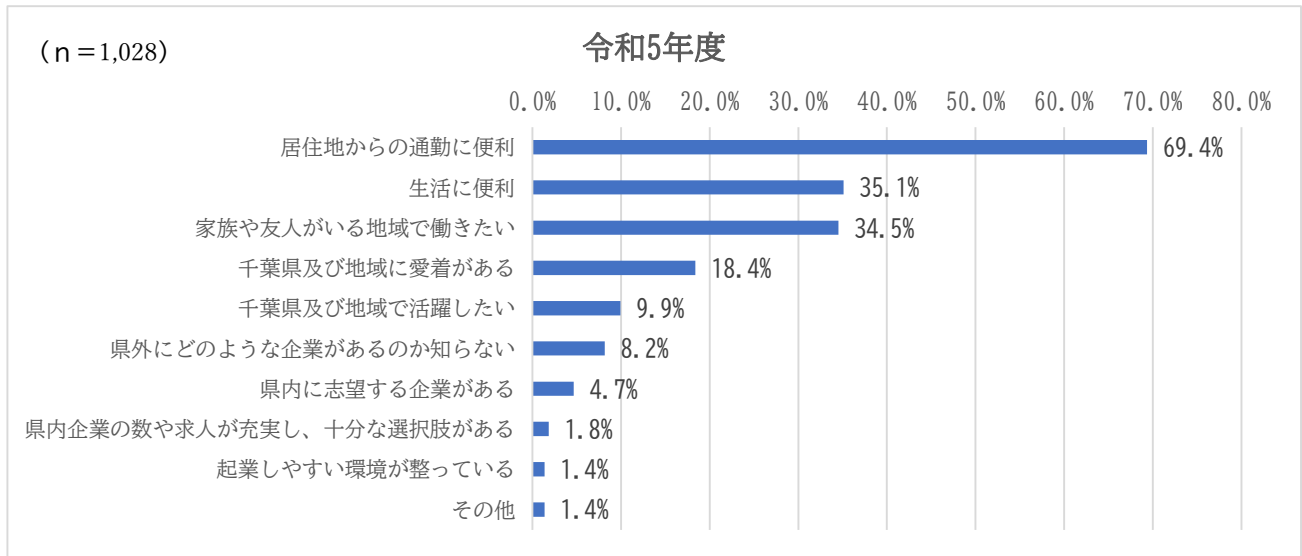
(n=117)

君津地域

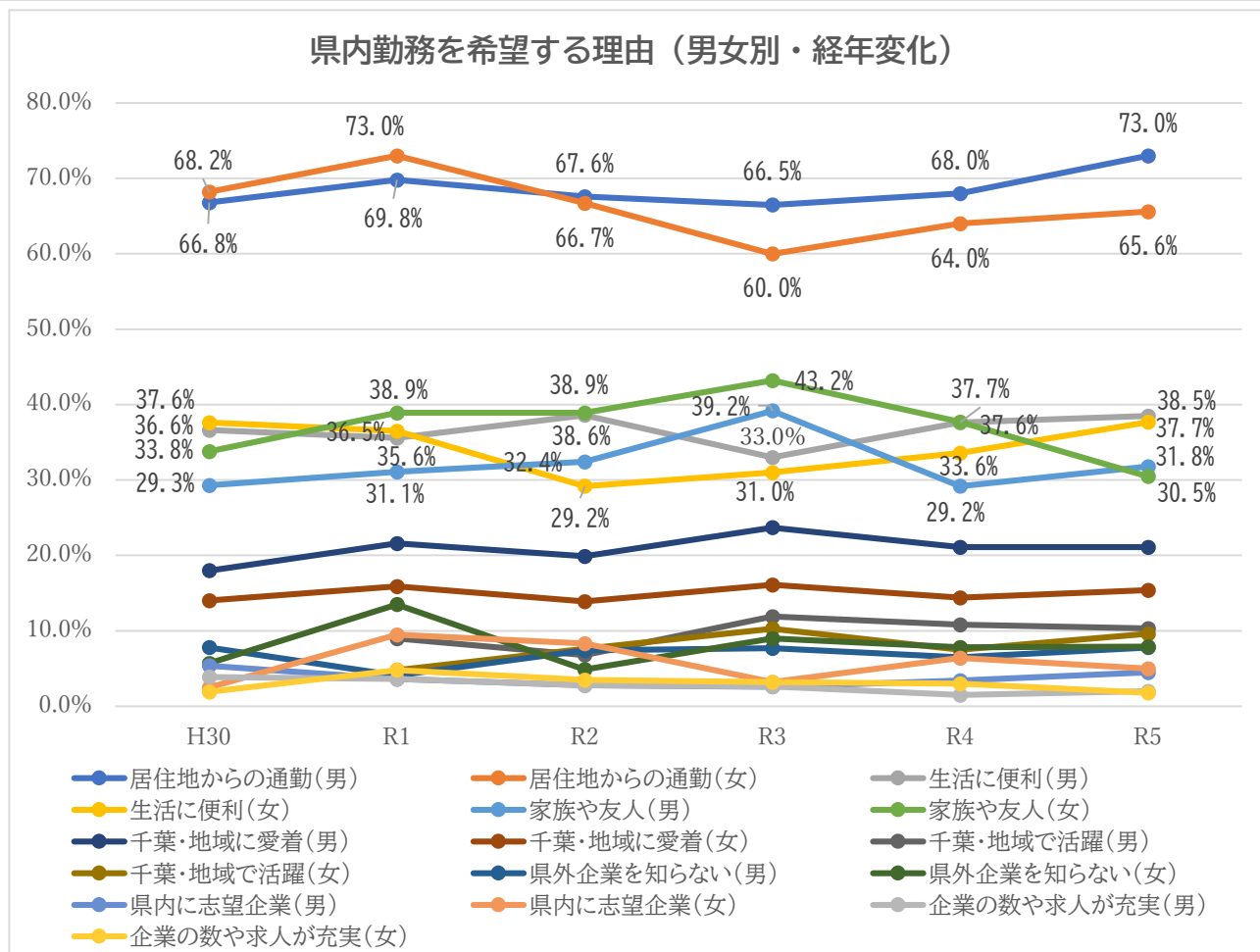
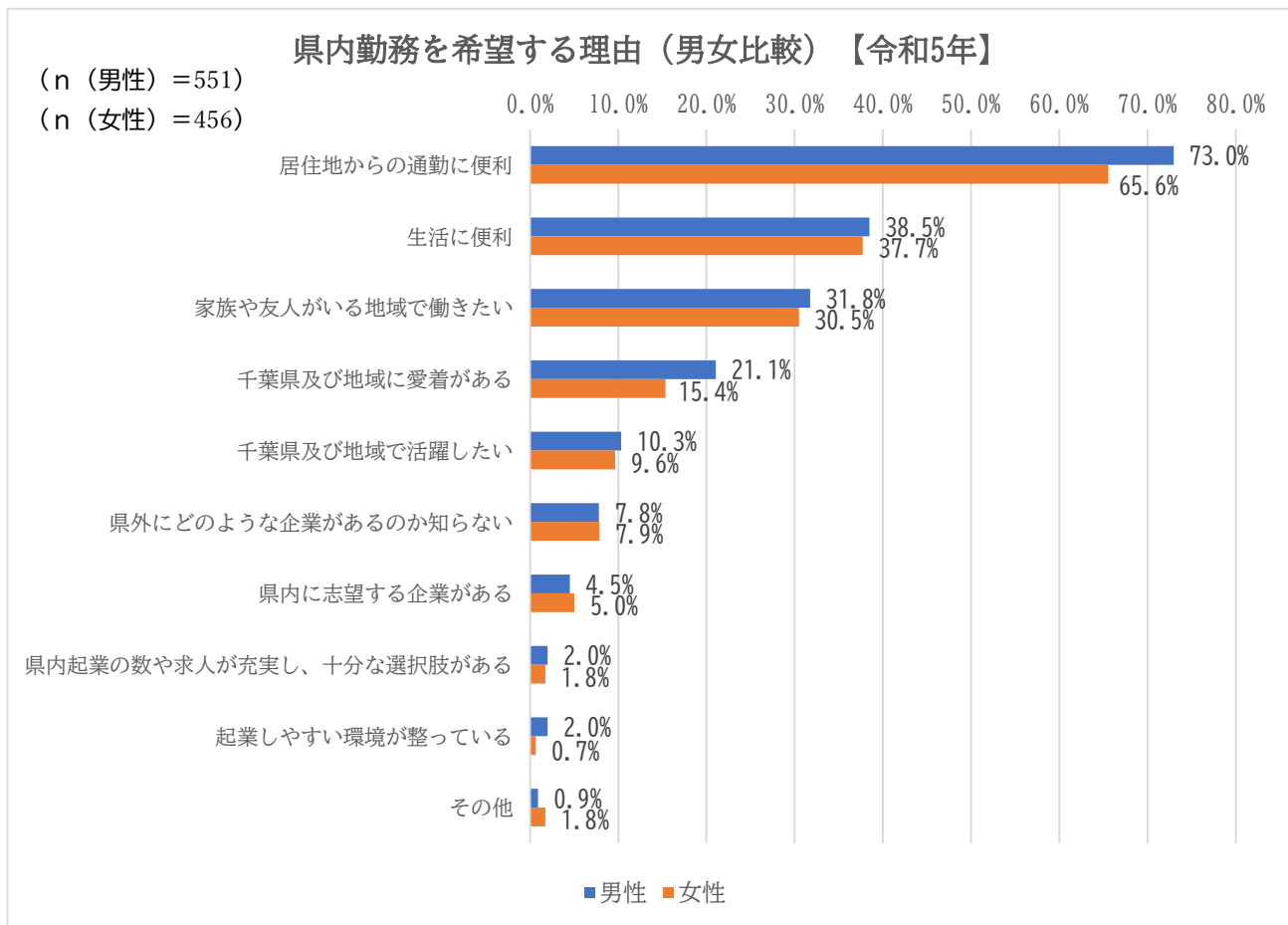


(3) 県内に勤務を希望する理由

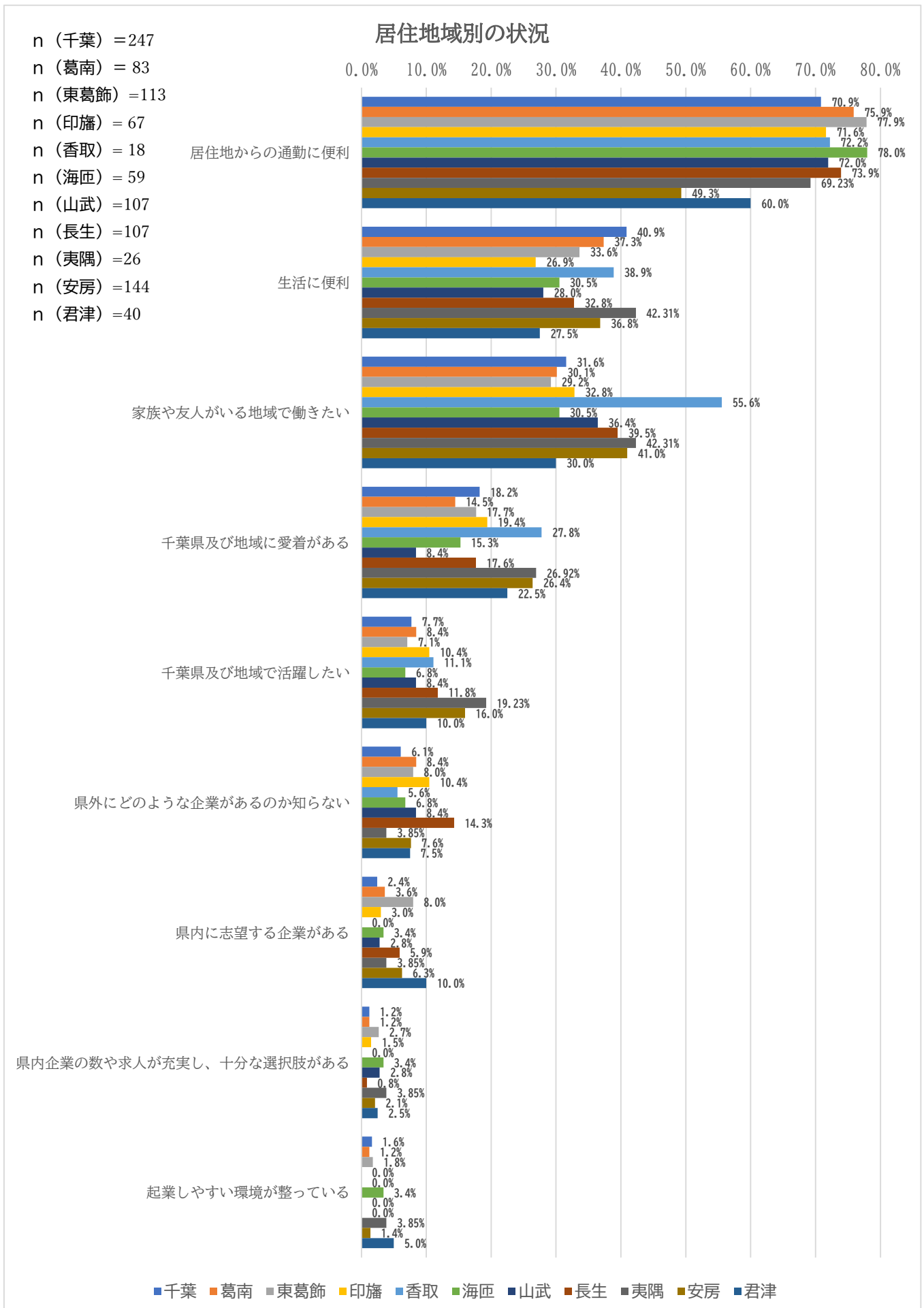
高校生が県内に勤務を希望する理由は、「居住地からの通勤に便利」、「生活に便利」、「家族や友人がいる地域で働きたい」という順位になっており、昨年度と比べ、割合も大きな変化がない。



男女で比較したときには、「居住地からの通勤に便利」や「千葉県及び地域に愛着がある」を選択した女性の割合が低くなっている。

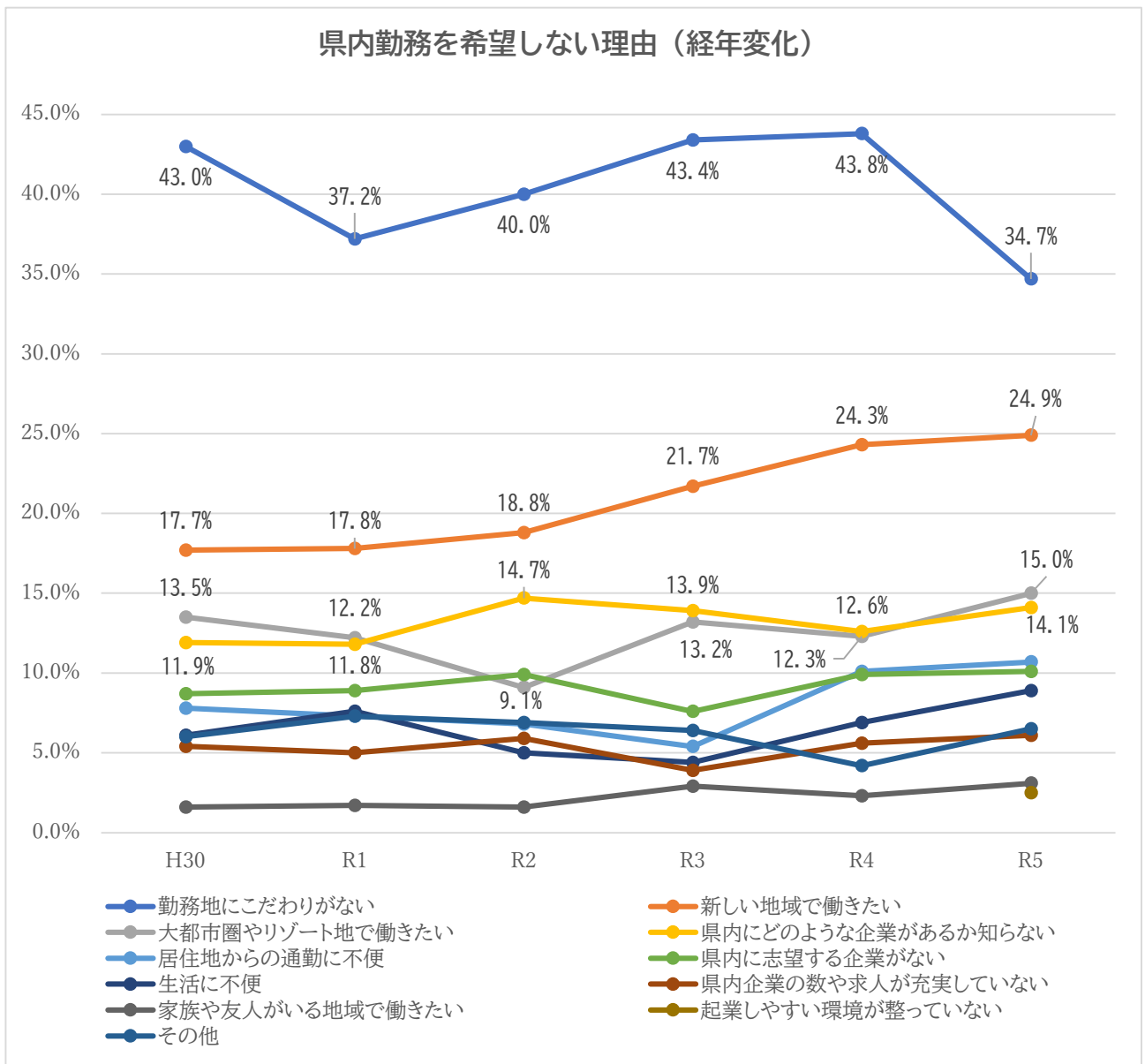
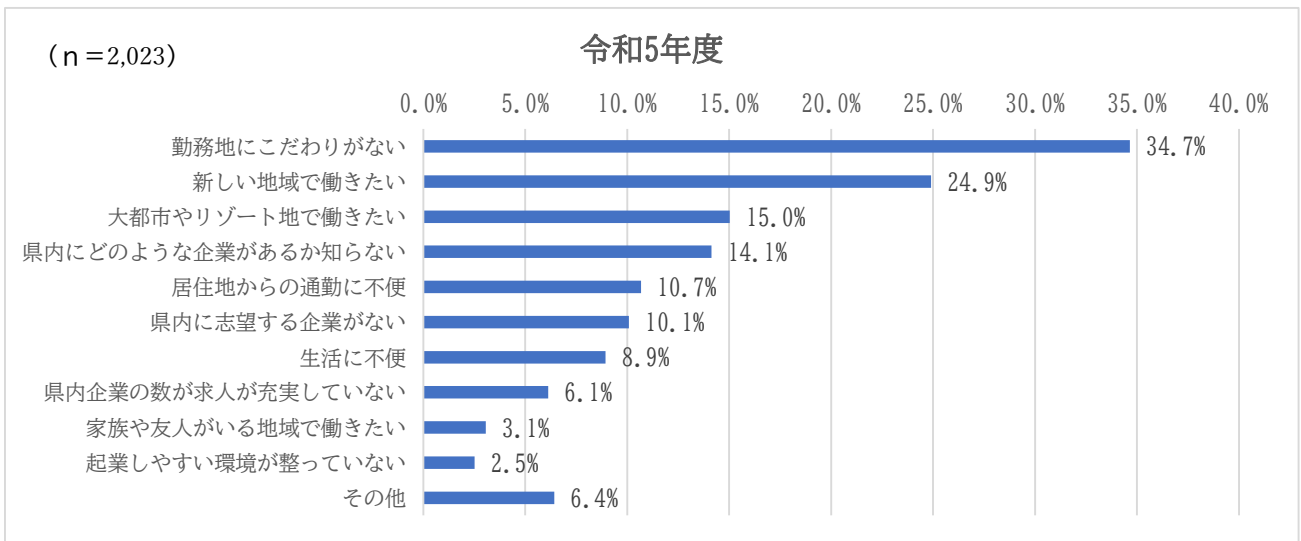


地域別に見ると、「居住地からの通勤に便利」が多くの地域で高い割合になっている一方、「安房地域」で 50%を切っているが、その分、「千葉県及び地域に愛着がある」や「千葉県及び地域で活躍したい」などが多くなっている。



(4) 県内での勤務を希望しない理由

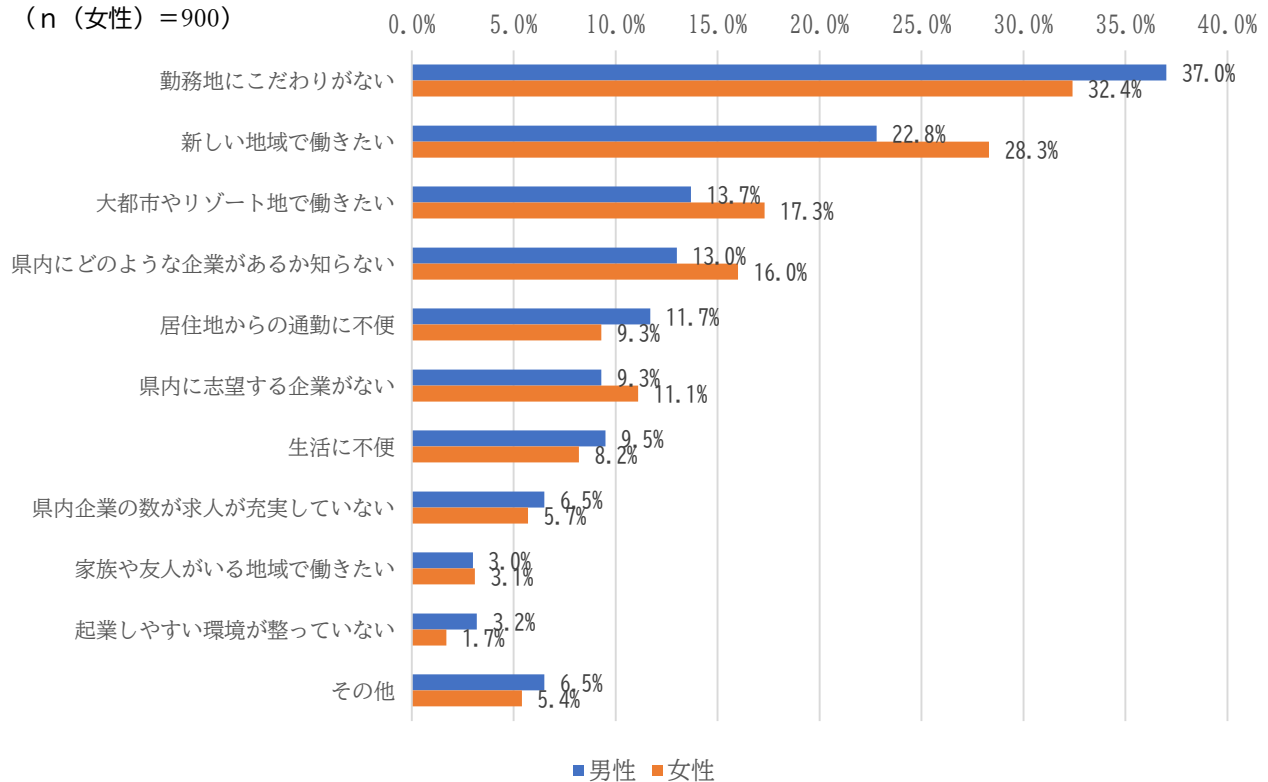
高校生が県内での勤務を希望しない理由としては、「勤務地にこだわりがない」が1位となっているが、昨年度と比較して9.1ポイント減の34.7%と大きく減少している。一方で、「新しい地域で働きたい」や「大都市圏やリゾート地で働きたい」が増加している。



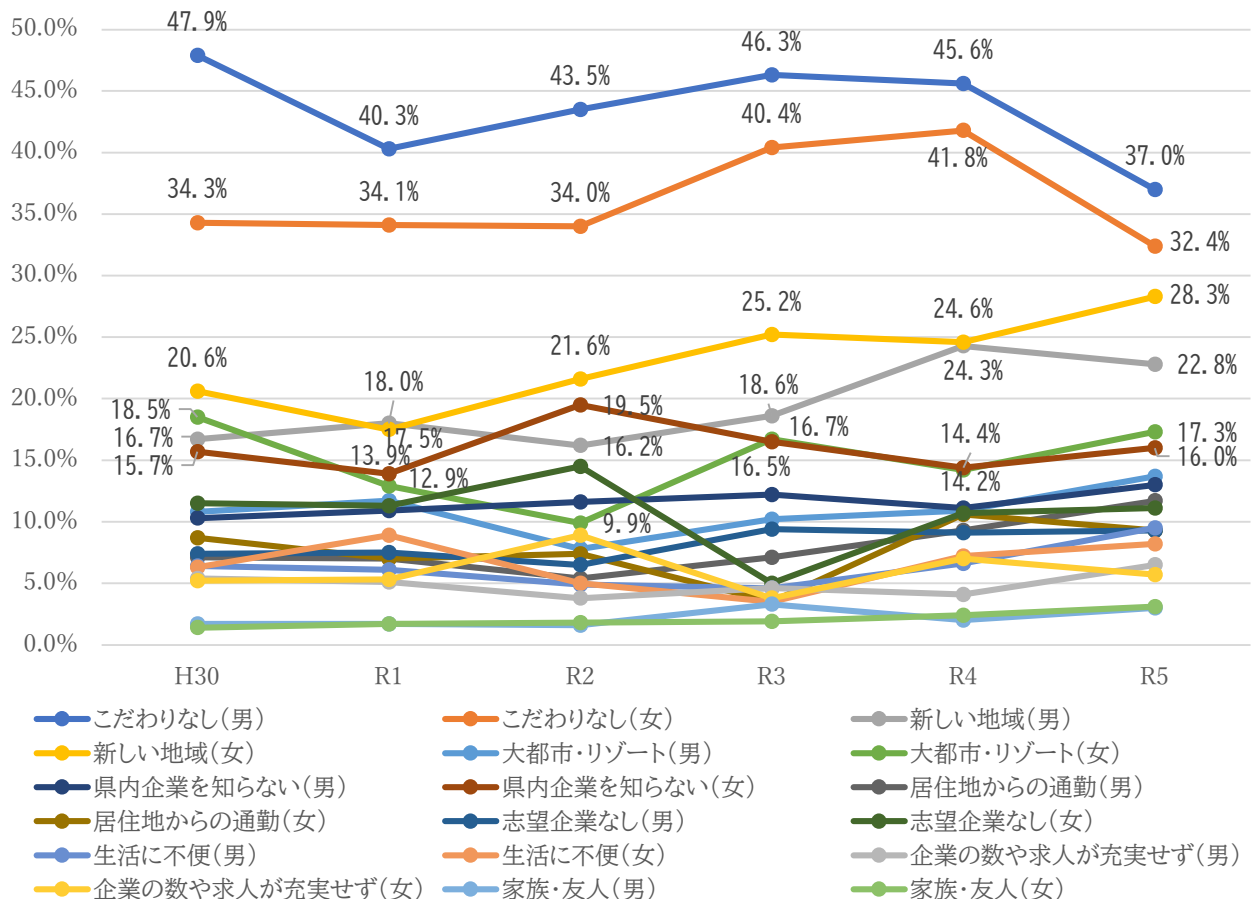
男女別で見た場合、「勤務地にこだわらない」を選択する女性が低い一方、「新しい地域で働きたい」や「大都市やリゾート地で働きたい」を選択する女性が多くなっており、女性の方が勤務地にこだわっていることが多い。

(n(男性)=1,047) 県内勤務を希望しない理由(男女比較) 【令和5年】

(n(女性)=900)



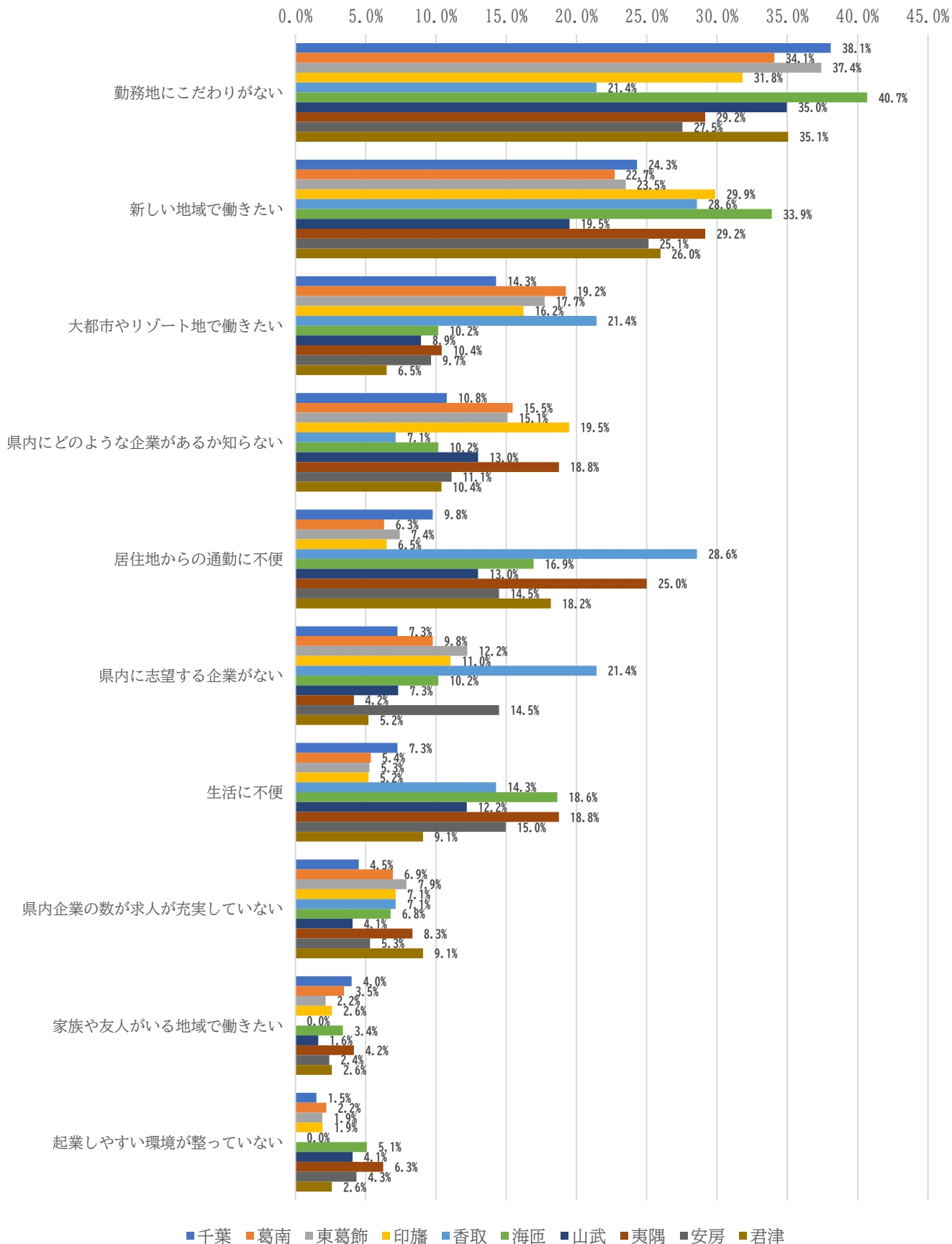
県内勤務を希望しない理由(男女別・経年変化)



地域別に見ると、葛南・東葛地域など東京に近い地域では、「大都市やリゾート地で働きたい」の割合が大きくなっている一方、東京から遠い地域では、「生活に不便」などの割合が大きくなっている。

n(千葉) = 247 n(葛南) = 83 n(東葛飾) = 113 n(印旛) = 67 n(香取) = 18 n(海匠) = 59
n(山武) = 107 n(長生) = 107 n(夷隅) = 26 n(安房) = 144 n(君津) = 40

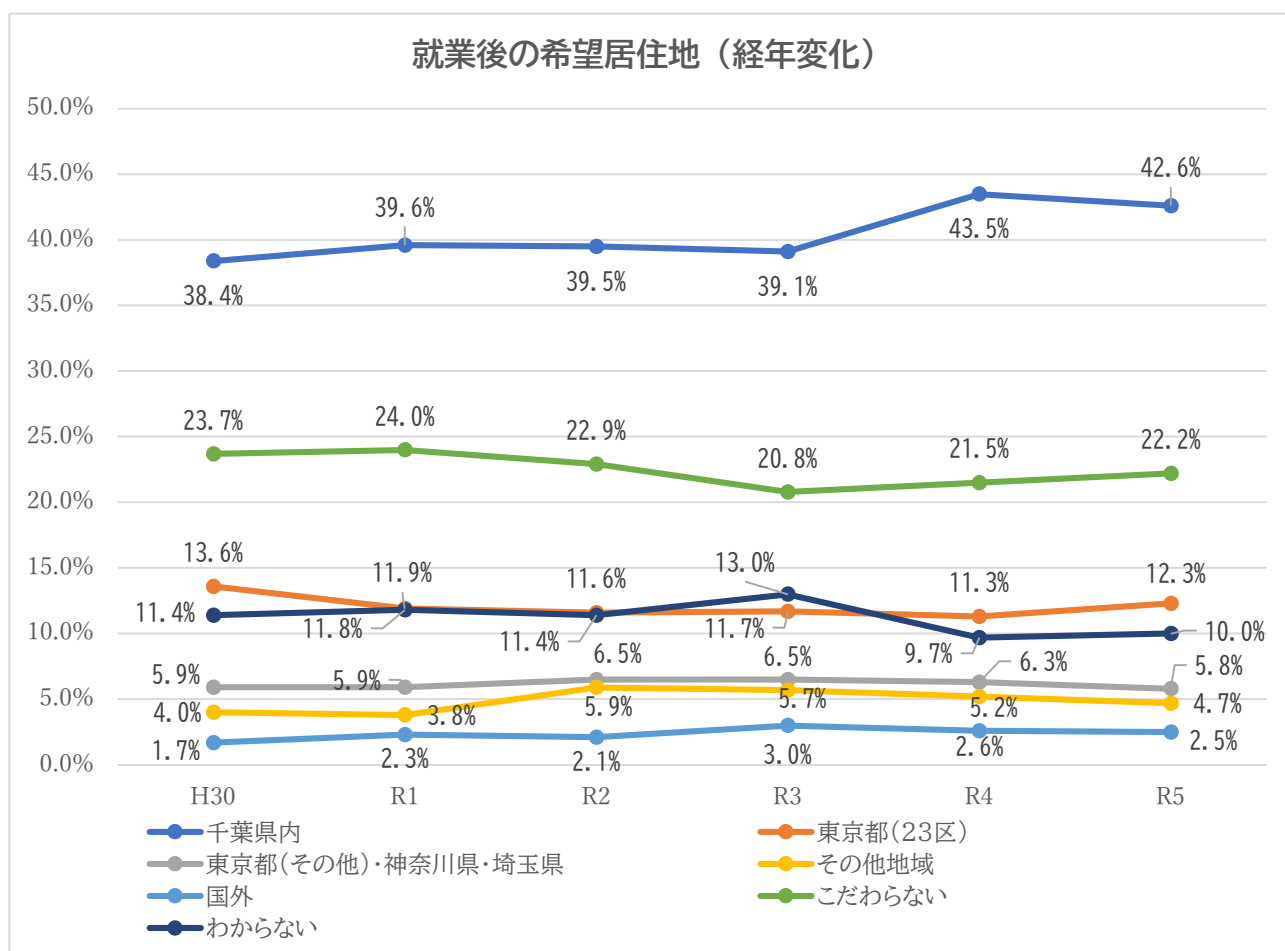
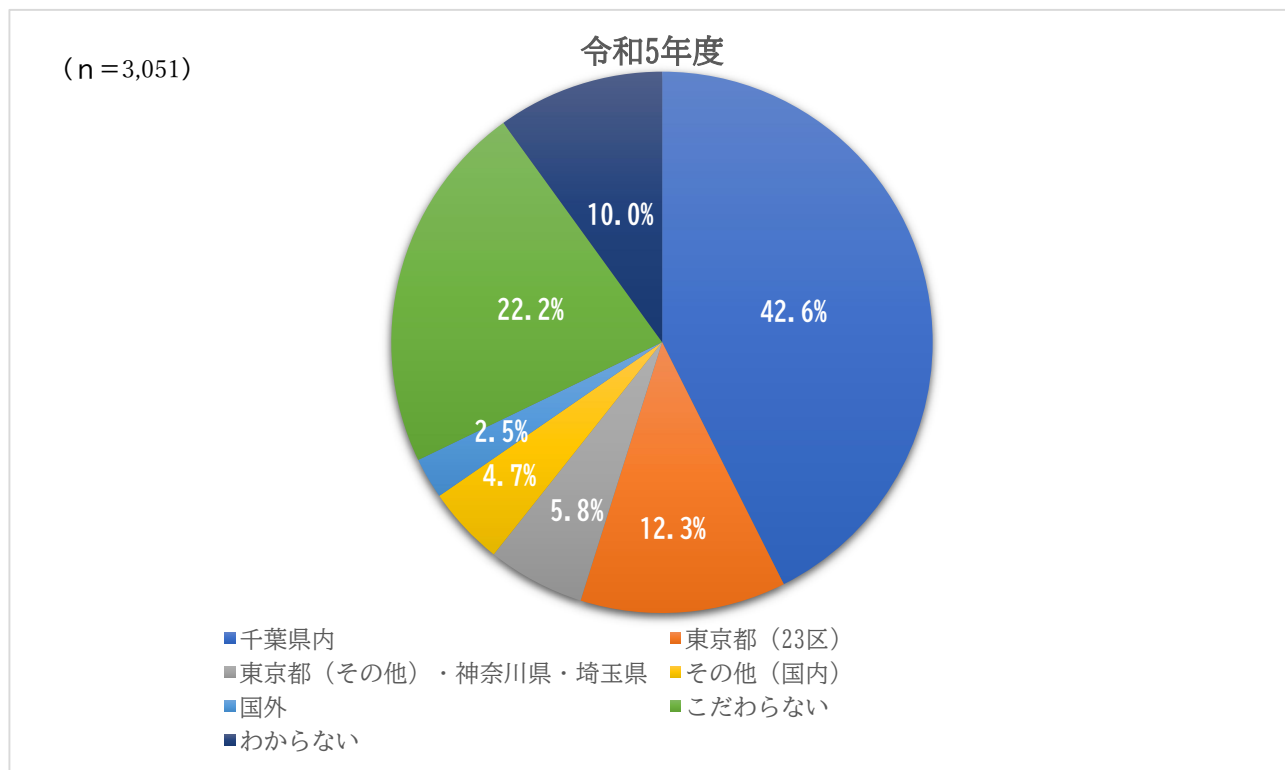
県内勤務を希望しない理由（居住地域別の状況）



3. 将来の居住地の希望について

(1) 就業後の居住地の希望

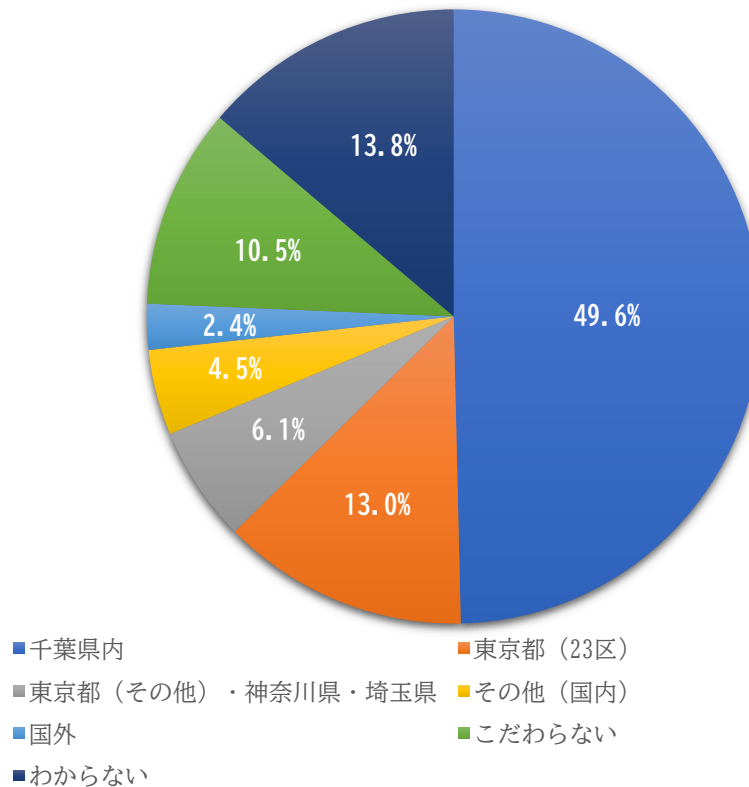
高校生の就業後の居住地については、「千葉県内」が最も多く、42.6%となっており、「こだわらない」の22.2%が続いており、全体的な傾向も昨年度と大きく変わっていない。



出身地別に見たときには、県内出身者は、49.6%とほぼ半分が千葉県内に住みたいと答えたのに対して、県外出身者は、千葉県内が 19.8%と大きく減少する一方、「こだわらない」と答える人が 29.8%と大きく増えている。

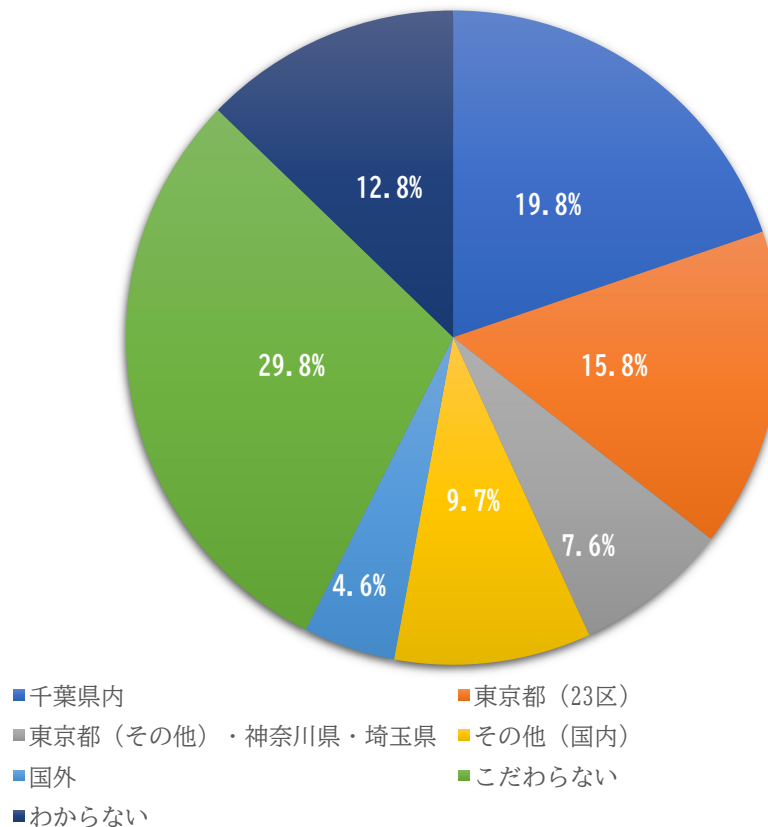
(n=2,722)

就業後の希望居住地（県内出身）

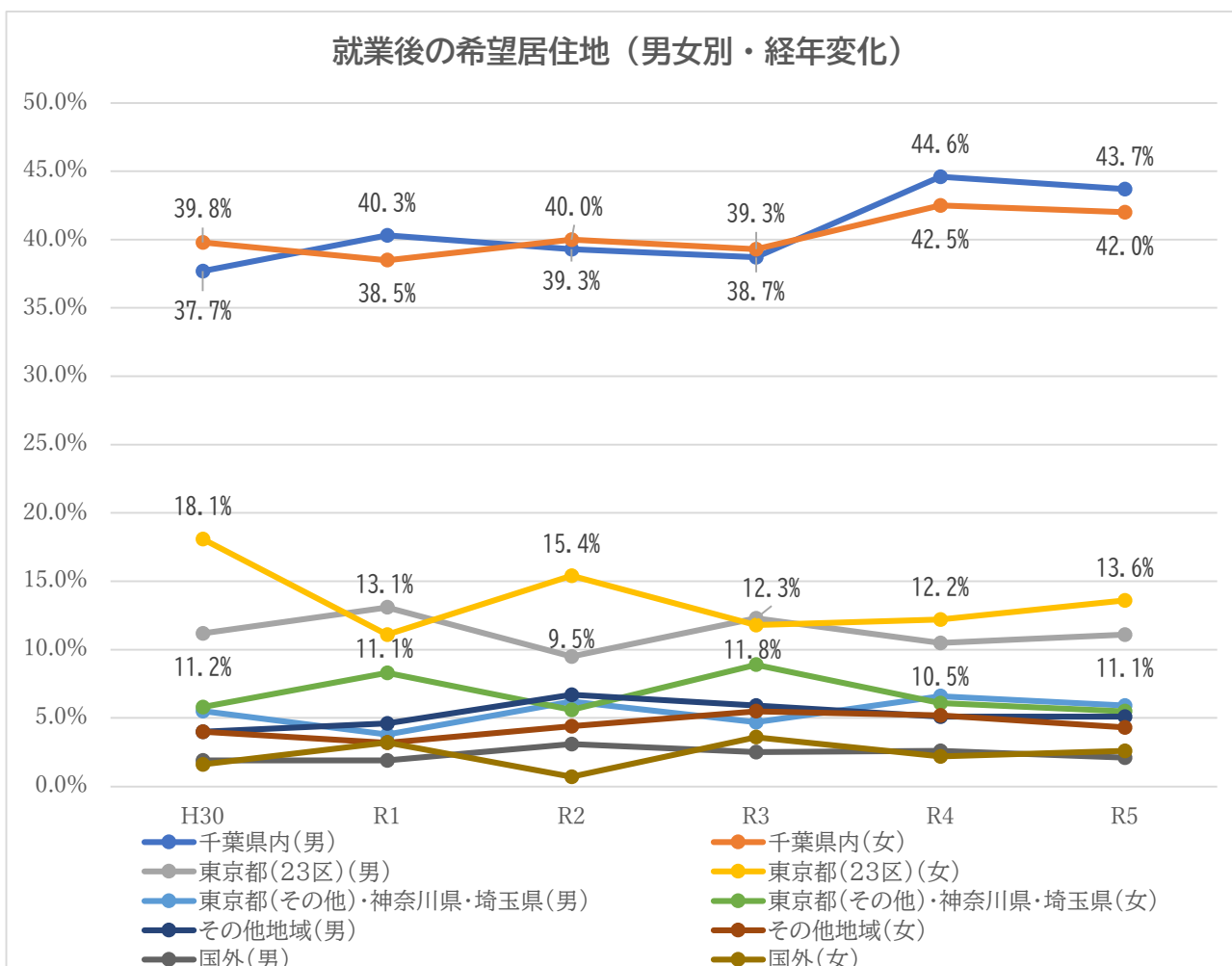
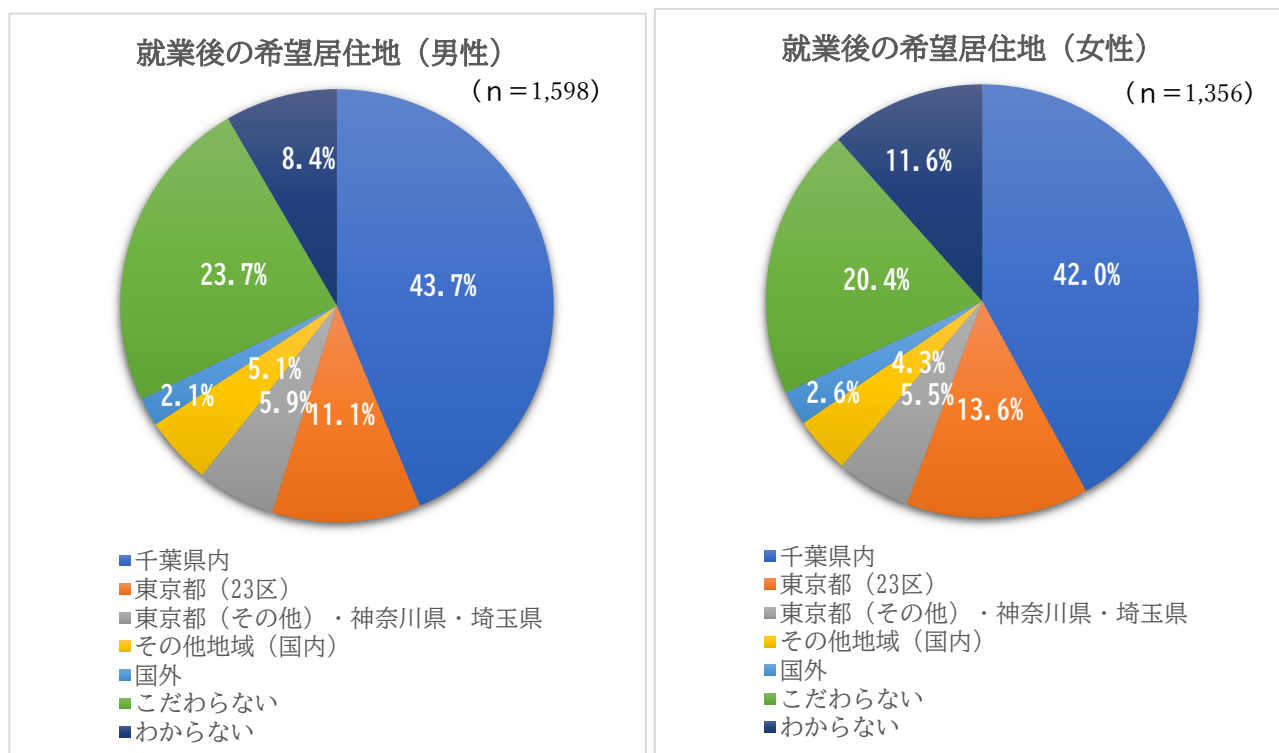


(n=329)

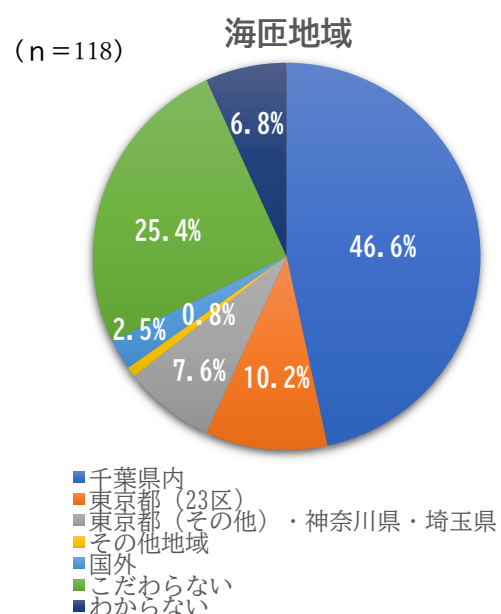
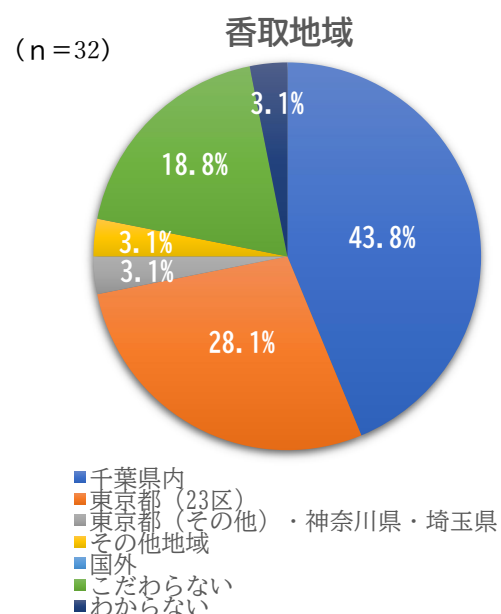
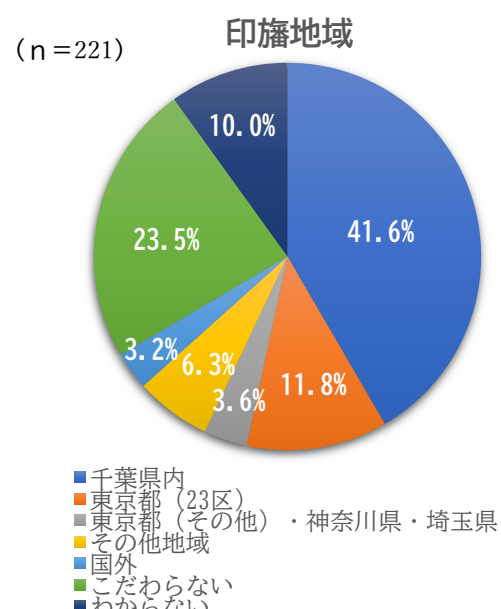
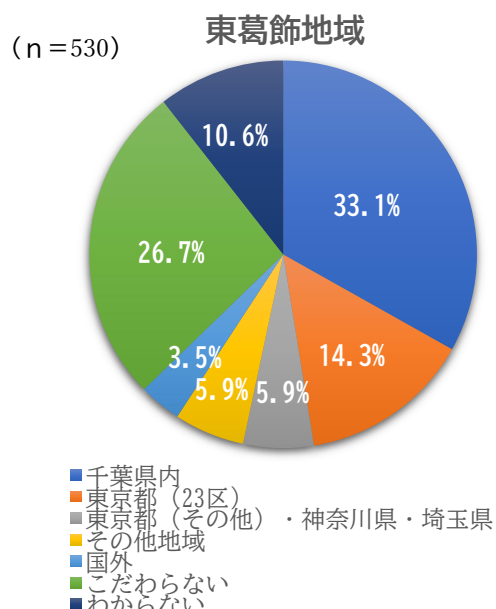
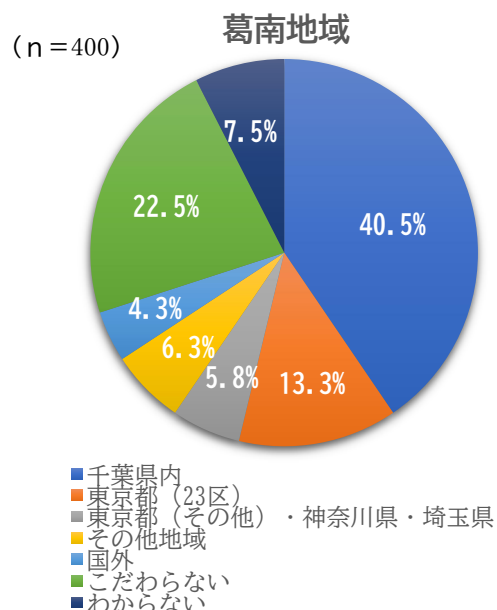
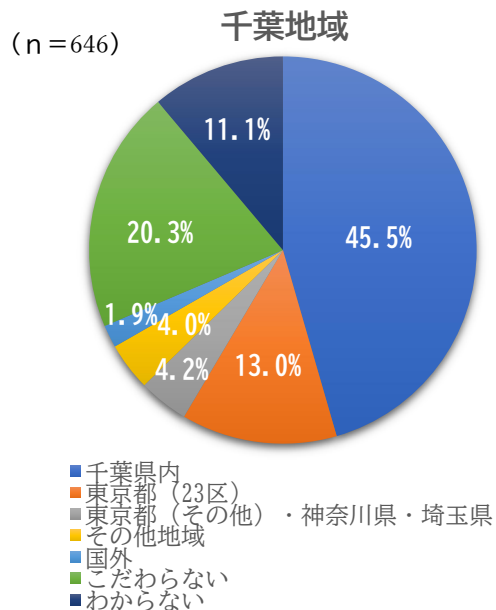
就業後の希望居住地（県外出身）



男女別に見たときには、就職後の希望居住地として、「千葉県内」を選択する割合が大きくなっている。また、経年変化をみると、「東京都（23区）」を選択した女性の割合が令和元年に大きく落ち込んでおり、その後も回復していない。

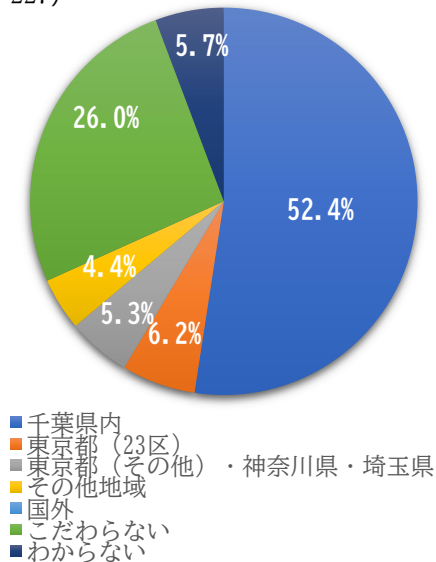


地域別に見ると、「千葉県内」を選択した人の割合が 40%未満となっている地域は「東葛」と「君津」の 2 地域となっており、この地域では、「こだわらない」の割合が大きくなっている。



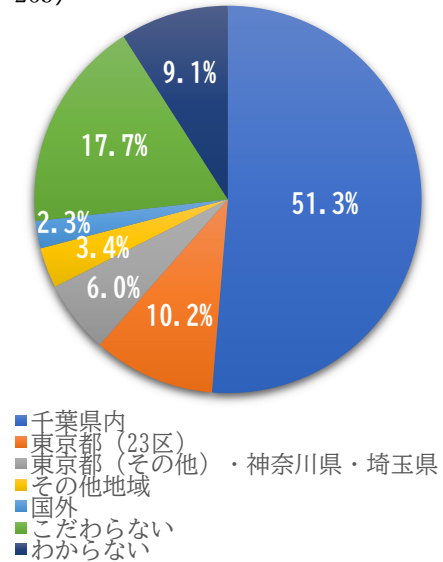
(n = 227)

山武地域



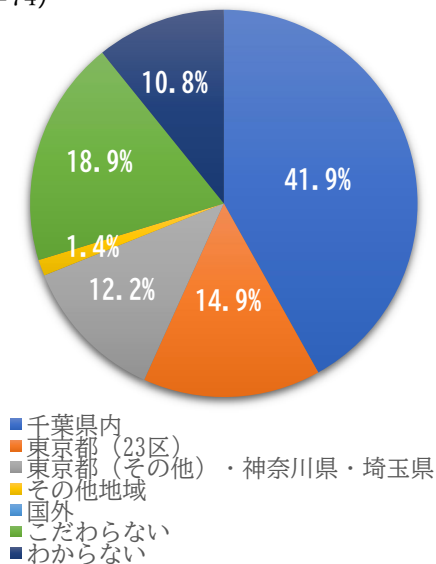
(n = 265)

長生地域



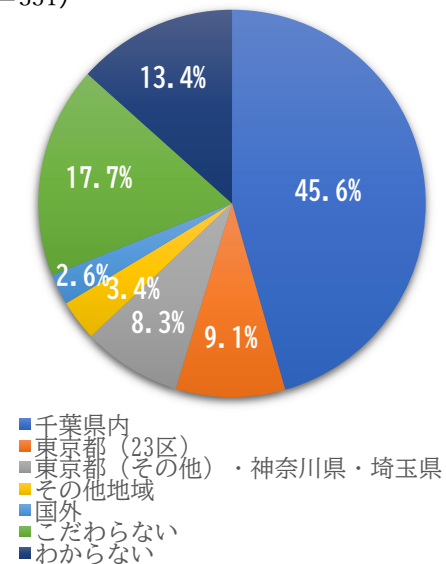
(n = 74)

夷隅地域



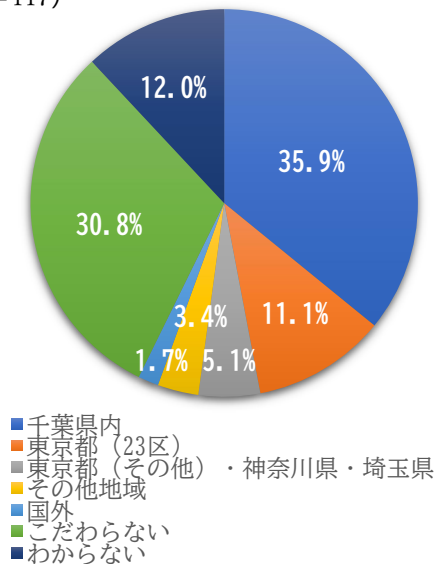
(n = 351)

安房地域



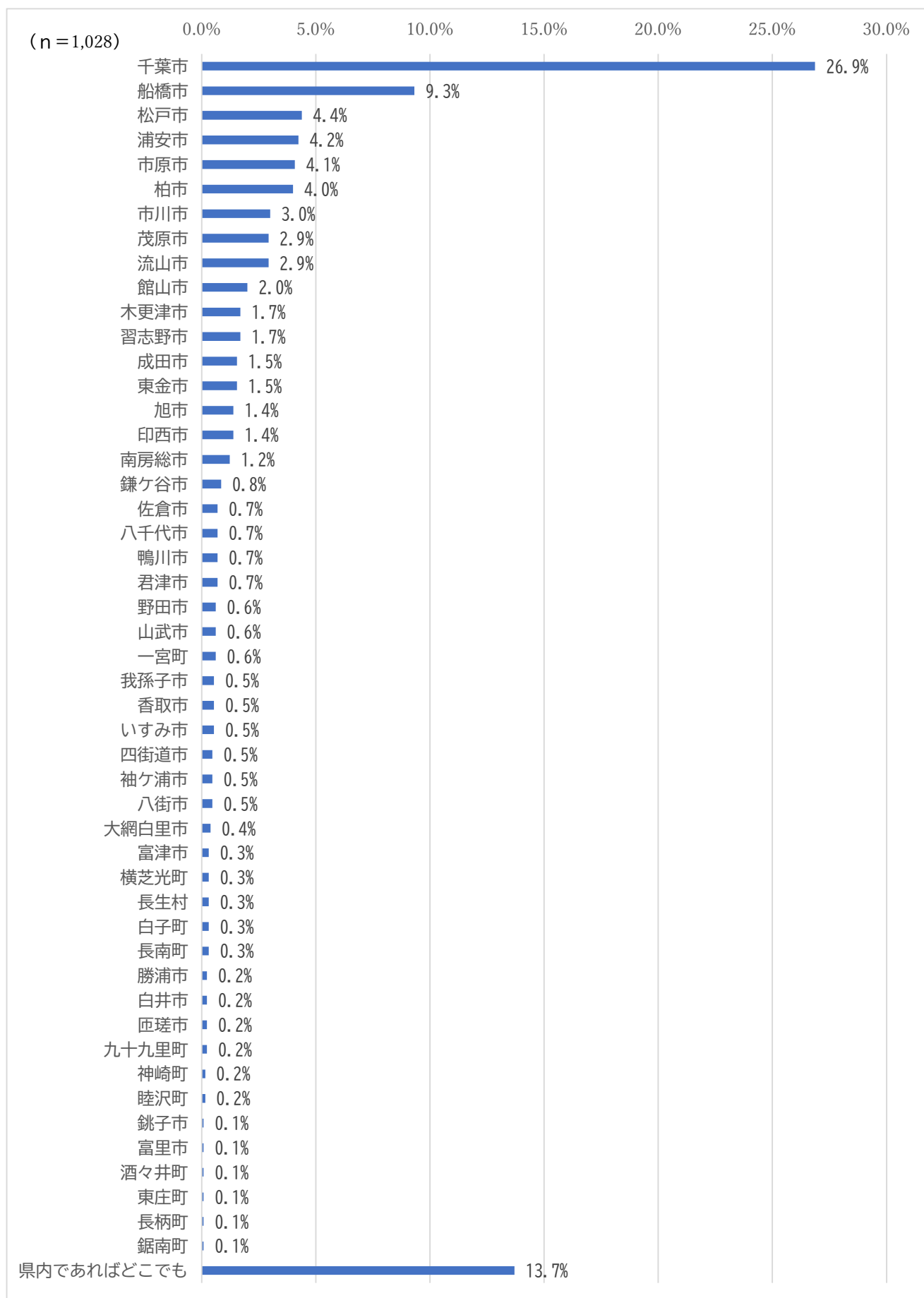
(n = 117)

君津地域



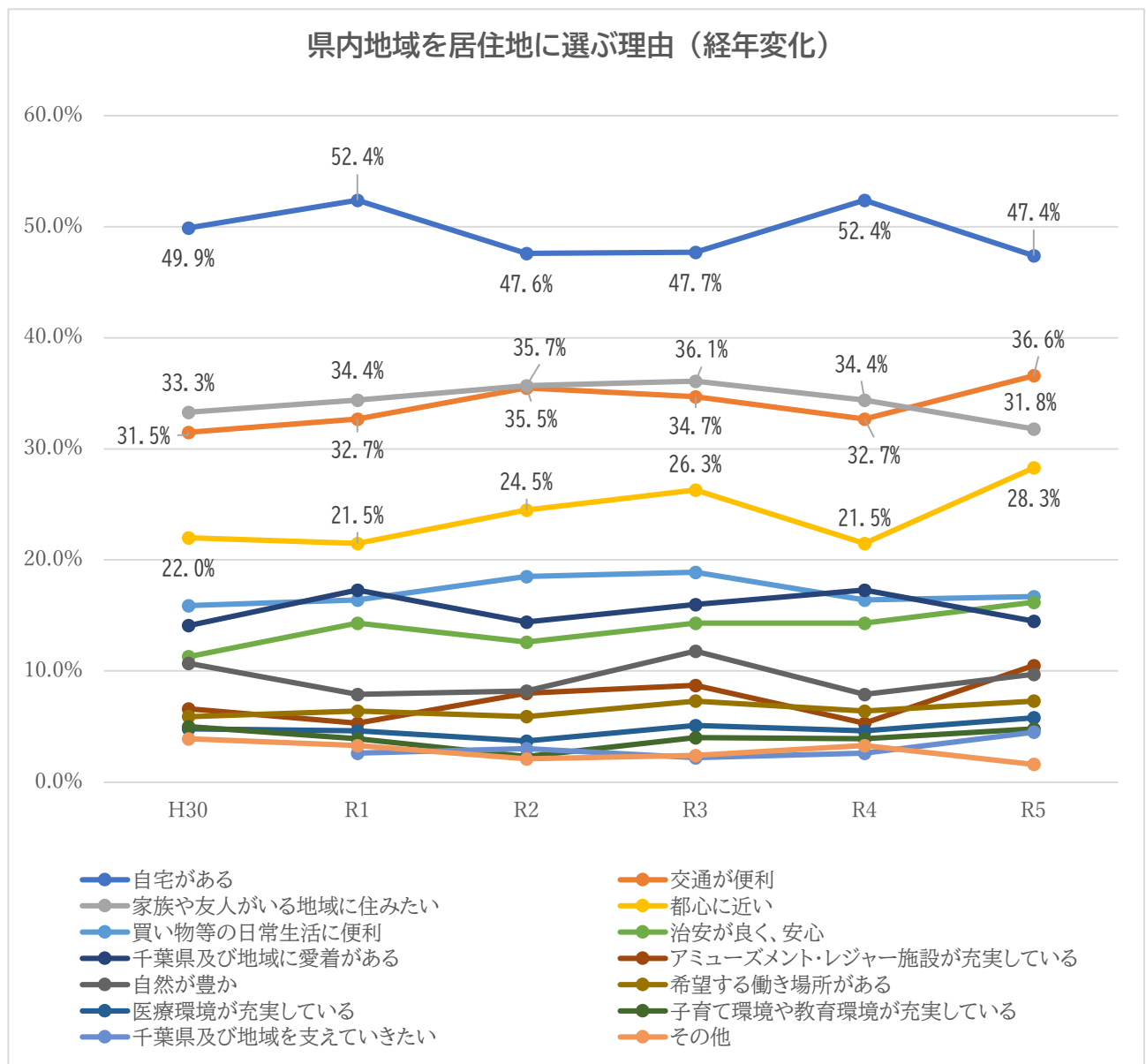
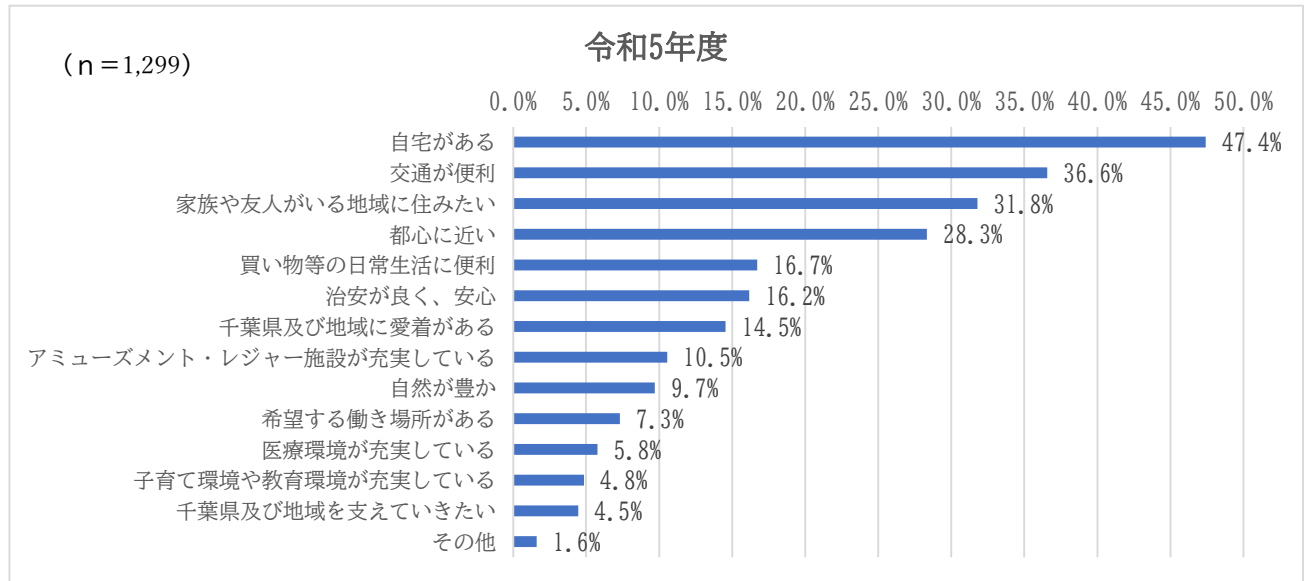
(2) 県内で希望する居住地

就職後の居住地で「千葉県に住みたい」と回答した方について、居住を希望する市町村は「千葉市」、「船橋市」、「松戸市」の順になっている。

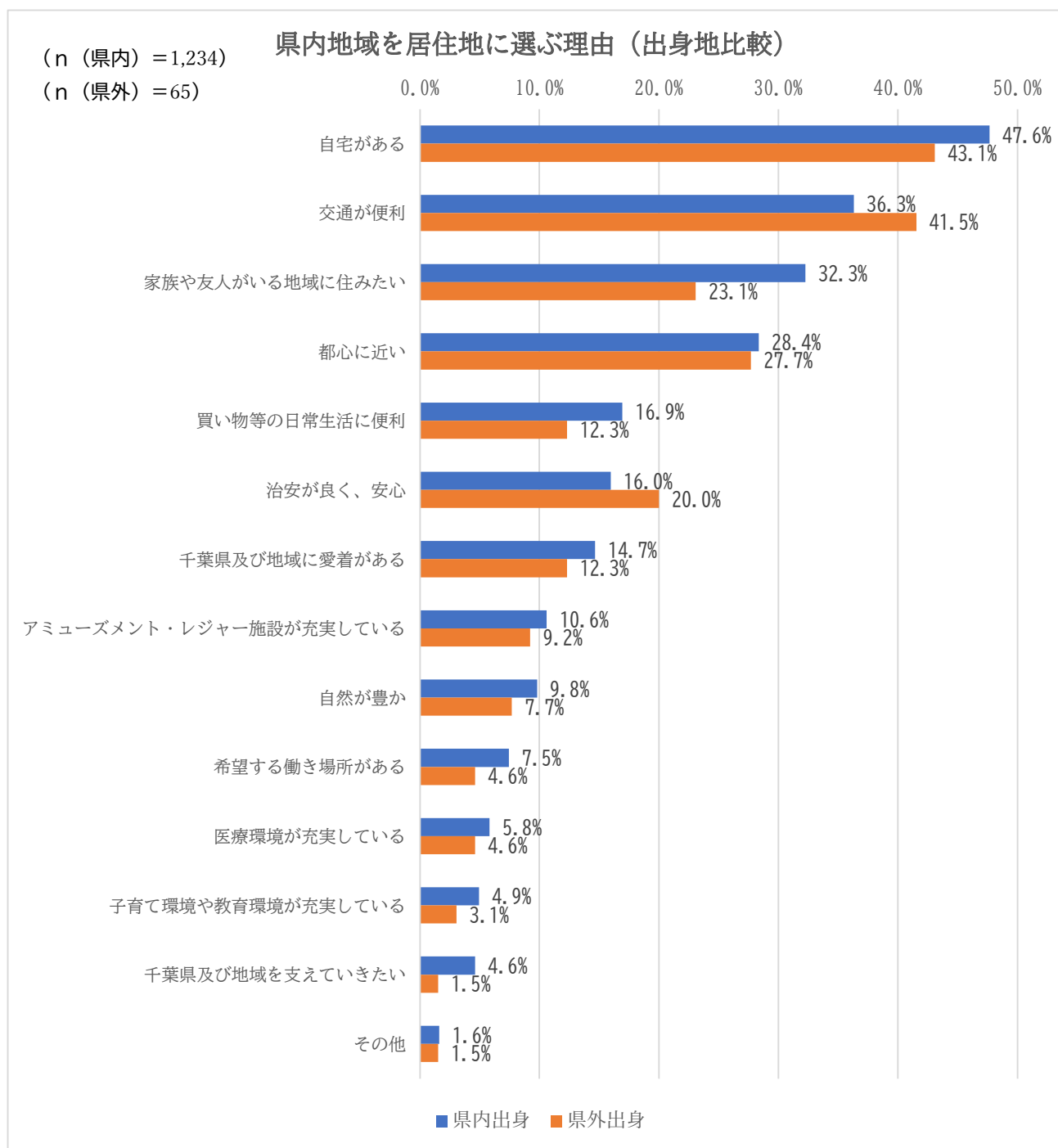


(3) 県内の地域を居住地に選ぶ理由

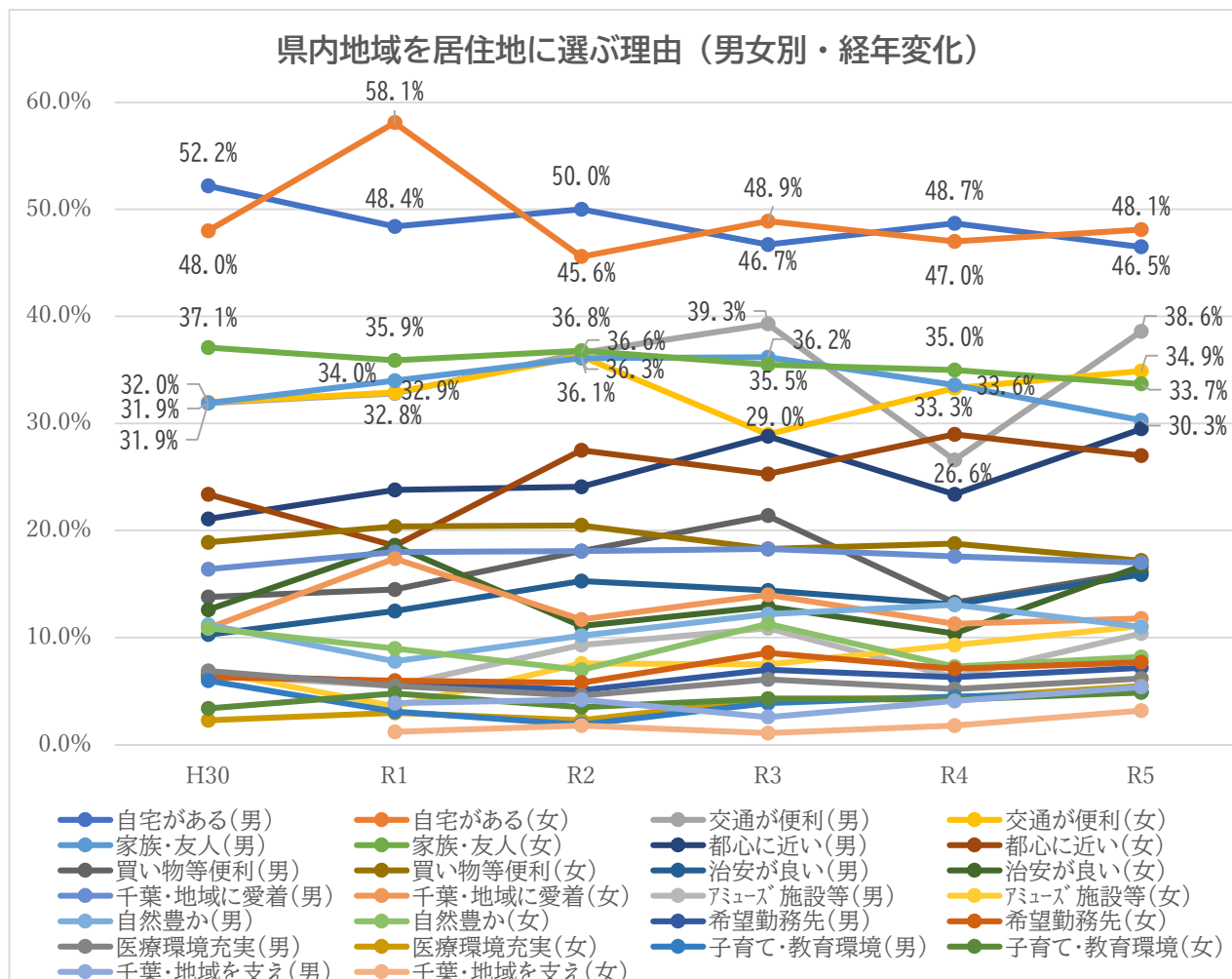
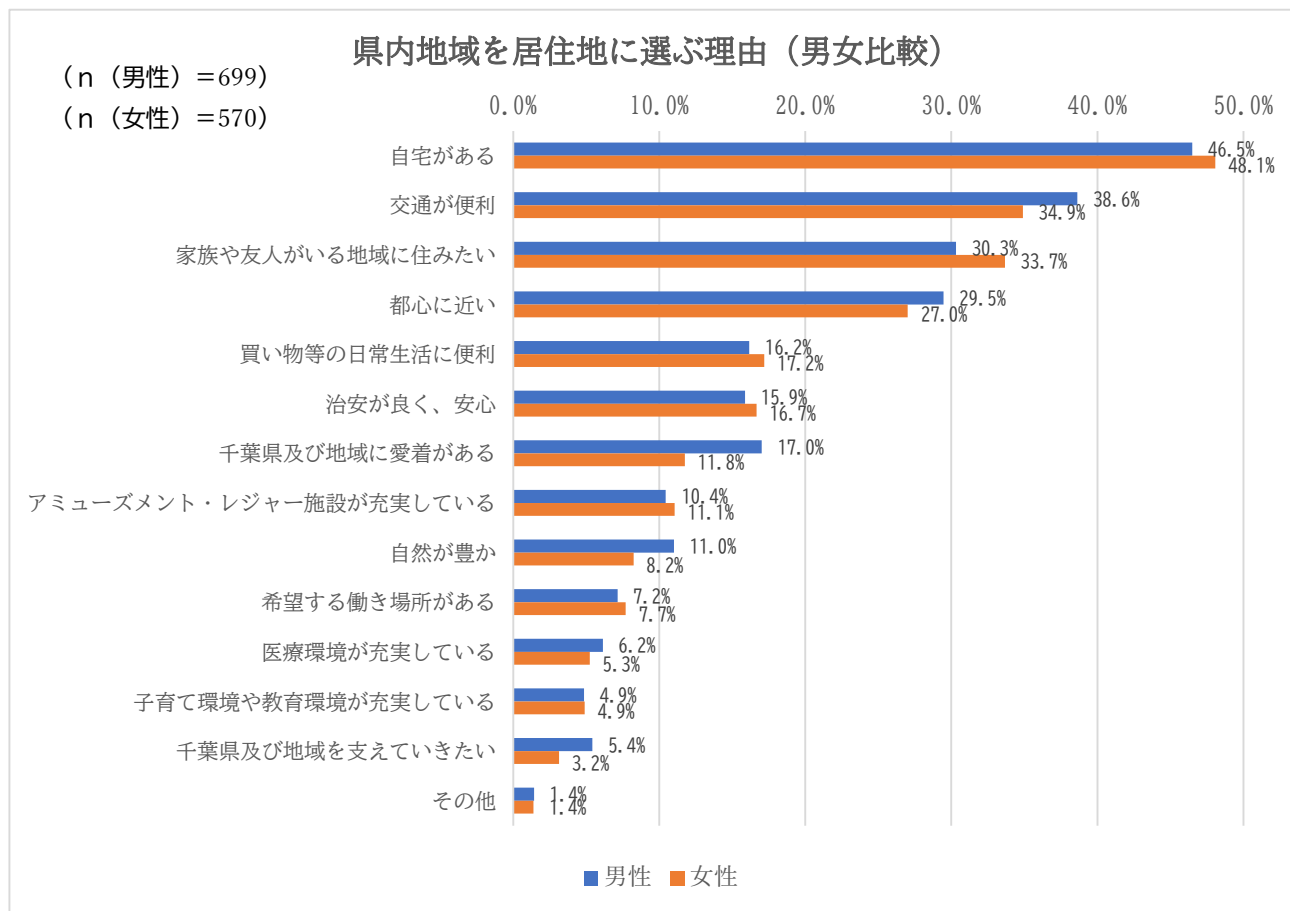
県内地域を居住地に選ぶ理由については、「自宅がある」は 47.4%と昨年度と比べて 5 ポイント大きく減少している一方、「交通が便利」や「都心に近い」などの利便性を挙げている人が多くなっている。



出身地別に見ると、県外出身者では「交通が便利」や「治安が良く安心」を選択する人の割合が多くなっている。ただし、県外出身者でかつ就業後の居住地を「千葉県内」にした人の数が多くないため、留意は必要である。



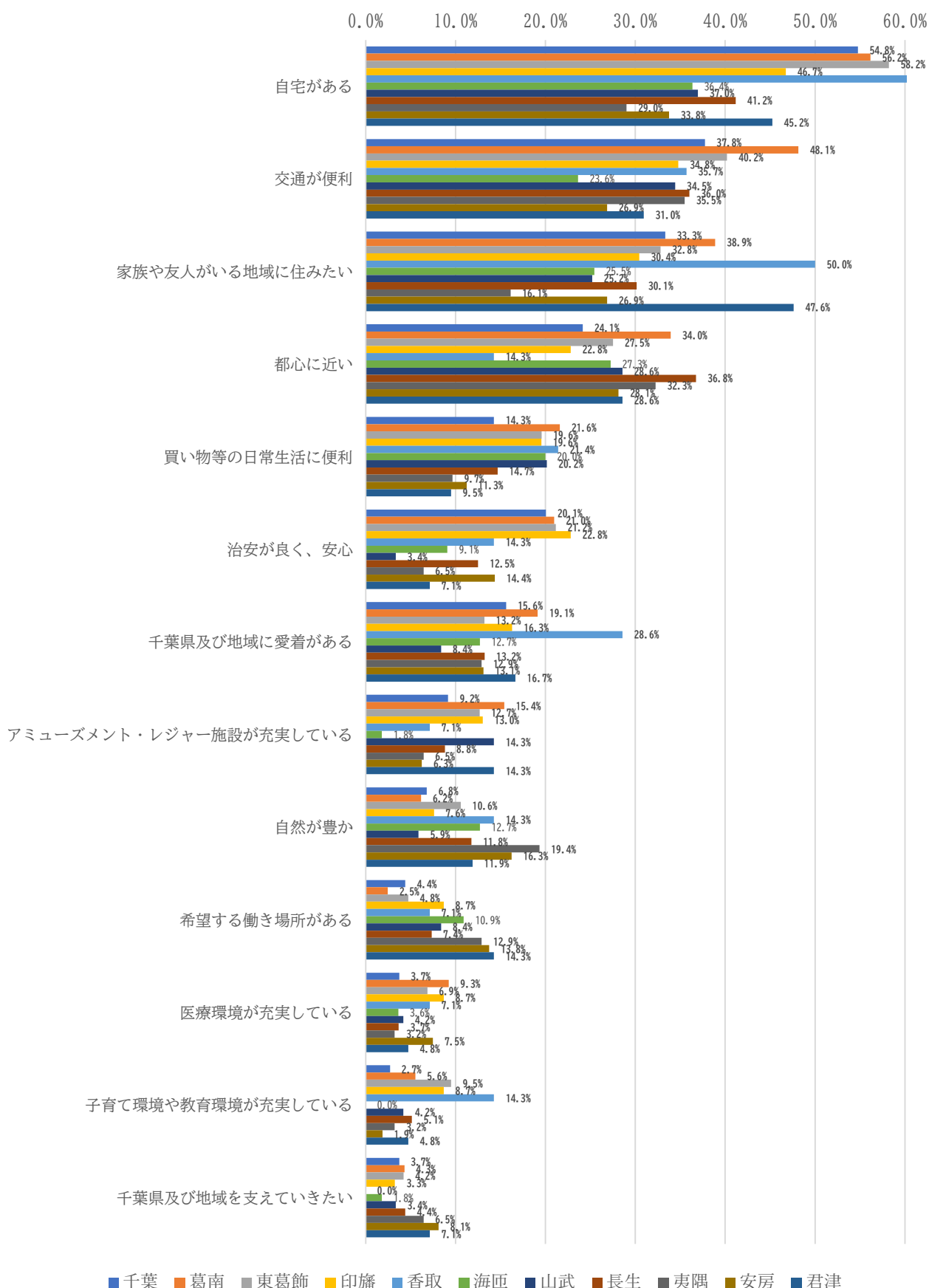
男女別に見たときにも、それほど大きな傾向の違いはない。また、過去の推移を見ても、年度ごとの上下はあるものの、全体的な傾向としては、それほど大きな変化は見られない。



地域別に見ると、「自宅がある」を選択した人の割合が東京に近い地域で多くなっているのに対し、東京から遠い地域では、自宅があるだけで県内居住を選ぶ人の割合が少なくなっている。

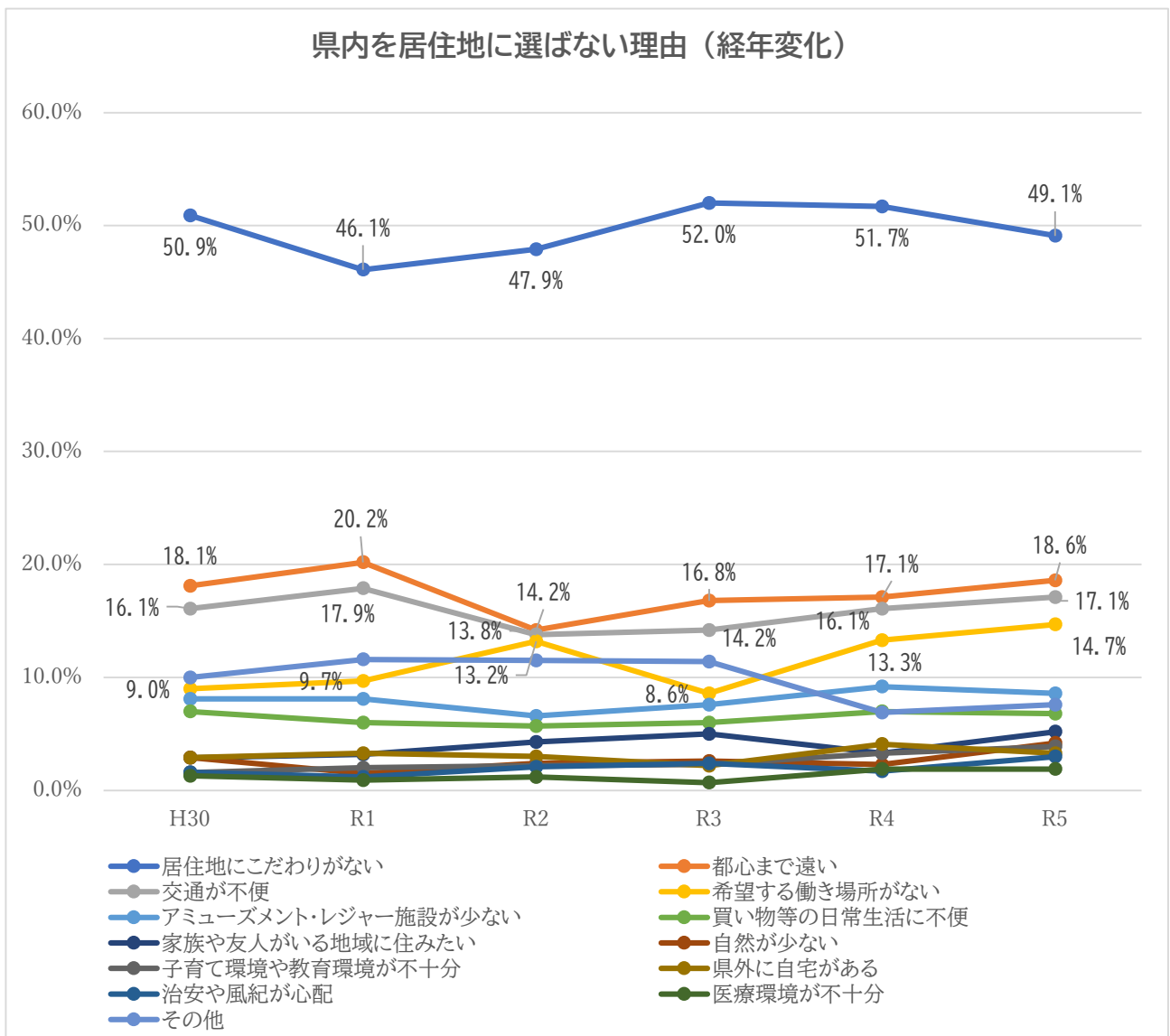
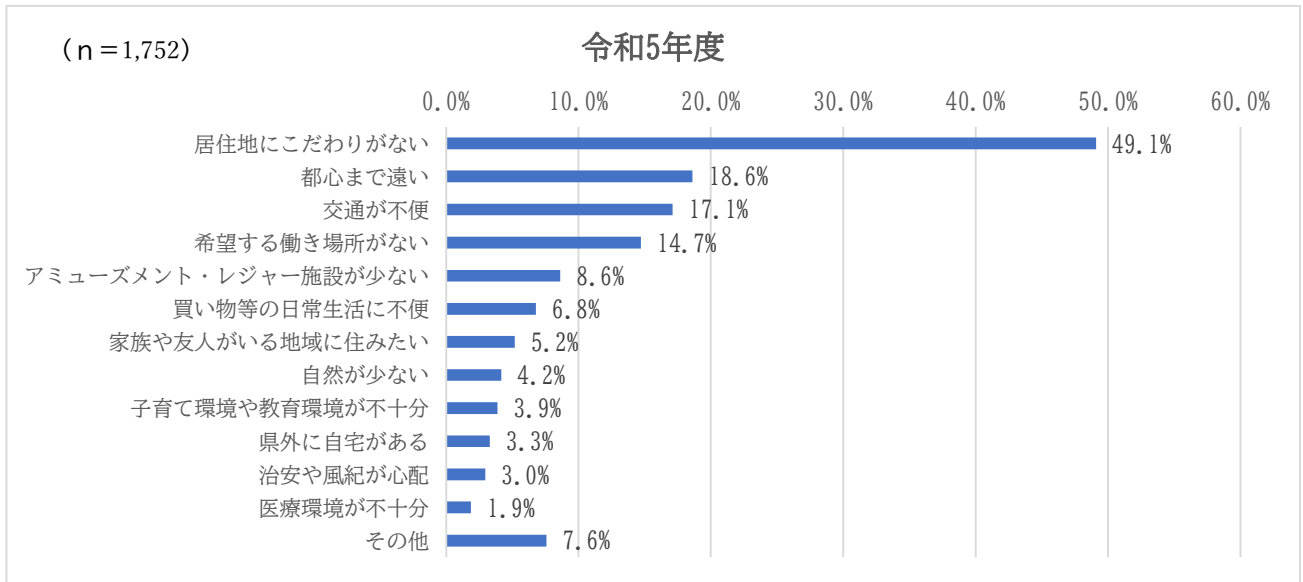
n(千葉) = 294 n(葛南) = 162 n(東葛飾) = 189 n(印旛) = 92 n(香取) = 14 n(海匝) = 55
n(山武) = 119 n(長生) = 136 n(夷隅) = 31 n(安房) = 160 n(君津) = 42

県内地域を居住地に選ぶ理由（地域別の状況）

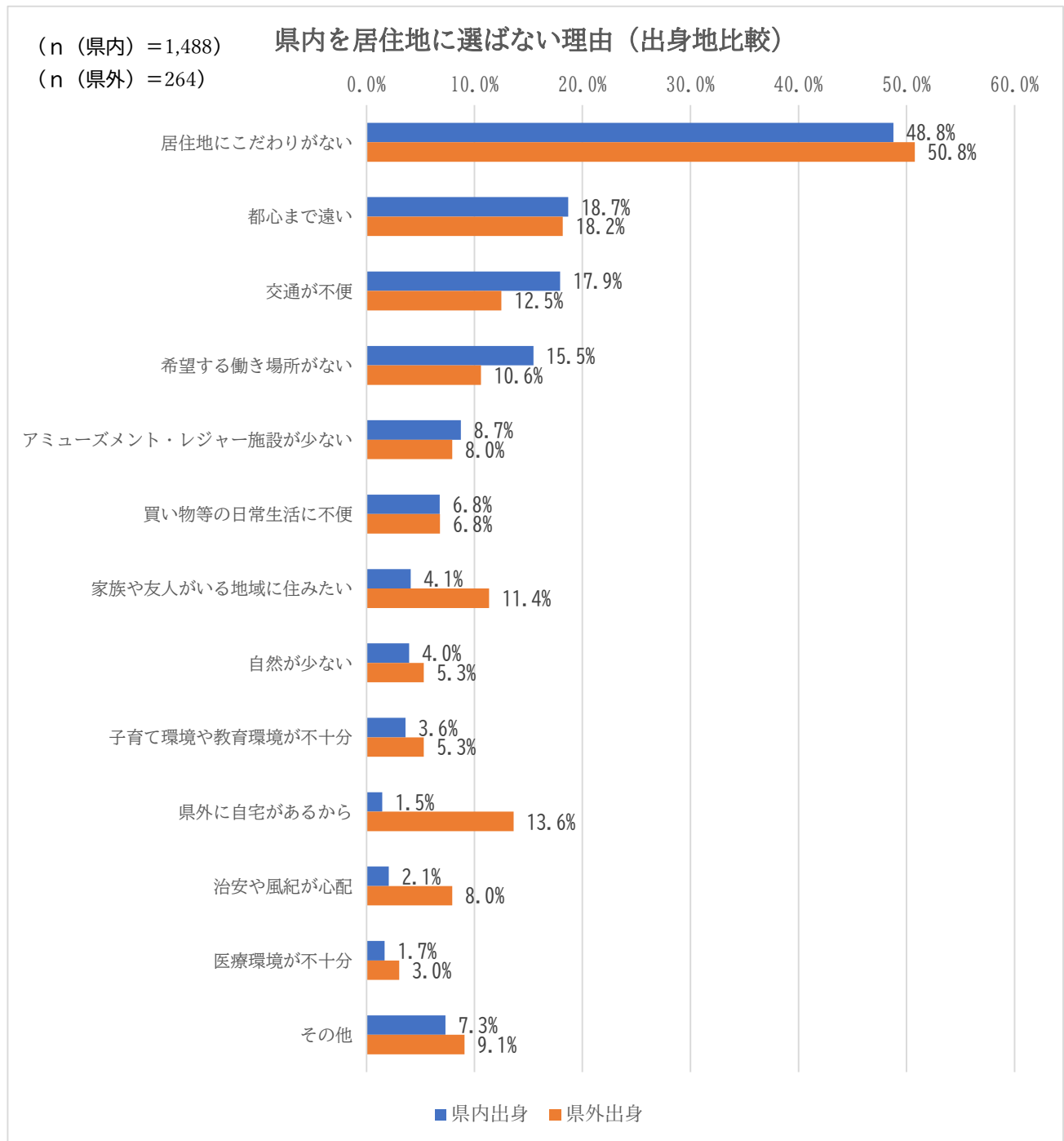


(4) 県内を居住地に選ばない理由

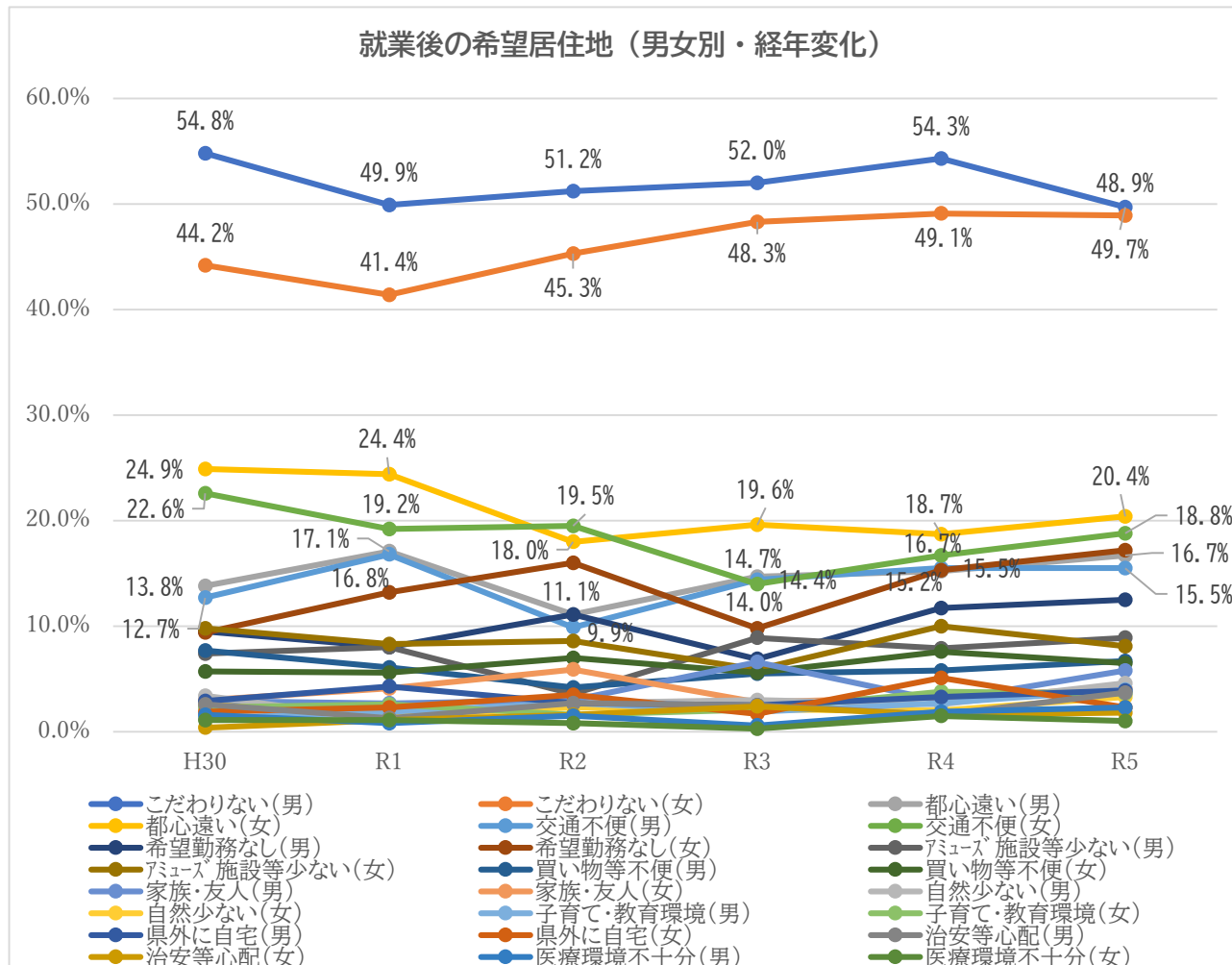
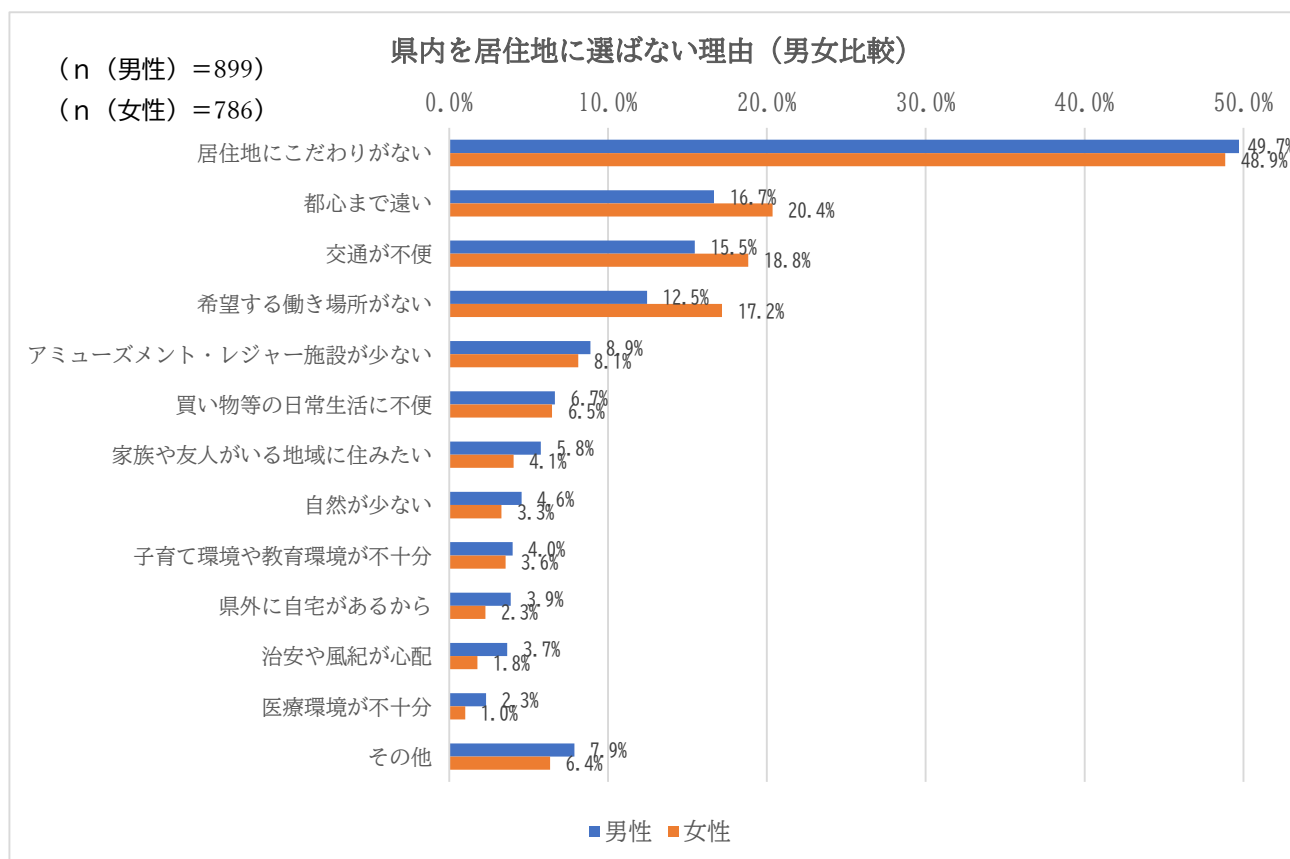
県内を居住地に選ばない理由として、「居住地にこだわりのない」が多くなっているが、もともと、居住地として「こだわりのない」と回答した人が多く含まれていることによる。また、近年の推移としては個別の項目の上下はあるものの、大きな傾向は変わらない。



出身地別にみると、県外出身者では、やはり「県外に自宅があるから」や「家族や友人がいる地域に住みたい」を選択する人が多いが、「治安や風紀が心配」を選択する人も多くなっている。

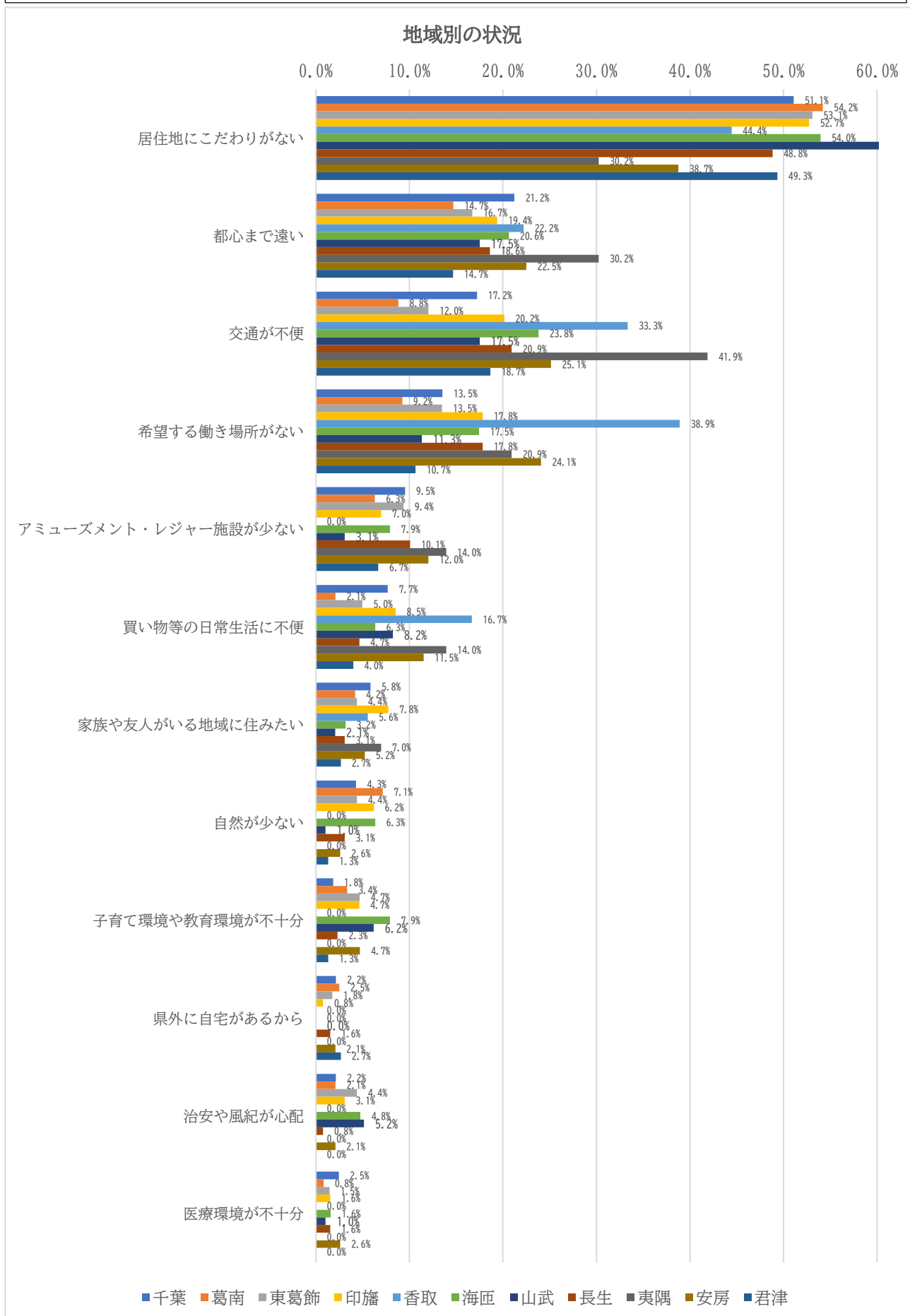


性別で見ると、女性で「都心まで遠い」「交通が不便」「希望する働き場所がない」などを選択する割合が大きくなっている。また、経年変化では、「希望する働き場所がない」を選択した女性が令和3年に大きく減ったあと、再び増加傾向になっている。



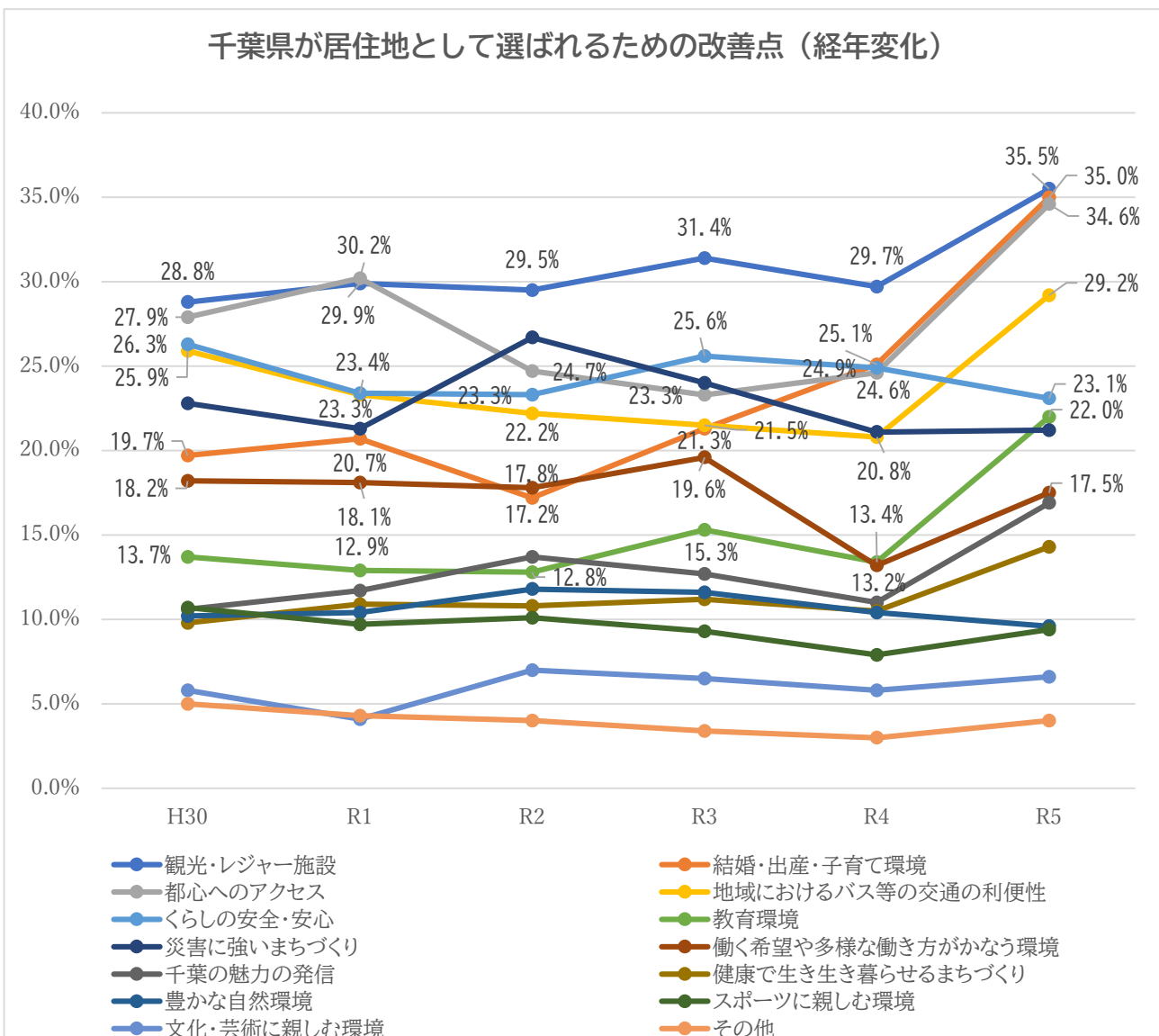
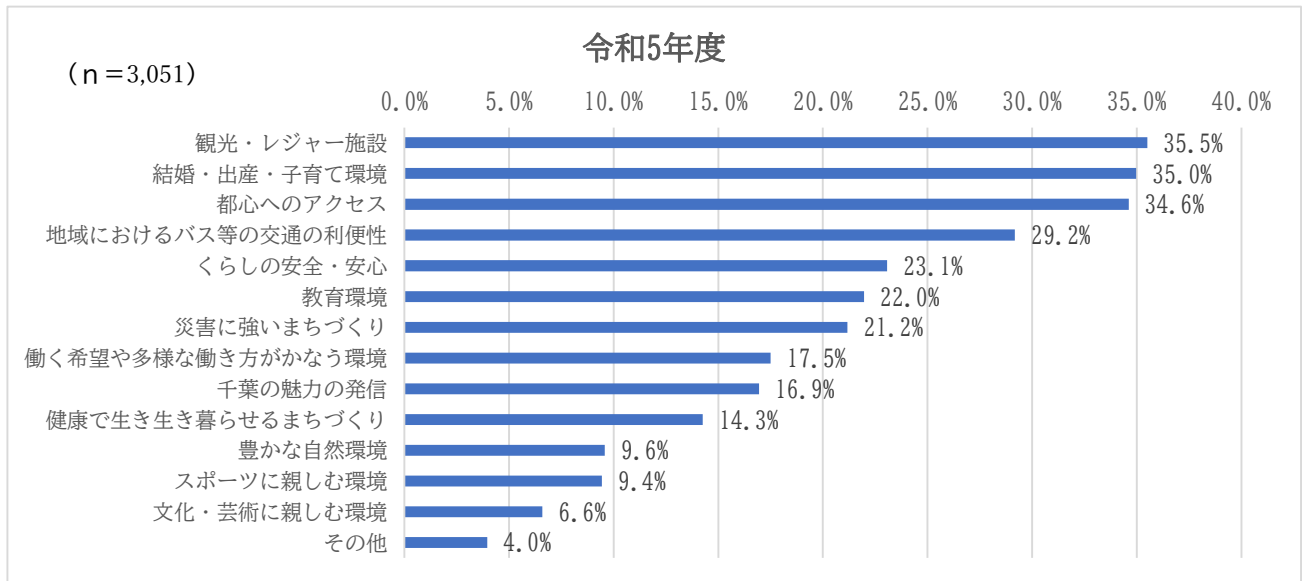
地域別に見ると、夷隅や安房地域で「居住地にこだわりのない」を選択した割合が40%を切っている一方、夷隅では「都心まで遠い」や「交通が不便」を、安房地域では、「希望する働き場がない」を選択した割合が大きくなっている。

n(千葉) = 325 n(葛南) = 238 n(東葛飾) = 341 n(印旛) = 129 n(香取) = 18 n(海匠) = 63
n(山武) = 97 n(長生) = 129 n(夷隅) = 43 n(安房) = 191 n(君津) = 75

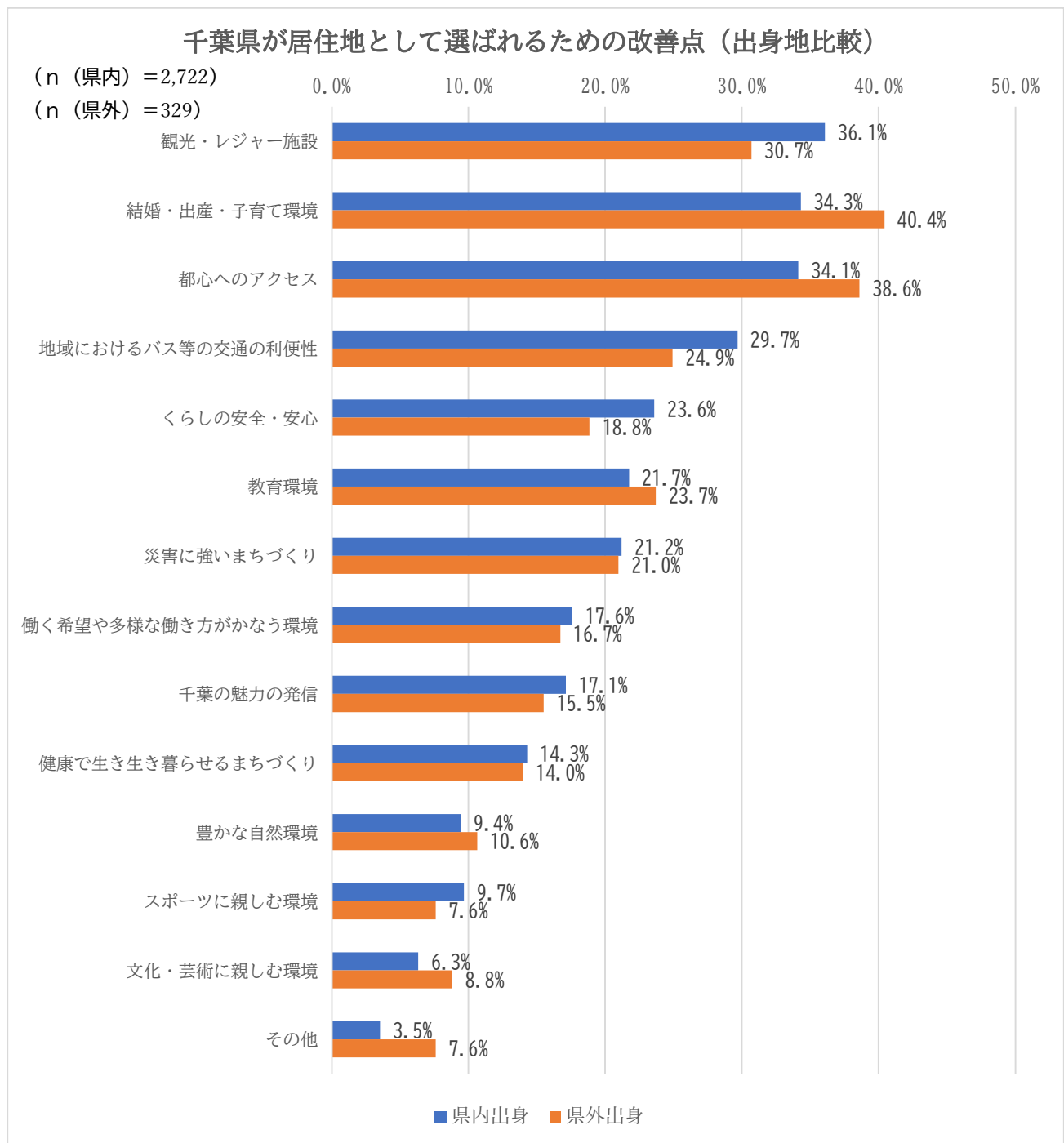


(5) 千葉県が居住地として選ばれるために改善が必要なこと

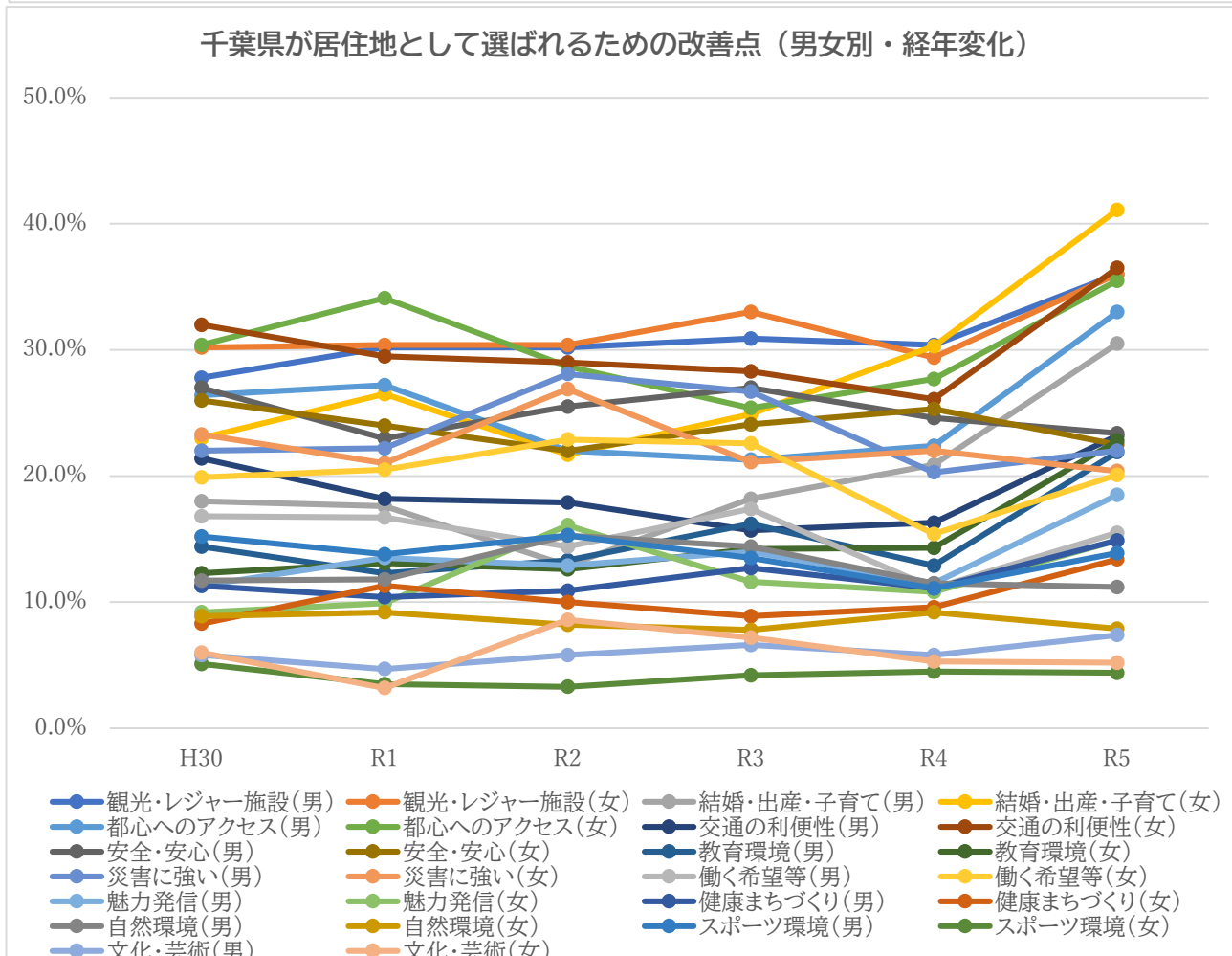
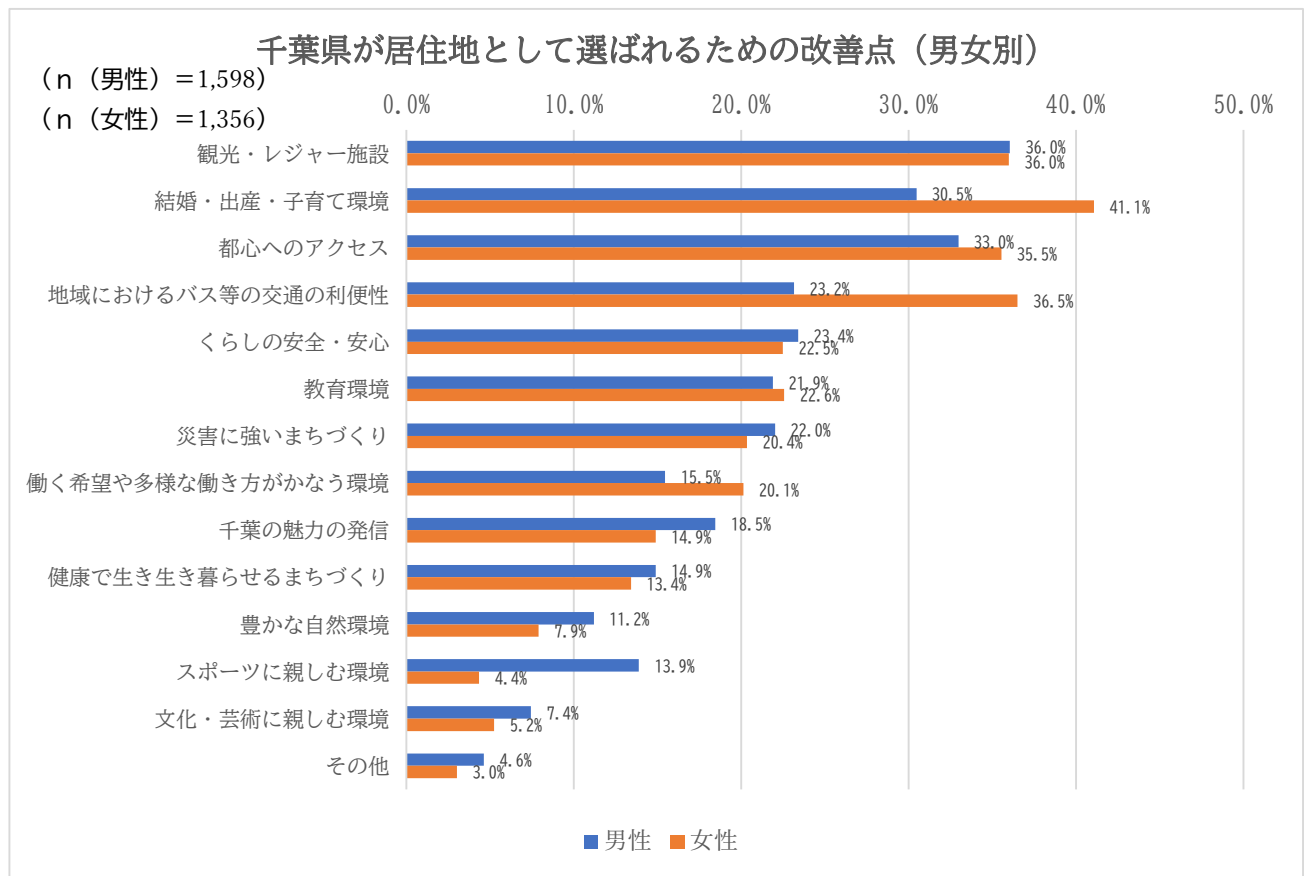
千葉県が居住地として選ばれるために改善が必要なことは、引き続き「観光・レジャー施設」が1位となったが、「結婚・出産・子育て環境」や「都心へのアクセス」、「地域におけるバス等の交通の利便性」、「教育環境」などが昨年度と比べて大きく上昇している。



出身地別に見ると、県外出身者は「結婚・出産・子育て環境」や「都心へのアクセス」、「教育環境」などを選んでいる割合が多くなっている。

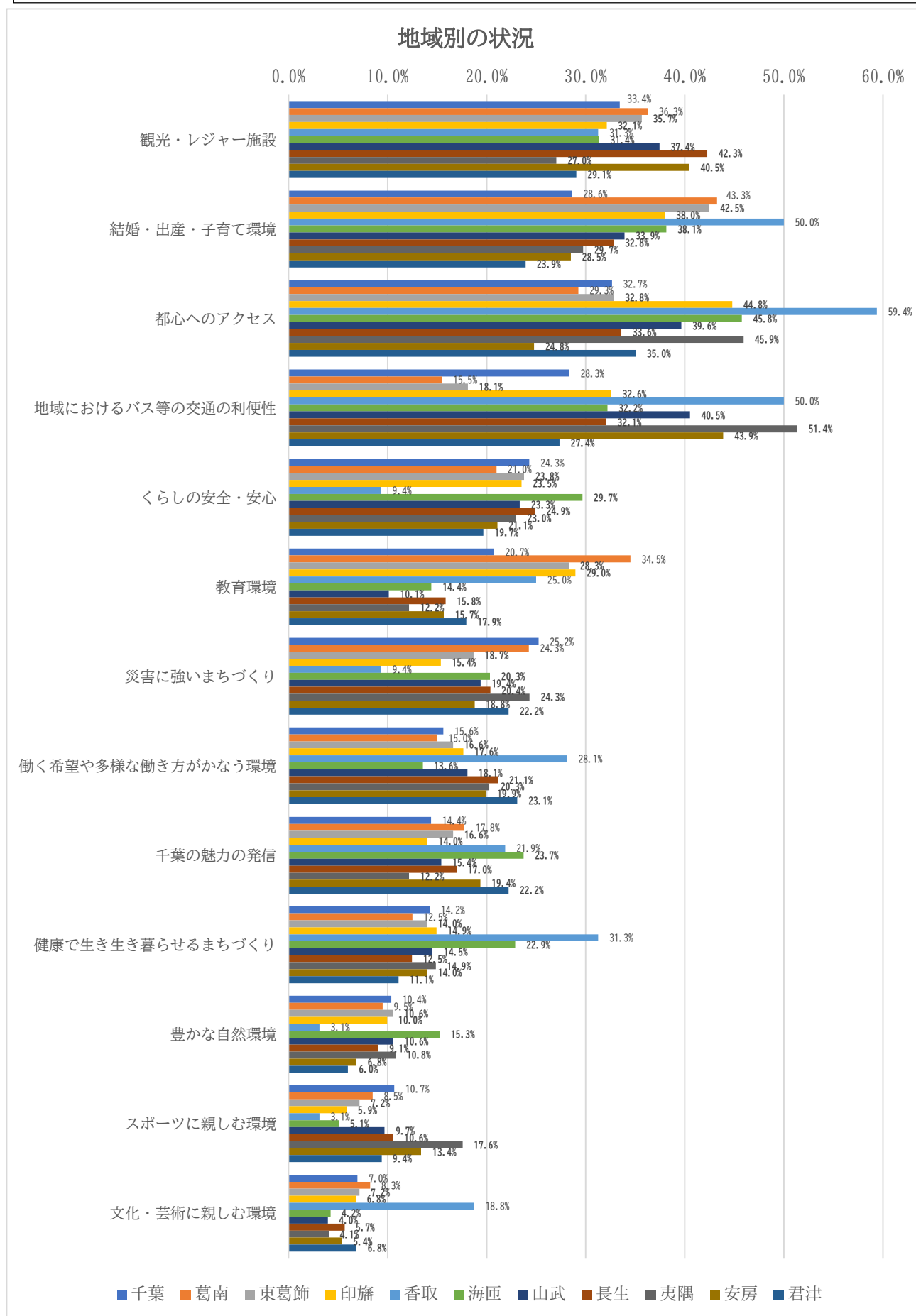


性別で見ると、女性では「結婚・出産・子育て環境」や「地域におけるバス等の交通の利便性」の割合が大きくなっている。経年変化で見ると、「結婚・出産・子育て環境」を選択する女性の割合が近年大きくなっている。



地域別に見ると、東京に近い地域では「教育環境」などの割合が大きくなっている一方、東京から遠い地域では、「地域におけるバス等の交通の利便性」などの割合が大きくなっている。

n(千葉) = 646 n(葛南) = 400 n(東葛飾) = 530 n(印旛) = 221 n(香取) = 32 n(海匝) = 118
n(山武) = 227 n(長生) = 265 n(夷隅) = 74 n(安房) = 351 n(君津) = 117

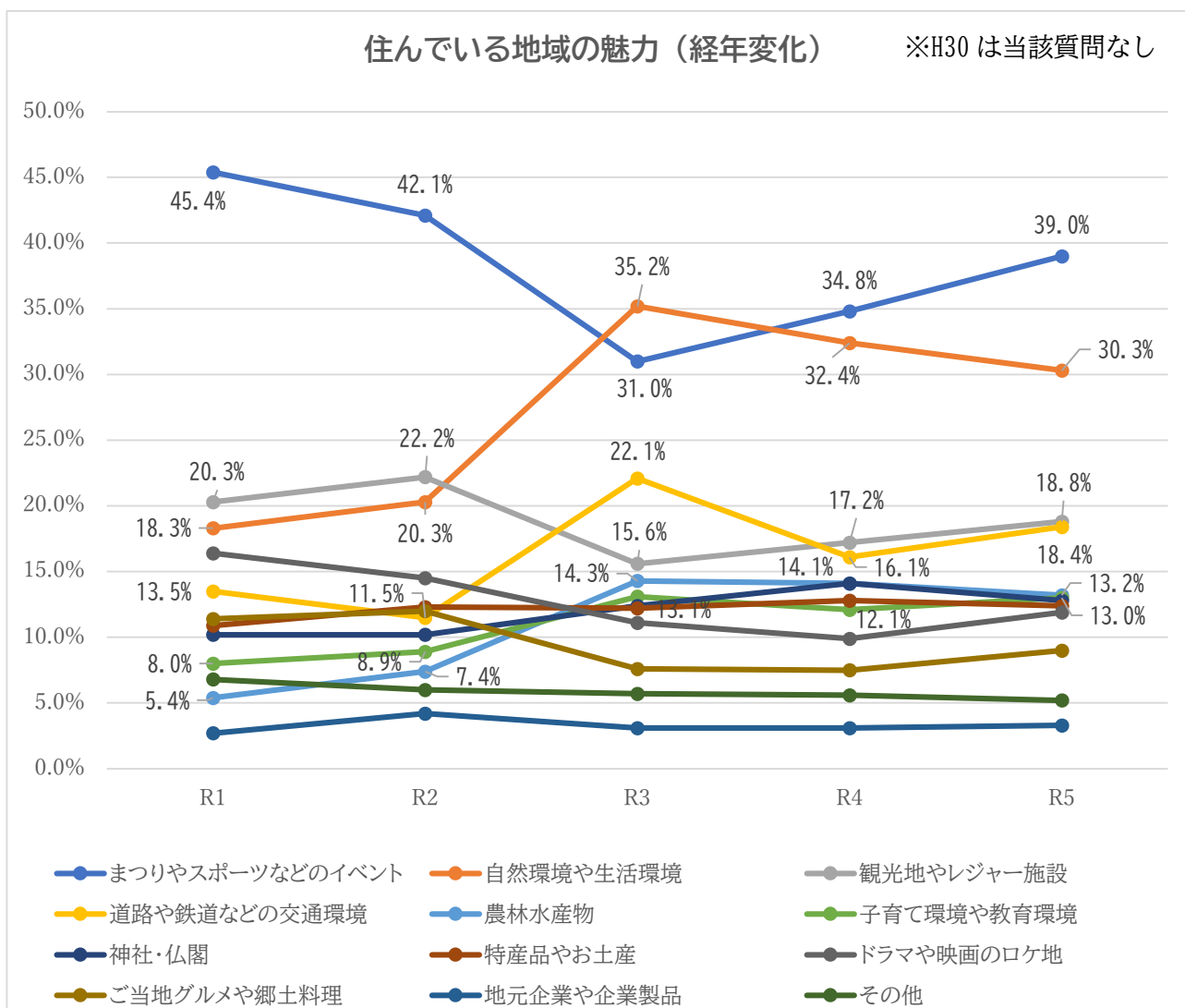
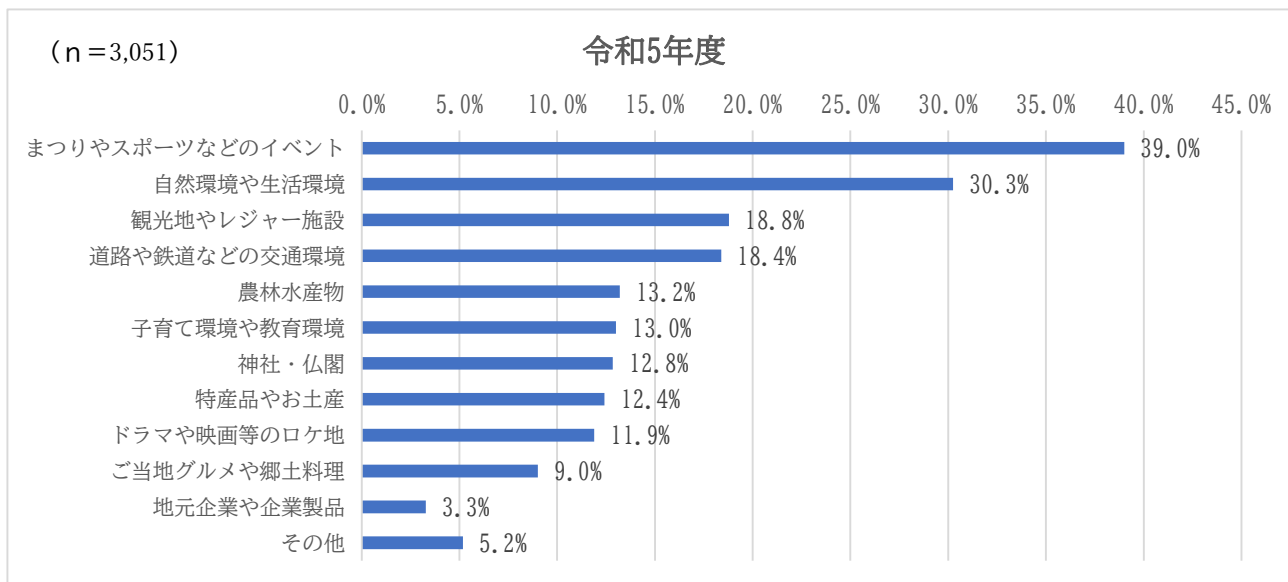


4. 地域の魅力について

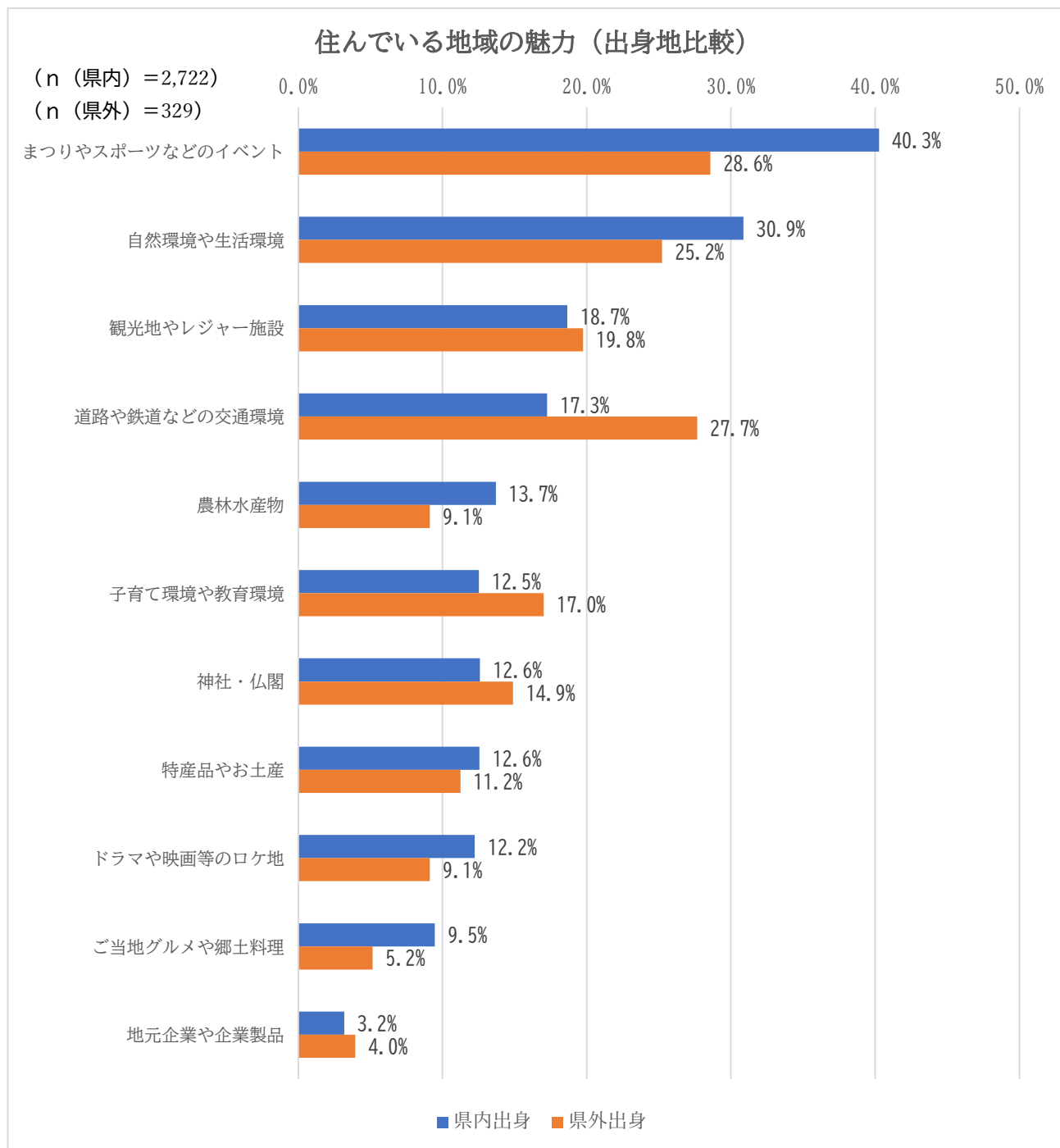
(1) 住んでいる地域の魅力

住んでいる地域の魅力については、「まつりやスポーツなどのイベント」が2年連続で1位となっている。新型コロナウイルスの感染拡大などの影響で様々なイベントが中止となったからか、令和3年に大きく減少したあと、徐々に回復している。

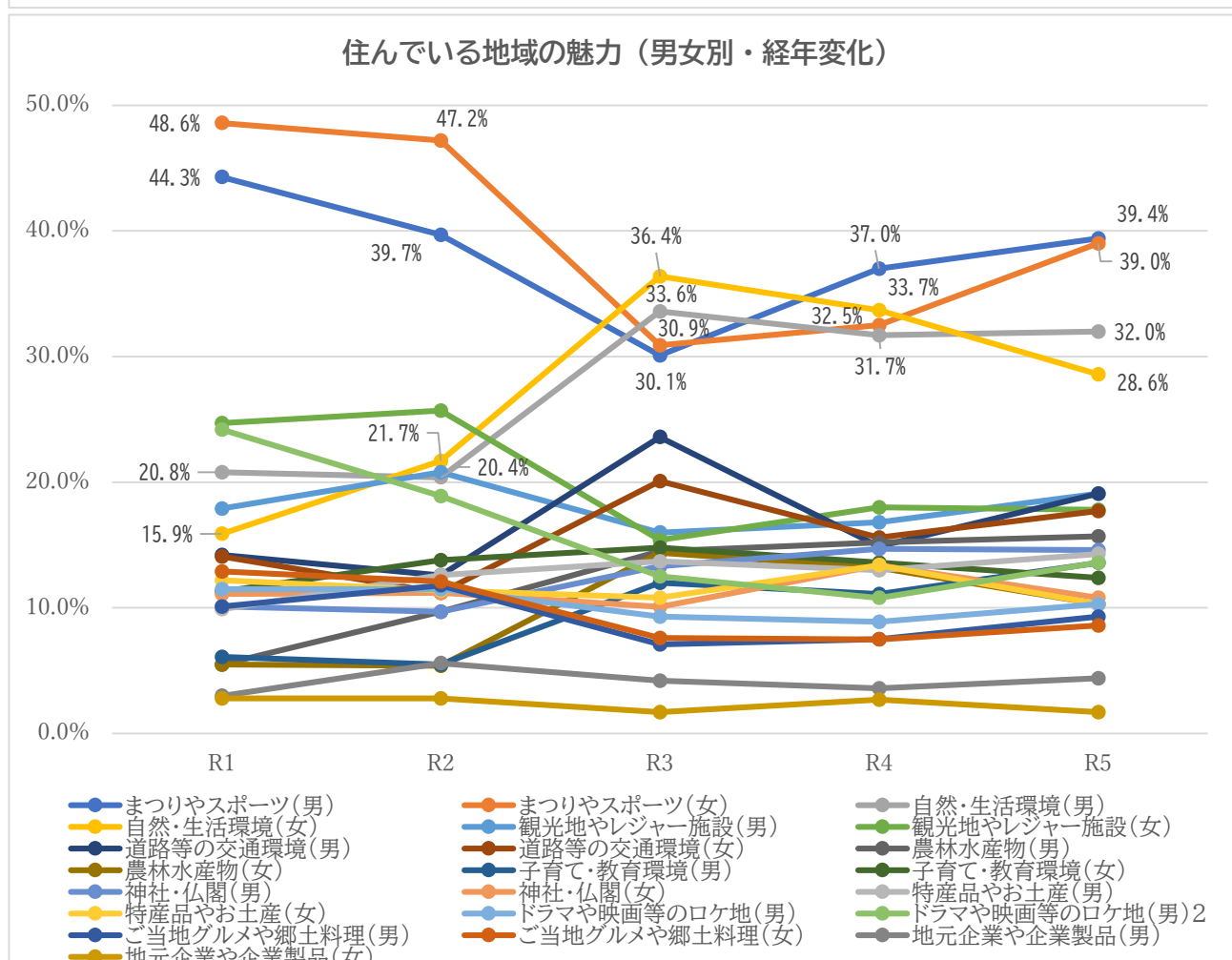
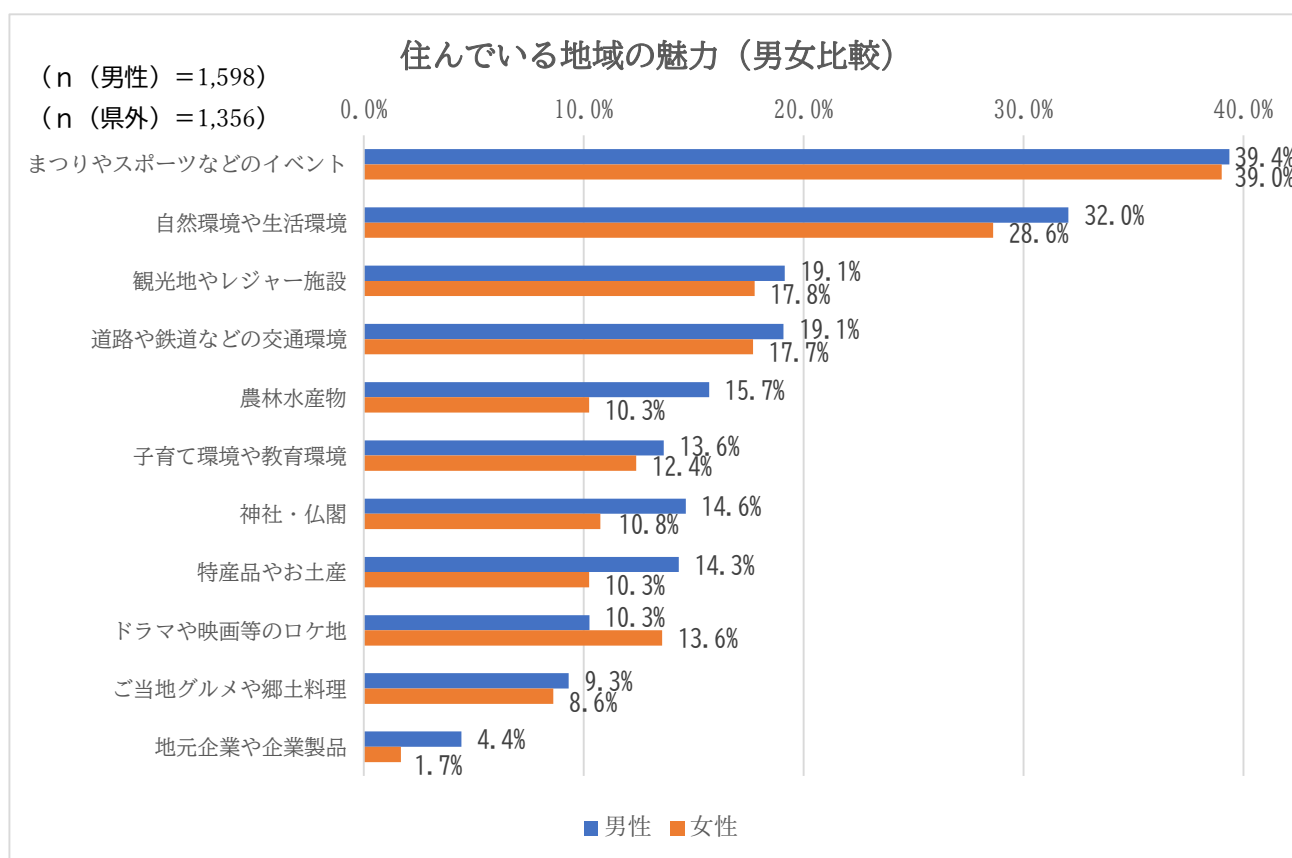
一方、「自然環境や生活環境」は令和3年に大きく上昇したあと徐々に減少している。



出身地別に見ると、県外出身者は「道路や鉄道などの交通環境」の割合が大きくなっている。



性別で見ると、男性では「自然環境や生活環境」や「農林水産物」などの割合が、女性では、「ドラマや映画等のロケ地」の割合が大きくなっている。



地域別に見ると、東京に近い地域は「道路や鉄道などの交通環境」などの、東京から遠い地域では、「農林水産物」や「特産品やお土産」などの割合が大きくなっている。

n(千葉) = 646 n(葛南) = 400 n(東葛飾) = 530 n(印旛) = 221 n(香取) = 32 n(海匝) = 118
n(山武) = 227 n(長生) = 265 n(夷隅) = 74 n(安房) = 351 n(君津) = 117

